原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第9集

# 原の辻遺跡

幡鉾川流域総合整備計画に係る幡鉾川河川改修に伴う緊急発掘調査報告書

上 巻

1998

長崎県教育委員会

原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第9集

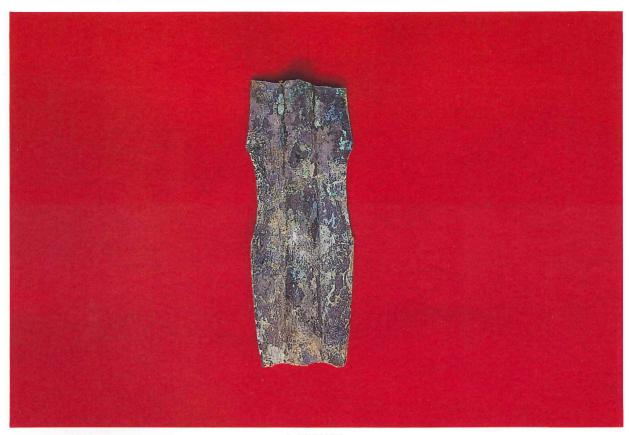
# 原の辻遺跡

幡鉾川流域総合整備計画に係る幡鉾川河川改修に伴う 緊急発掘調査報告書

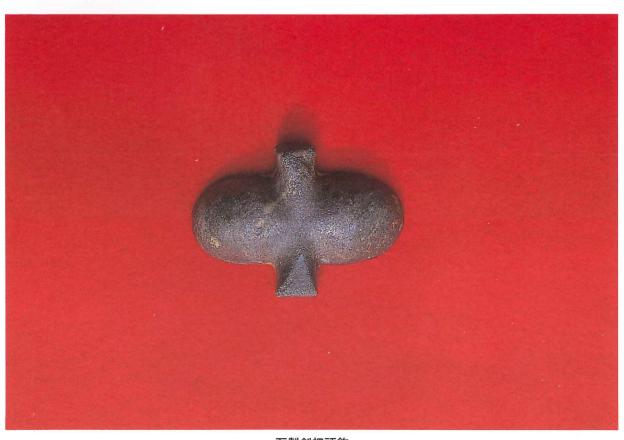
上 巻



原の辻遺跡航空写真(西から)



細形銅剣片



石製剣把頭飾



ココヤシ製笛 (表)



ココヤシ製笛(裏)



漆器 (1号旧河道包含層出土)



漆器(3号旧河道C7区出土)



丹塗台付注口壺 (1号旧河道土器溜出土)



短甲(1号旧河道土器溜出土)

### 発刊にあたって

本書は、幡鉾川流域総合整備計画に係る幡鉾川河川改修工事に伴って、平成6年度 から8年度にかけて実施した原の辻遺跡の緊急発掘調査報告書です。

原の辻遺跡の調査においては、現在の河川敷のなかに弥生時代から古墳時代前期にかけての旧河道が数条確認されました。その中の一つの弥生時代中期の河道からは、日本初例のココヤシ製の笛が出土して話題になったことを御存じの方も多いと思われます。この河道の中からは、おびただしい数の弥生土器に伴って、朝鮮半島系の土器、青銅製の細形銅剣、石製の柄飾、各種の木製品など貴重な品々が出土しました。

原の辻遺跡は、重要遺跡として平成9年9月2日に国の史跡指定を受けました。現 在、遺跡調査整備委員会において遺跡の保存と活用を図り、将来に伝えるための検討 がなされています。

壱岐には、現在全国的に注目されている原の辻遺跡のほかに著名な弥生時代の遺跡として勝本町のカラカミ遺跡、郷ノ浦町の車出遺跡等が知られ、また260基を超える数の古墳があります。県内最長の双六古墳や奈良県の藤ノ木古墳に匹敵する馬具類を出土した笹塚古墳、全国で12番目に長い横穴式石室をもつ鬼の窪古墳など、優れた文化財と歴史資料を保有している島といえます。

これらの豊かな遺跡や文化財を護り、将来に伝えていくのは現在に生きている私達の努めであり、地域住民の方々のご理解とご協力をいただきながら、文化財保護担当 部局と開発部局との綿密な連絡調整を行っていかなければならないと考えています。

今回の原の辻遺跡で行われた発掘調査成果が、学術的資料として活用され、文化財の愛護に役立つことを念じて刊行のあいさつといたします。

平成10年3月31日

長崎県教育委員会教育長 中 川 忠

### 例 言

- 1. 本書は、幡鉾川総合整備計画に係る幡鉾川河川改修工事に伴って、長崎県教育委員会が平成6年 度から平成8年度に実施した原の辻遺跡の発掘調査の報告書である。
- 2. 本書に収録した遺跡は、長崎県壱岐郡芦辺町深江鶴亀触字川原畑および不條に所在する。
- 3. 本書は、当該調査に係る報告書二分冊の内の上巻である。
- 4. 本書の執筆と編集は、宮崎が担当した。
- 5. 原の辻遺跡の自然科学分析については、古環境研究所に委託した。
- 6. 本書関係の出土遺物と図面および写真類は、現在、長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所に保管されている。

## 総 目 次

I. D	京の辻遺	<b>〕</b>					
1.	遺跡の	)立地と環境…			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		1
2.	調査の	)経緯	********			*********	5
3.	遺	構	************				12
付	編	自然科学分析	報告	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	********	45
II.	原の辻遺	l跡(下巻)					
1.	遺	物	***************************************	: ************************************	•		1
2.	まと	Ø	**************				95

## 本 文 目 次 (上巻)

1. 遺跡の立地と環境
2. 調査の経緯
(1) 平成5年度の調査
(2) 平成6年度の調査
(3) 平成7年度の調査・・・・・・・・・・5
(4) 平成8年度の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
3. 遺 構
(1) 平成6年度調査の遺構・・・・・・・・・・・・12
(2) 平成7・8年度調査の遺構
付編 自然科学分析報告 45

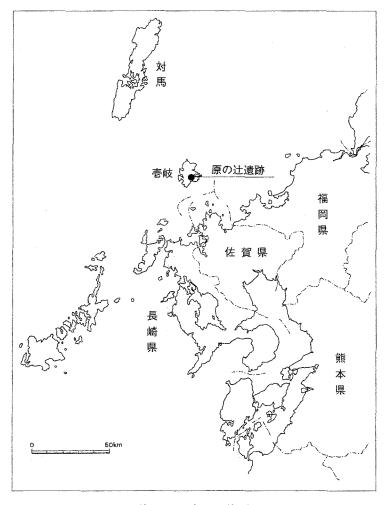
#### 1. 遺跡の立地と環境

壱岐は、玄界灘に浮かぶ南北17km、東西15kmの低平な島である。大陸・朝鮮半島と日本本土を結ぶ 地理的な位置にあって、古来より対馬とともに大陸交渉・交流に重要な役割を果たした島である。ま た、『魏志倭人伝』に記載された「一支国」の比定地として知られている。島という地勢は、完結され た風土・景観であるため、歴史・文化の研究フィールドとしても有効な場所である。ここでは、弥生 時代を中心として壱岐の状況を概観してみたい。

壱岐の弥生時代遺跡は現在60余箇所が知られているが、その内容が明瞭に分かる遺跡は数少ない。 武末純一氏は、1983年に「壱岐・対馬」を論じた文献のなかで壱岐の遺跡の分布状況について3群の グループがあることを指摘した。幡鉾川下流域の原の辻遺跡(芦辺・石田町)を中心とするA群、幡 鉾川上流の戸田遺跡や田ノ上遺跡(郷ノ浦町)など柳田地区を中心とするB群と、刈田院川上流のカ ラカミ遺跡(勝本町)を中心とするC群の三グループである。その後行われた調査によって、車出遺 跡(郷ノ浦町)が田ノ上遺跡とともに群の中心となる遺跡であることが判明してきた。この他に、島 北部にある天ケ原遺跡と丸尾遺跡

(勝本町)などのグループをD群として加えても良いと思われる。しかし, D群は各群の中核となる遺跡を拠点 遺跡と呼ぶとすれば,数が少なくて 貧弱なグループであり,他群の集団 に依存していた可能性が高い。

この遺跡群のなかで、弥生前期に 遺跡が開始されるのが明確になって いるのはA群とC群である。C群の カラカミ遺跡では、1982年から1984 年にかけての調査で弥生前期末の甕 と壺破片が数点出土していて、前期 末には集落が形成され始めたことが 推測される。また近隣の小場遺跡で は、前期末の合口甕棺1基が確認さ れているが、C群ではまだ点的な確 認にとどまっている。しかし、A群 の原の辻遺跡においては、1994年以 降の本格的な調査が行われていて面 的な拡がりがとらえられつつある。

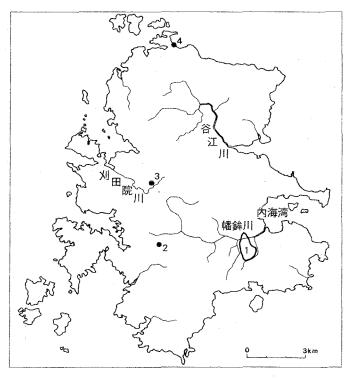


第1図 遺跡の位置

弥生前期後半~末の板付II式の資料が、台地から低地にかけてまとまって出土していて、この段階からいくつかの集団による居住が開始されていることが推定される。また前期末から中期にかけての墓地として石田大原地区とミヤクリ遺跡が確認されている。ミヤクリ遺跡は、弥生前期から中期にかけての墓地で原の辻遺跡の北西部に位置していて、原の辻遺跡の安国寺前A地区から川原畑地区にかけての地域に居住した集団の墓地と推測される。この弥生前期の様相をみると、原の辻遺跡とカラカミ遺跡において拠点集落としての端緒は両者ともに前期後半から末に開始されるが、萌芽段階においてすでに原の辻遺跡の方が規模的に卓越していたことが考えられる。また、両者ともに初期稲作段階の夜臼式や板付I式期ではなく、前期後半期の弥生人によって集落が営まれ始めたことに注目すべきであろう。このことは、壱岐でまだ支石墓が確認されていないことにも関連する事象であろうか。

弥生中期になると、原の辻遺跡とカラカミ遺跡は双方ともに中期前半以降に隆盛期をむかえるが、最近の調査の成果からみていくと、原の辻遺跡は須玖 I 式の段階に環濠を巡らし大集落として整備されたことが推測されるようになってきた。1997年に発見された八反地区の船着場跡も、須玖 I 式段階に建設されて弥生中期段階に使用されたが、後期前葉段階には使われていないことが推測される。環濠の外にある墳墓は、前期から中期中頃を中心とする石田大原地区から、中期後半以降になると後期に継続する大川地区、原の久保A地区の墓域が新たに形成される。B群の車出遺跡では、中期から後期の資料が出土しており、その北側に対峙する手長男神社遺跡の丘頂部では中期の資料が横山順氏によって採集されていて、この段階にB群の居住が開始された可能性が考えられる。同じ幡鉾川流域

にあるとことを考慮すると、A群の 原の辻遺跡から分岐した集団が新た にB群の経営を開始した可能性が考 えられる。また、覩城跡(芦辺町) は1996年の調査で弥生中期の遺構・ 遺物が確認されていて, 原の辻遺跡 の西側台地に立地する鶴田遺跡(石 田町)では1998年の調査で弥生中期 前半期の小児甕棺を主体とする墓地 が確認されている。両者は原の辻遺 跡の周辺集落とその集団の墓地であ ろう。D群の丸尾遺跡では、1996年 の調査で須玖II式の竪穴住居跡が検 出されている。中期の遺跡の動向を みると,人口増加にともなって拠点 集落の周囲に周辺集落が分岐した各 単位集団による農業経営が顕著にな



第2図 原の辻遺跡位置図 1.原の辻遺跡 2.車出遺跡 3.カラカミ遺跡 4.天ケ原遺跡

っていったようである。

原の辻遺跡では、1996年~1998年に行われた現水田部域の圃場整備事業に伴う調査を通じて判明してきたことであるが、弥生中期末から弥生後期初頭ごろに大きな変化が認められることが分かってきた。前期末から中期にかけての時期に丘陵北側から北西側の安国寺A(閨繰)・川原畑・不條・八反地区の低地に居住域が拡がっていたことが調査によって確認されたが、後期初頭ごろに低地部分での居住が放棄されて、後期前葉以後には丘陵部内に居住が限定されてしまうことが明らかになりつつある。周辺にある覩城跡でも、弥生中期に居住がみられるが、後期から古墳時代初頭までにかけては生活の痕跡が認められなくなる。その要因については、海水準の変化による洪水等の自然環境の変化、倭国大乱およびその前段階の戦乱などがあげられる。後期には中期に掘られた濠の再整備と共に新たに濠が設けられて環濠が何重にも巡らされたようで、弥生後期前半段階での緊迫した状況が周辺集落を含めての拠点となる城塞集落への移動を強制したのかもしれない。

後期の遺跡は、C群のカラカミ遺跡を中心として国龍遺跡他、B群の車出遺跡や田ノ上遺跡を中心として山中遺跡・柳田遺跡他など、A群と比較するとB・C群では周辺遺跡が増加して展開しているようである。車出遺跡はこの段階においてB群の拠点集落としての確立したと思えるが、原の辻遺跡との親子に似た帰属関係は維持されていたと思われる。原の辻遺跡では、弥生後期後半期の下大隈式段階において、環濠に遺物の廃棄が行われ濠が埋まっていく様子がみられ、倭国大乱の終息以後の状況を反映したとも想像できる。濠は後期終末から古墳時代前期には埋没したものが多く、布留式段階には埋没した影の上に竪穴住居が設けられるものもみられる。戦乱がおさまって緊張した状況が解消されると、防御のための濠の必要性が無くなると人為的に埋められたのであろう。

原の辻遺跡では、墓域が環濠内に一箇所、環濠外に六箇所確認されている。石田大原地区や原ノ久保B地区では、北部九州系の成人用甕棺が検出されているが箱式石棺墓と共存しており、大川地区他を含めて墳墓の主体となるのは、箱式石棺墓と土壙墓(木棺墓)である。これは壱岐の墳墓が北部九州地域の甕棺主体の墓制でなく、長崎県本土部や佐賀県北部の西北九州地域の墓制と類似したあり方をもつこと示している。また、原の辻遺跡の石田大原・大川・原ノ久保A地区の墳墓では、規矩鏡・獣帯鏡・内行花文鏡などの中国鏡、戦国式銅剣・細形銅剣・銅鉾、および国産の銅釧などの貴重な青銅器や中国製のトンボ玉などが副葬されていて、王族級の有力な集団の墳墓が存在したことが明らかである。カラカミ遺跡では、中国製の方格規矩鏡片1点が出土しているが、C群の拠点集落であってもその内容において首都である原の辻遺跡との格差はぬぐえない。また北端に位置する天ケ原セジョウ神遺跡では、対馬を望む海岸の石祠の下から三本の中広銅鉾が出土している。これは銅鐸研究の春成秀爾氏の考えを増幅すると異国から招来する悪霊や疫病等に対しての境界祭祀であったことが推定されるが、壱岐では広形銅鉾が出土しておらず、百本を超える銅鉾を出土している対馬と比較すると対象的なあり方を示している。倭の境界域にある対馬では、倭人の領域を護るために倭国連合による青銅武器を使った境界祭祀が盛んに行われていたためであろうか。

壱岐では,原の辻遺跡とカラカミ遺跡が代表的な弥生時代遺跡としてとりあげられ比較されること

が多い。前者は,深江田原と呼ばれる沖積地を控えた低い台地に立地して農耕的な色彩が強調されるのに対して,後者は海に近接した比高40mの小高い丘陵に立地していて遺物の構成からも漁撈的な様相が語られることが多い。北西の季節風が厳しい壱岐の風土からいうと,後者が立地からみると壱岐の風土に適合した遺跡であり,前者は風土を度外視して巨大化した都市的な様相をもっている。両者は舶載された青銅器や朝鮮半島系土器など大陸との交流を物語る品々が多く出土しているが,なかでも朝鮮半島の北部までの長水路の航路がひらかれていたことを裏付ける楽浪系土器は壱岐でも二者の出土に限られていて,国際的な「市庭」(バザール)が存在した可能性を示唆している。特に大陸系のハイテク技術をもつ大掛かりな船着場が発見された原の辻遺跡は,大陸との交渉・交流の拠点であって,倭人側からみると北部九州地域や倭国の最前線を望む兵站基地のような遺跡ではなかったかと評価することができよう。

今後も,原の辻遺跡を中心として発掘調査が継続されていくので,壱岐島の豊饒な歴史的情況が明 らかになっていくことが期待される。

#### 註

- (1) 武末純一「壱岐・対馬」 『三世紀の考古学』 下巻 学生社 1983
- (2) 平成9年度の圃場整備事業に伴う調査において、貨泉・方格規矩鏡片・銅鏃・小形仿製鏡などが出土して、豪跡と推定される溝も検出されていて、B群の拠点となる集落であることが明確になった。

#### 2. 調査の経緯

#### (1) 平成5年度の調査

県営幡鉾川流域総合整備計画の実施に伴い、幡鉾川中小河川改修工事が平成5年度から平成10年度まで計画された。その事業に先立って芦辺町教育委員会が、壱岐支庁建設課の委託を受けて遺跡の範囲確認調査を、平成5年10月20日から平成5年11月10日に実施した。津合橋を基点として上下流200mの範囲の河川敷に12箇所の調査壙を設定して、面積88㎡を発掘調査した。その結果、津合橋から上流200m、下流180mの範囲に弥生土器・石器・木器を主体とする弥生時代の遺物包含層が拡がっていることが確認された。ただし、河床となっている部分については、昭和14年の河川改修工事によって掘削を受けており、遺物包含層は認められないことが判明した。遺物包含層が拡がっている範囲については、工事着工前に遺跡の取扱についての協議が必要となった。

#### (2) 平成6年度の調査

平成5年度に実施された芦辺町教育委員会による範囲確認調査の結果に基づいて、関係機関との協議がなされ、平成6年度から緊急発掘調査を実施することになった。平成6年度は、津合橋東側の下流域の河川敷の4000㎡を対象として30mの方眼で区切り、東西軸を東からO~U、南北軸を南から1と100~102の地区に分けて、平成6年11月2日~平成7年3月31日に発掘調査を行った。

その結果,主要な遺構として,弓形に曲がって東西方向の流路をもつ弥生時代の旧河道跡(1号旧河道)が検出された。北側のR101・S101区を中心とした地区では,旧河道の西岸傾斜面に投棄された土器溜が確認され,南側のR100・S100区では河道内に遺物包含層が確認された。遺物は,弥生時代中期後半から後期初頭にかけての土器を主体として,磨石・石鎌・石庖丁・石錘などの石器,鍬・剣状木製品・梯子・漆器などの木製品,管玉,骨角器,獣骨類などコンテナ100箱を超える量の遺物が出土した。

調査の関係者は、以下のとおりである。

調查担当 長崎県教育庁文化課埋蔵文化財班 壱岐教育事務所駐在

係長副島和明(現県文化課係長)

文化財保護主事 町田 利幸(現県文化課主任文化財保護主事)

リ 山下 英明 (現壱岐高校教諭)

ル 川口 洋平

ル 石尾 和貴 (現長崎南高校教諭)

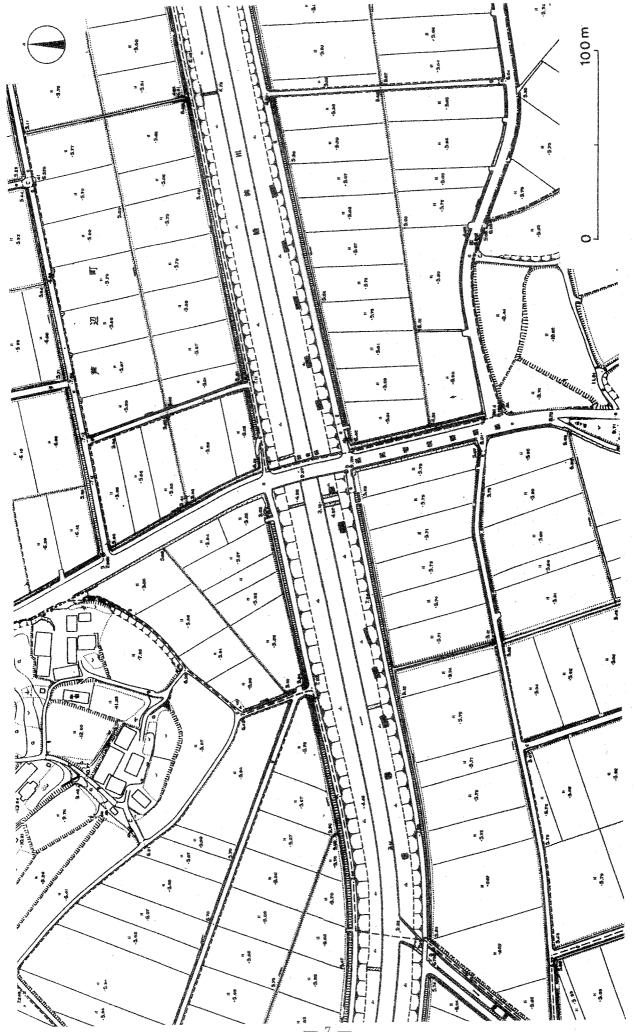
調查協力 芦辺町教育員会 · 石田町教育委員会

#### (3) 平成7年度の調査

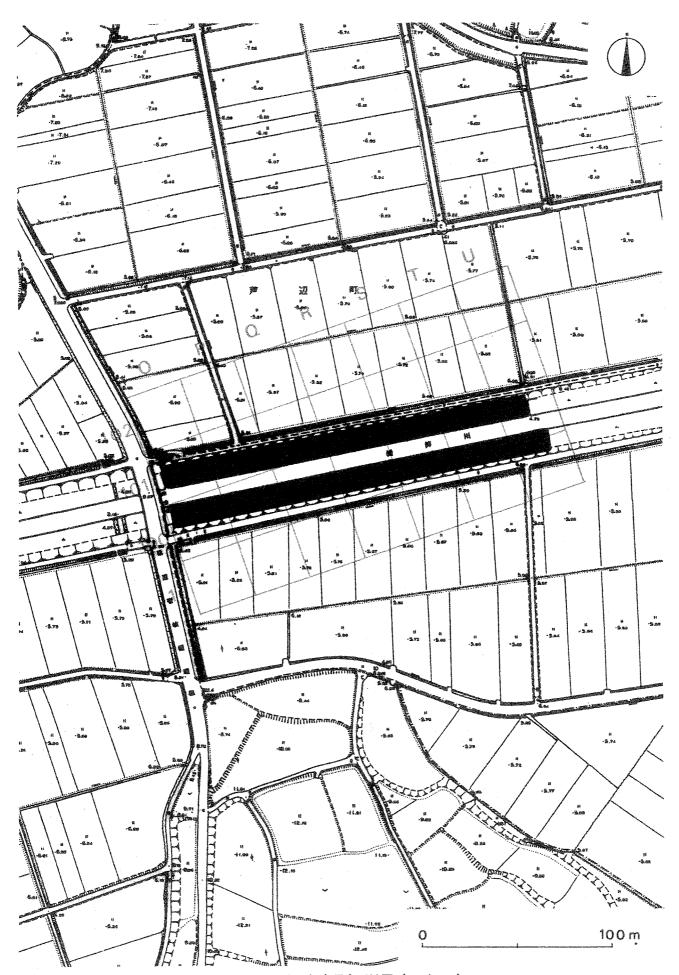
平成7年度は、津合橋西側の上流域の河川敷4942㎡を対象として、当該対象地域を南北軸を北から A~D、東西軸を西から1~12の地区に分けて、緊急発掘調査を行った。平成7年度に工事が行われる北側河川敷から優先して発掘を行い、平成7年12月21日~平成8年3月28日にかけて2532㎡の調査



第3図 調査区位置図 (1/8000)



第4図 平成5年度調査区図(1/2000)



第5回 平成6年度調査区域図(1/2000)

を実施した。調査は、原の辻遺跡調査事務所が主体となって実施したが、一部の期間について県文化 課から調査の支援を得た。

調査の結果,河川敷部分と土堤壁面に弥生時代と昭和14年の河川改修工事によって埋め込まれたことが考えられる幡鉾川のの旧河道跡が検出された。弥生時代の遺構は, $C2\sim4$ ,B8, $A11\cdot12$ , $CD4\cdot5$ , $C7\cdot8$ , $B11\cdot12$ 区で旧河道跡が近世以降の河道に削られた状況で検出され,B7区北壁に断面がU字形の溝 1 条,D1 区南壁とC10区南壁に断面がV字形の濠跡などが確認された。弥生時代と近世以降の河道は,ともにかなり蛇行した河川であったことが分かってきた。

遺物は、コンテナ85箱分が出土したが、特にC2、B8区で弥生時代を主体とする遺物の集中がみられた。最も多い弥生中期を主体とする土器に伴って、玉杓子・槽・建築部材などの木製品や、磨石・石鎌・石庖丁・石剣・扁平磨製石斧などの石器が出土した。なお、C5区付近の河川敷でナウマンゾウの化石骨が発見され、岡山大学の稲田孝司教授に指導をいただいた。

調査の関係者は、以下のとおりである。

調査担当 長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所

係 長 副島 和明 (現県文化課係長)

主任文化財保護主事 宮崎 貴夫 (現原の辻遺跡調査事務所係長)

文化財保護主事 石尾 和貴 (現長崎南高校教諭)

長崎教育庁文化課

課長補佐 田川 肇 (現原の辻遺跡調査事務所長)

係 長 高野 晋司 (現課長補佐)

リ 安楽 勉 (現原の辻遺跡調査事務所課長)

文化財保護主事 甲斐田 彰

文化財調査員 塩塚 浩一

調查協力 芦辺町教育委員会·石田町教育委員会

#### (4) 平成8年度の調査

平成8年度は、津合橋西側の上流域の河川敷4942㎡を対象として、平成7年度において調査完了した2532㎡を除いた2410㎡の区域について平成8年4月8日~平成8年12月13日に発掘を行い、平成6年度から続いた当該緊急発掘調査を完了した。調査は、原の辻遺跡調査事務所が主体となったが、一部の期間について県文化課から調査の支援を受けた。調査の結果、昭和14年の河川改修の際に埋め込まれた近世以降の幡鉾川の旧河道によって削られてはいるが、A11・12区とB11・12区に弥生時代から古墳時代前期の旧河道(2号旧河道)、B8・9とC7・8区に弥生時代前期から中期の旧河道(3号旧河道)、C2~4区とCD4・5区、C6区に弥生時代中期を主体とする旧河道(4号旧河道)が検出された。いずれも旧状は、かなり蛇行した河道であったことが確認された。平成8年度の調査では、コンテナ220箱を超える遺物が出土したが、特にC2、CD5、B8、C7・8、B11・12の旧河道の遺物包含層で、遺物の集中がみられた。B11・12区の2号旧河道では古墳時代前期の布留式土器



第6図 平成7・8年度調査区域図 (1/2000)

を含んでいるが、他の旧河道では弥生前期末から弥生中期を主体とする土器に伴って、磨石・石鎌・石庖丁・石剣・磨製石斧などの石器や各種の木製品が出土した。なかでも、C 7・8 区から B 8 区につながる 3 号旧河道では、建築部材・杵・槽・案・機織具・鎧小札・漆器などの木製品、編かご、ココヤシ製の笛、石製剣把頭飾、朝鮮半島系土器、細形銅剣片などの貴重な遺物が出土した。なお、旧石器時代の遺物として、D 1 区からシカ、C 4 区と B 8 区でナウマンゾウの化石骨が、地山としている粘土層や砂礫層から出土した。 調査の関係者は、以下のとおりである。

調査担当 長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所

係 長 宮崎 貴夫

文化財保護主事 西 信男

長崎県教育庁文化課

係 長 藤田 和裕

文化財保護主事 小松 旭

文化財調查員 塩塚 浩一

東 貴之

調查協力 芦辺町教育委員会·石田町教育委員会

#### 3. 遺 構

#### (1) 平成 6年度調査の遺構

平成6年度調査は、津合橋から下流の河川敷が対象区域であったが、OP101・100区に1条、S101・100区とRS100区に1条の旧河道が確認された。これを、1号旧河道とする。その流路は、QR区付近が空白となるが、西北から南東へ湾曲して曲がり、さらに南西から北東へ伸びてつながっていたことが推測され、かなり蛇行して流れていたことが考えられる。

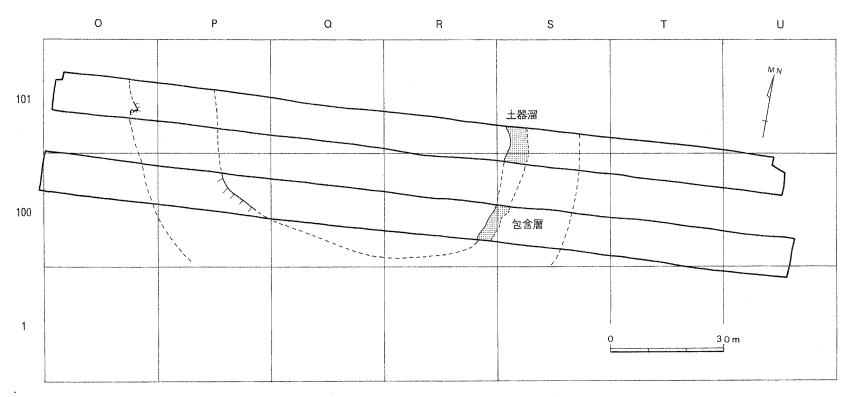
S101・100区では、西から東に傾斜した河岸に弥生土器を主体とする遺物が約5mの幅に帯状に堆積し、それより東側は昭和14年に埋め込まれた河道によって削り取られた状況が捉えられた。この遺構は、弥生中期後半~後期初頭のかけての土器溜と考えられる。遺物は西側から東の傾斜面へ投棄された状況がうかがわれ、なかには丹塗の袋状口縁壷と高杯を据え置いたような状況もみられた(図版4)。包含層は、北壁で厚さ1.3m堆積して、河床面の標高は2.2mを測る。最も多く出土した遺物は、弥生時代中期後半から後期初頭の土器を主体としていて、磨石・凹石・敲石・石鎌・石庖丁・砥石・石剣・磨製石斧・礫器・石錘・碇石などの石器、短甲・剣状木製品・鍬・鋤・鉄斧柄・杵・玉杓子・梯子・椀などの木製品、鯨骨製アワビオコシ・鹿角製戈などの骨角器、人骨頭部片、獣骨類が伴って出土した。

RS100区では、S101・100区につながる旧河道に弥生中期末から後期初頭の土器を主体とする遺物包含層が確認され、磨石・凹石・敲石・石鎌・石庖丁・砥石・石剣・磨製石鏃・磨製石斧・石錘などの石器、横槌・漆器などの木製品が出土した。この河道も、S101・100区と同様に東側が近世以降の河道によって削り取られた状況が捉えられた。遺物包含層は、0.85mの厚さに堆積し、弥生時代の河床面の標高は2.6mである。

#### (2) 平成 7・8年度調査の遺構

平成7・8年度調査は、津合橋から上流の河川敷が対象区域であったが、弥生時代~古墳時代前期に遺構として、土提の壁面に濠2条、溝1条と、河川敷に3条の旧河道が検出された。濠跡は、D1区の南壁に1号濠が、C10区の南壁に2号濠が確認された。1号濠は、断面形は逆台形状をなし、幅1.9m、深さ1.5mを測る。当区の南側の水田部分にため池が造成されるに先立って、平成9年度に緊急発掘調査が実施された結果、南に伸びて新たに確認された旧河道につながっていることが明らかになった。この濠跡からは、須玖II式土器が出土していて弥生中期後半段階の濠であったことが判明した。なお、このため池部分の調査で確認された旧河道は、平成8年度に実施された芦辺町教育委員会の範囲確認調査の成果と合わせると、当該地区の3号旧河道につながることが推測される。2号濠は、断面がV字形をなし、幅2.8m、深さ0.8mを測る。出土遺物はなかったが、断面の形状から弥生後期の可能性が高いと推測される。B7区の北壁には、1号溝が確認された。断面が幅広のU字形をなし、幅3.3m、深さ1mを測る。出土遺物は無く、時期・性格については明確でない。

2号旧河道は、C11・12区からA11・12区つながる河道で、河幅はC11・12区で約30mを測る。1

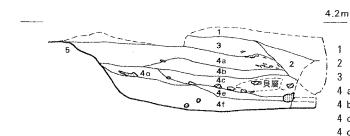


第7図 平成7年度調査1号旧河道(1/1000)

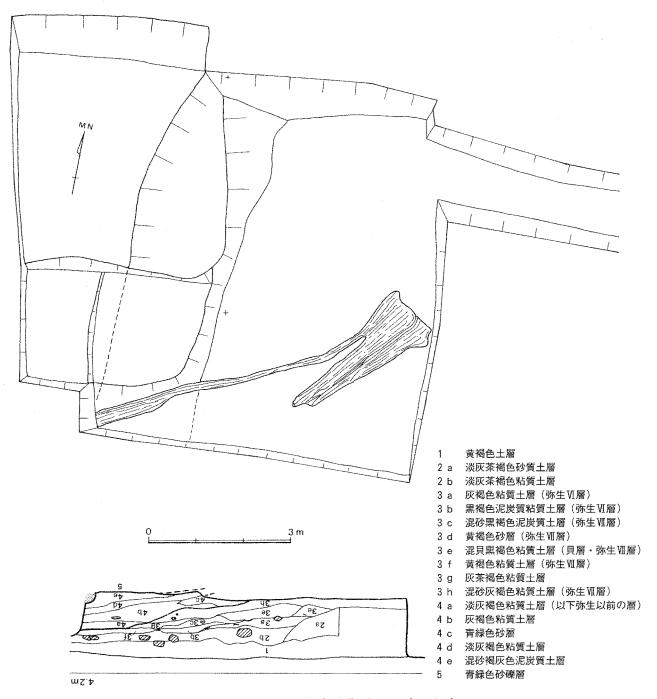
mから1.7mの厚さに遺物包含層があり、河床面は標高2.8m~3.4mを測る。出土遺物は、弥生前期末から古墳時代前期の布留式までの土器が出土していて、長期間にわたって流れていた河道と推測される。

3号旧河道は、C 7・8区からB 8・9区につながる河道で、東側は近世以降の河道によって削られていた。遺物包含層は、厚さ1mに堆積し、C 7・8区南壁で測ると幅20mほどが残っていて、河床面は標高3m前後である。弥生前期末から弥生中期中頃の土器に伴って、磨石・敲石・砥石・石鎌・石庖丁・磨製石斧・石製把頭飾・石剣・磨製石鏃・石錐・石錘・碇石・石器の素材と未製品などの石器、杵・槽・案・建築部材・機織具・鎧小札・漆器などの木製品、編かご、ココヤシ製笛、細形銅剣片、朝鮮半島系土器、人骨頭部片、サルノコシカケなどの遺物が出土した。4号旧河道は、C 2・3・4区からCD 4・5区、C 6区へとつながる河道で、近世以降の河道によって削られているが、CD 4・5区が西岸で、C 6区が東岸であると仮定すれば幅15mを測ることになる。河床面の標高は、C 2区で2.8m、CD 4・5区で3mを測り、遺物包含層は、C 2区で1.1m、CD 4・5区で0.7mの厚さに堆積している。遺物は、弥生前期末~弥生中期後半の土器を主体としていて、磨石・敲石・砥石・石鎌・石庖丁・磨製石斧・石剣・石器の素材と未製品などの石器、案・漆椀・建築部材などの木製品が出土した。

第8図 1号旧河道土器溜出土状況 (1/40)

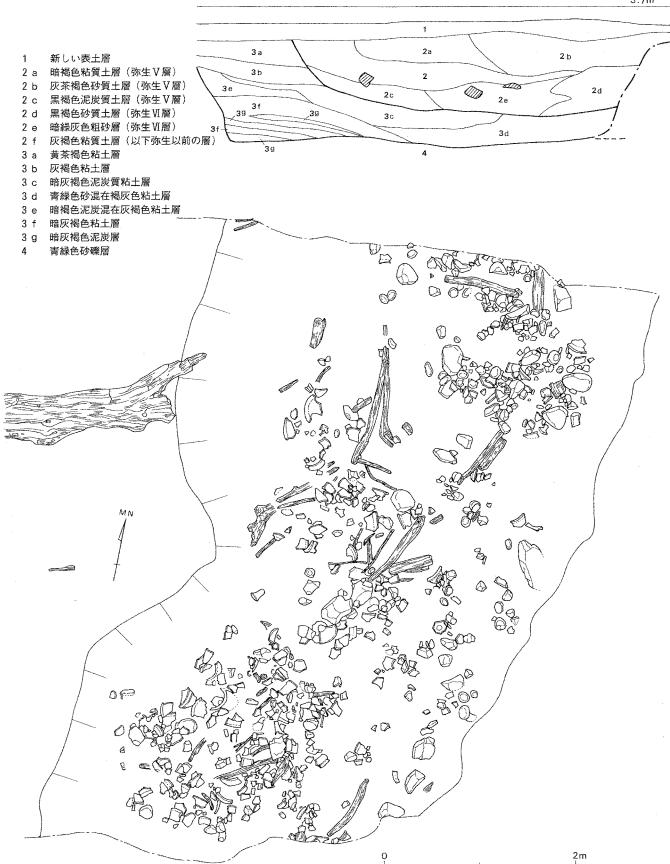


- 黄茶褐色土層(土手埋土)
- 2 黄灰褐色粘質土層 (昭和14年以前の河川)
  - 暗茶褐色粘質土層
- 4 a 混砂淡灰褐色粘質土層(弥生Ⅵ層)
- 4 b 黄褐色砂層(弥生Ⅵ層)
- 4 c 混貝黒褐色粘質土層 (弥生W層)
- 4 d 灰茶褐色粘質土層(弥生VI層)
- 4 e 混砂灰褐色粘質土層(弥生¶層)
- 4 f 灰褐色粘質土層
- 5 暗黄褐色粘土層(地山)

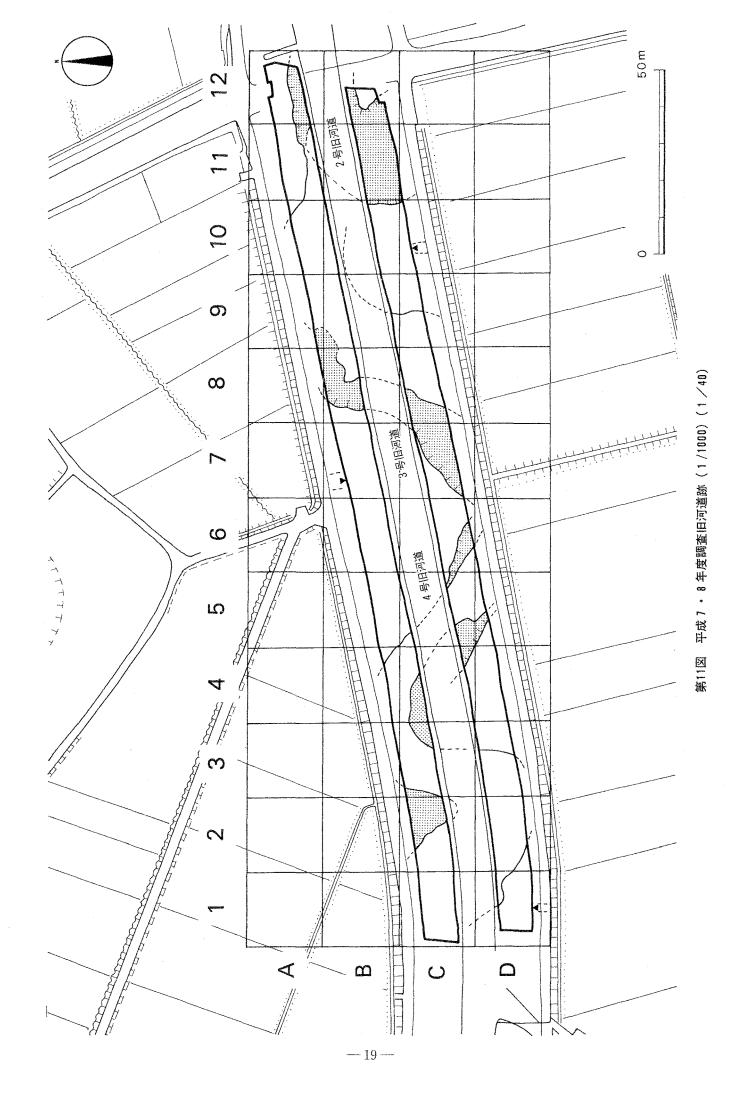


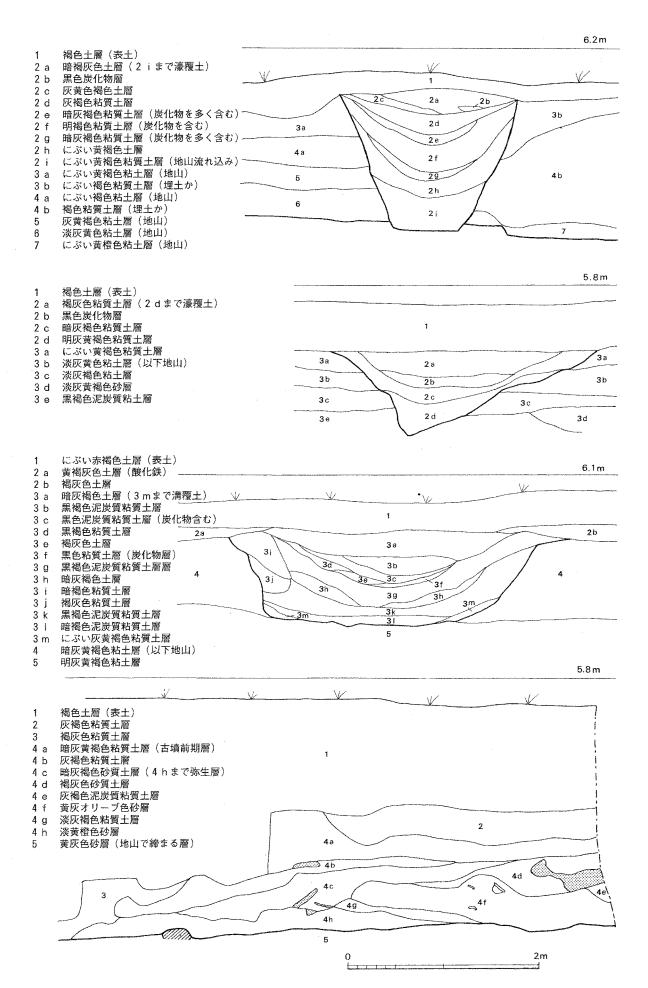
第9図 1号旧河道(北側)実測図(1/80)





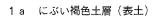
第10図 1号旧河道南側包含層出土状況土層図 (1/40)



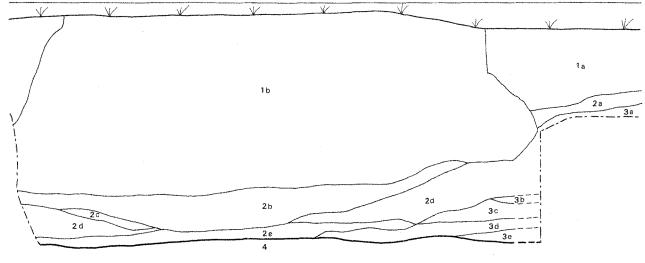


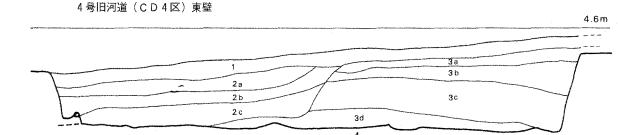
第12図 濠・溝・3号旧河道土層図(1/40)





- 1 b 崩壊
- 2 a 褐色土屬
- 2 b 灰黄褐色粘質土層
- 2 c 暗黄褐色土層
- 2 d 暗黄褐色砂質土層
- 2 e 暗黄褐色砂礫層
- 3 a にぶい赤褐色土層
- 3 b 灰褐色粘質土層
- 3 c 黒色泥炭質土層(木材・葉を含む)
- 3 d 灰色粗砂層
- 3 e 木材・葉の堆積層
- 4 淡灰オリーブ色砂礫層(地山で締まる層)







第13図 4号旧河道土層図(1/60)

- 1 にぶい褐色土層
- 2 a 褐灰色粘質土屬 (酸化鉄)
- 2 b 暗褐灰色粘質土層
- 2 c 灰褐色粘質土層
- 3 a 橙色粘土層(以下地山)
- 3 b 明灰色粘土層
- 3 c 暗褐色泥炭質土層(淡灰色細砂混在)
- 3 d 灰色粗砂層
- 4 淡灰オリーブ砂層

-21

## 図 版



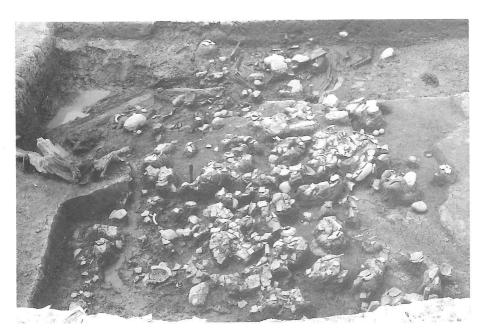
平成 6 年度 調査区全景 (西から)



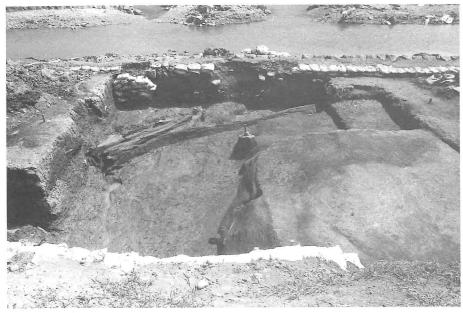
平成 6 年度 調査風景 (西から)



平成 6 年度 調査風景 (東から)



1号旧河道 土器溜出土 状況 (北から)



1号旧河道 完掘状況 (北から)



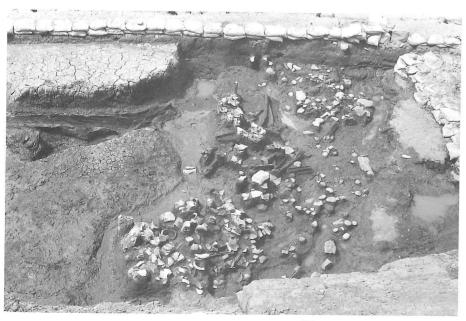
1号旧河道 完掘状況 (東から)



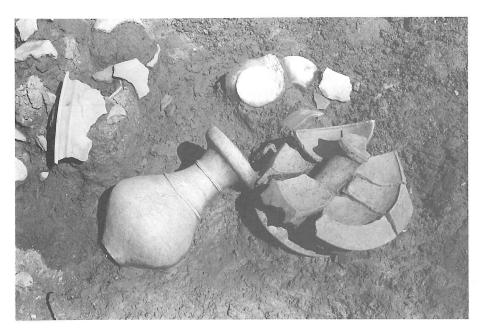
1号旧河道溝 調査風景 (南から)



1 号旧河道包含層 出土状況 (北から)



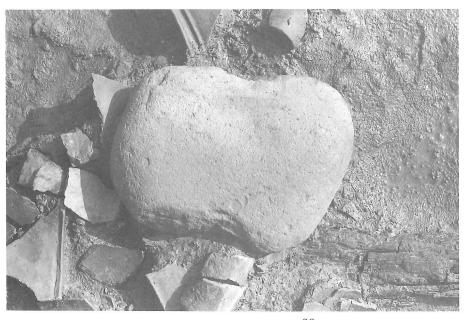
1 号旧河道包含層 出土状況 (南から)



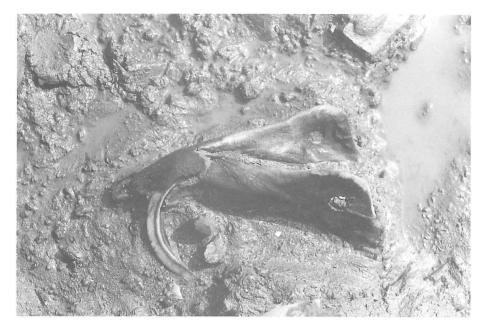
1 号旧河道土器溜 出土土器



1 号旧河道土器溜 出土土器



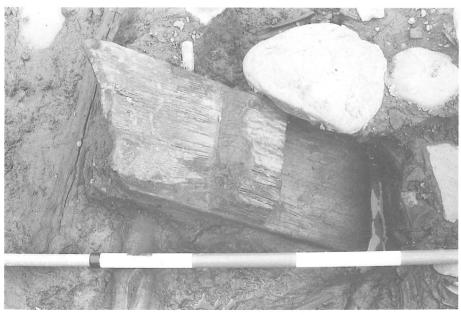
1 号旧河道土器溜 出土碇石



1号旧河道 出土獣骨



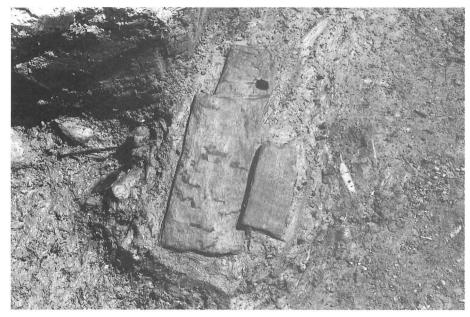
1 号旧河道 出土木器



1 号旧河道 出土木器



1 号旧河道 出土木器



1 号旧河道 出土木器



1 号旧河道 出土木器



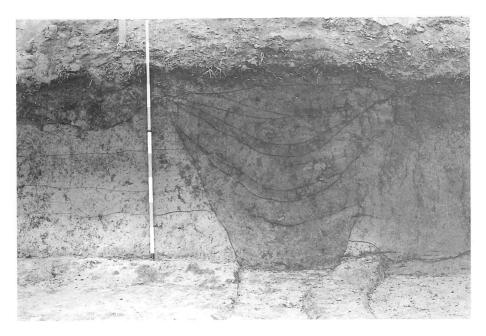
平成8年度 調査風景 (東から)



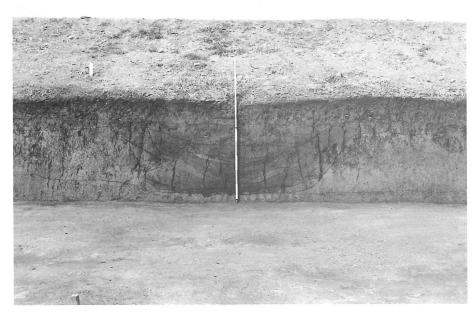
平成 7 年度 調査風景 (西から)



平成 8 年度 調査風景 (東から)



1 号濠 (北から)



1 号溝 (南から)



2号旧河道 (B11区) 完掘状況 (西から)



3号旧河道 (B8・9区) 出土状況 (東から)



3 号旧河道 (B 8・9区) 出土状況



3 号旧河道 (B 8・9 区) 出土木器



3 号旧河道 (B 8・9区) 出土木器



3 号旧河道 (B 8・9区) 出土木器



3 号旧河道 (B 8・9区) 出土木器



水田畦状遺構 (C8区) (南から)



3号旧河道 (C7・8区) 出土状況 (東から)



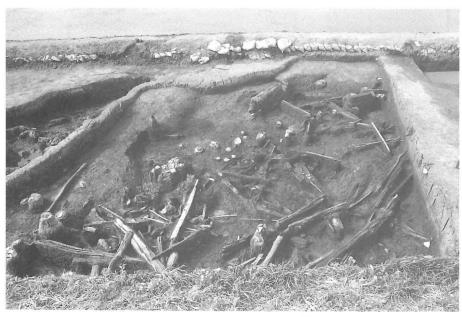
3号旧河道 (C7・8区) 完掘状況 (東から)



3号旧河道 (C7・8区) 出土状況 (南から)



3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土状況 (東から)



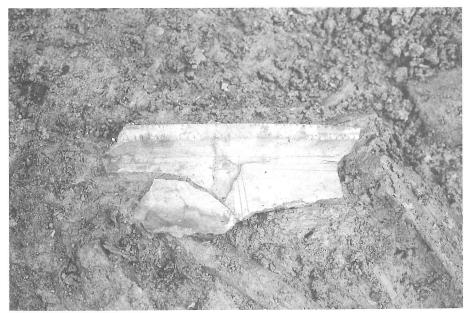
3号旧河道 (C7・8区) 出土状況 (南から)



3 号旧河道 (C7・8区) 無文土器



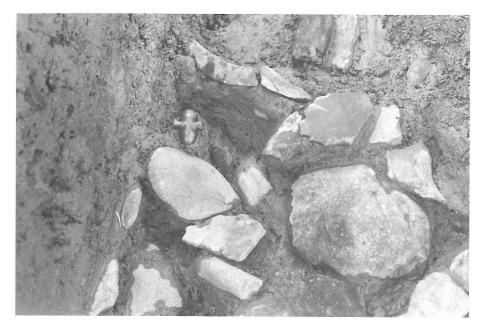
3 号旧河道 (C7・8区) 無文土器



3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土土器



3 号旧河道 (C 7・8 区) 細形銅剣



3 号旧河道 (C7・8区) 石製把頭飾



3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土石器



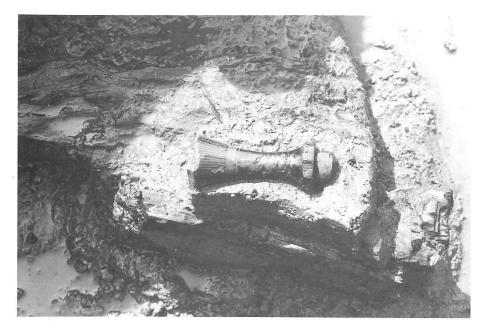
3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土状況



3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土状況



3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土木器



3 号旧河道 (C7・8区) 出土漆器



3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土木器



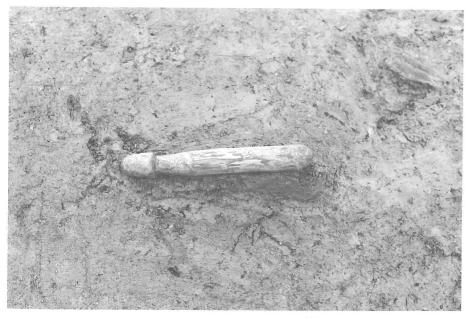
3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土木器



3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土木器



3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土木器



3 号旧河道 (C 7・8区) 出土木器



3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土ヤシ製笛



3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土ヤシ製笛



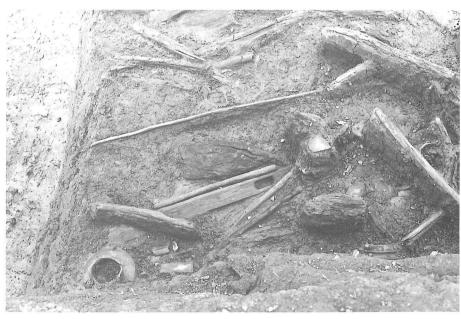
3 号旧河道 (C 7・8 区) 出土ヤシ製笛



4号旧河道 (C2区) 出土状況 (北から)



4 号旧河道 ( C 2 区) 出土状況



4 号旧河道 ( C 2 区) 出土状況



4 号旧河道 (CD4区) 出土状況 (西から)



4 号旧河道 (CD4区) 出土状況 (南から)



4 号旧河道 (CD4区) 出土状況 (北から)

# 付 編 自然科学分析報告

## 長崎県, 原の辻遺跡(河川地区)における自然科学分析

### 1. 原の辻遺跡(河川地区)における花粉分析

### 1. 試 料

調査地点は、CD5区および $C7 \cdot 8$ 区の2地点である。試料は、CD5区では試料1(1 a 層、古墳時代以降)、試料2(1 b 層、古墳時代初頭の土器を含む)、試料 $3 \sim 7$  (2 a 層  $\sim 3$  b 層、弥生時代中期後半の河道堆積層)、試料 $8 \sim 11$  (4 a 層  $\sim 5$  b 層、縄文時代以前)の11点が採取された。また、 $C7 \cdot 8$ 区では試料 $1 \sim 3$  ( $4 \sim 6$  層、中世・近世以降)、試料 $4 \cdot 5$  (I 層、Y - 1 層、弥生時代後期から古墳時代初頭)、試料6 (Y - 2 層、弥生時代中期の河道堆積層)、試料 $7 \sim 10$  (Y - 3 a 層  $\sim Y - 3$  e 層、弥生前期末~中期前葉の河道堆積層)の10点が採取された。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

### 2. 方 法

花粉粒の分離抽出は,基本的には中村(1973)を参考にし,試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

- 1) 5% 水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後, 0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き, 沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後, 氷酢酸によって脱水し, アセトリシス処理 (無水酢酸 9: 1 濃硫酸のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎)を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後,水洗を行う。
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い,グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。 以上の物理・化学の各処理間の水洗は,1500rpm,2分間の遠心分離を行った後,上澄みを捨てると いう操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉 (1973) および中村 (1980) をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(一) で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村 (1974、1977) を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類したが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

### 3. 結 果

### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉33、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉29、シダ植物胞子3 形態の計68である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。以下 に出現した分類群を示す。

### 〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複維管東亜属、スギ、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、ヤマモモ属、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属―アサダ、クリーシイ属―マテバシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属―ケヤキ、エノキ属―ムクノキ、アカメガシワ、サンショウ属、キハダ属、ウルシ属、モチノキ属、カエデ属、ブドウ属、ツバキ属、グミ属、ハイノキ属、モクセイ科、ニワトコ属―ガマズミ属、マンサク科、スイカズラ属

### 〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科,バラ科,ウコギ科

### 〔草本花粉〕

ガマ属―ミクリ属, サジオモダカ属, オモダカ属, イネ科, イネ属型, カヤツリグサ科, イボクサ, ミズアオイ属, タデ属サナエタデ節, ギシギシ属, アカザ科―ヒユ科, ナデシコ科, コウホネ属, キンポウゲ属, アブラナ科, ワレモコウ属, ノブドウ, アカバナ科, セリ科, センブリ属―ツルリンドウ属―リンドウ属, ナス科, オギノツメ, オオバコ属, オミナエシ科, ゴキヅル, タンポポ亜科, キク亜科, オナモミ属, ヨモギ属

#### 〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、ミズワラビ、三条溝胞子

### (2) 花粉の出現状況

### 1) CD5区

試料8と試料11では、樹木花粉の占める割合が極めて高く、クリーシイ属ーマテバシイ属が優占する。他にはコナラ属アカガシ亜属、マキ属の樹木とイネ科の草本などが低率に伴われる。試料5~7では上位に向かって草本花粉の占める割合が徐々に増加し、イネ属型を含むイネ科、ヨモギ属、上部ではクワ科―イラクサ科、ギシギシ属、アカザ科―ヒユ科、セリ科が増加する。樹木花粉ではクリーシイ属―マテバシイ属が優占するが、上位に向かって減少傾向を示す。その他の試料では、花粉がほとんど検出されない。

### 2) C7·8区

試料4~11では、樹木花粉ではクリーシイ属ーマテバシイ属が優占し、コナラ属アカガシ亜属、エ

ノキ属一ムクノキ,マツ属複維管東亜属が伴われる。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科が優占し、ヨモギ属、カヤツリグサ科などが伴われる。上位に向かってクリーシイ属―マテバシイ属が減少傾向を示し、イネ属型を含むイネ科が増加傾向を示す。試料1~3では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。樹木花粉ではクリーシイ属―マテバシイ属、コナラ属アカガシ亜属の出現率が高く、試料3ではツバキ属の出現率がやや高い。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科を主に、ヨモギ属、カヤツリグサ科、アブラナ科、セリ科などが出現する。

### 3) 寄生虫卵について

CD5区の試料6,8およびC7・8区の試料4,6,7,9,10からは,鞭虫卵が検出された。 鞭虫卵は,人が定住して人口の密集する集落域周辺の汚染と考えられる。C7・8区の試料4からは, マンソン裂頭条虫卵が検出された。マンソン裂頭条虫卵はイヌを主とする肉食獣の寄生虫である。

### 4. 花粉分析から推定される植生と環境

縄文時代以前の堆積当時は、シイ類(クリーシイ属―マテバシイ属)を主体としてカシ類(コナラ属アカガシ亜属)やマキ属などもみられる森林が、周囲を覆っていたものと推定される。イネ科などの草本は、森林のとぎれる河辺などに部分的に生育していたものと考えられる。

弥生時代中期後半には、シイ林が減少して、イネ科、ヨモギ属をはじめクワ科―イラクサ科、ギシ ギシ属、アカザ科―ヒユ科、セリ科などの人為干渉を示す草本が増加したものと推定される。また、 イネ属型の出現から、周囲で水田耕作が行われるようになったものと推定される。

弥生時代前期末から古墳時代初頭にかけては、イネ科を主に、ヨモギ属、カヤツリグサ科などの草本が生育していたと考えられ、比較的近接してシイ類(クリーシイ属―マテバシイ属)やカシ類(コナラ属アカガシ亜属)、エノキ属―ムクノキ、マツ属複維管束亜属などを要素とする森林が分布していたものと推定される。イネ属型の増加に伴って、シイ類(クリーシイ属―マテバシイ属)が減少していることから、この時期にはシイ林を切り開いて水田が拡大されたものと推定される。

中世・近世以降は、イネ科を主にヨモギ属、カヤツリグサ科、アブラナ科、セリ科などが生育し、水田を主とした農耕地が広く分布していたものと推定される。森林植生としては、シイ類(クリーシイ属—マテバシイ属)やカシ類(コナラ属アカガシ亜属)などの照葉樹が、疎林の状態かやや遠方に森林として分布していたと考えられる。

### 参考文献

中村純(1973)花粉分析, 古今書院, p.82-110.

金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原、新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248 -262.

島倉已三郎(1973)日本植物の花粉形態。大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集,60p。中村純(1980)日本産花粉の標徴。大阪自然史博物館収蔵目録第13集,91p.

中村純 (1974) イネ科花粉について, とくにイネ (Oryza sativa) を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.

中村純 (1977) 稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.

表 1 原の辻遺跡 (河川地区) における花粉分析結果(1)

	1	2					~		Q	10 1
		4	<u>.                                    </u>						_9	10 1.
					1	1	1	13		1
						1.		10		1
., -								1		
	1		2	1	6	4	7			1
スギ			~	1						_
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科					1			2		
ヤマモモ属					1					
ハンノキ属						1	2	2		
カバノキ属					1	1		1		
ハシバミ属							1			
			1							
			1	1	104	194	262		2	31
	_								_	
	1		3	2	22	18	17		2	1
					6	8	9	18		
						2				
							1			
							4			
					4	2	1	3		
					0			0		
							0			
					4			Э		
								4		
					A					
The state of the s					3	Z		4		
					1					
					1		1			
樹木・草本化粉					20	^		-		
						9	2	1		
						-1	1	0		
					4	<u>T</u>	1	4		
						0				
					4					
	2		E	7	105			99		2
	3		Э	- 1				22		
			1)	1				c		
			۷	¥	10	1.1		Ð		
						1	1	1		
							9			
					1.4					
						1		4		
							1	1		
					1					
					3	1	1			
					J	7	1	Lui		
							1	1		
					14	4		э.		
. , ,					r-r	- 1	ت	1		
					1			1		
* *			1	1		1	3	3		
			1	1				J		
					<i>J</i>	1				
			4	1	33	32	19	10		1
***************************************				т			1.0			
	1		A	A	Ω	91	19	11	1	
	1		4	4	9		14	11	Ŧ	
ミスソフロニ条溝胞子			9	Л	10	$\frac{1}{17}$	1 4	16		
樹木花粉		0	2	4	18		14	16		0.00
wit A 16 Web	2	0	7				312		4	0 38
			0	0	28	10	3	3	0	0
樹木・草本花粉	0	0			o	× ~ -	~ -	F -	~	
樹木・草本花粉 草本花粉	3	0 1	12 -	13	210		99	53	0	
樹木・草本花粉 草本花粉 花粉総数	3 5	0 1	12 - 19	13 18	400	392	414	369	4	0 43
樹木・草本花粉 草本花粉 花粉総数 未同定花粉	3 5 0	0 I 0 I 0	12 19 2	13 18 0	400 3	$\begin{array}{c} 392 \\ 1 \end{array}$	$\begin{array}{c} 414 \\ 0 \end{array}$	369 2	4 1	0 43 0
樹木・草本花粉 草本花粉 花粉総数	3 5	0 1	12 - 19	13 18	400	392	414	369	4	0 43
	科・ファースを表示される。 ・ は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	和 名 1    1	名 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1	和 名 1 2 3   樹木花粉	和名 1 2 3 4 樹本花粉 で キ属	樹木花粉 マキ属 1 2 3 4 5 日	和名 1 2 3 4 5 6 個	横木化 名 1 2 3 4 5 6 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	樹本花形	横木化粉

表 2 原の辻遺跡 (河川地区) における花粉分析結果(2)

		1	2	3	$\frac{C}{4}$	7 5	6	$\frac{8}{7}$	区 8	9	10	
Arboreal pollen	樹木花粉	<u>.</u>		<u> </u>	-t				0		10	_
Podocarpus	マキ属	1	2			1	3	1		2	1	
Abies	モミ属	1	ىك		1	1	J	1.		2	Ţ	
	ツガ属				1	1		1		1		
Tsuga	マツ属複維管束亜属	4	0	4	20	7	7	8			0	
Pinus subgen. Diploxylon	スギ スギ	$\frac{4}{3}$	9	4	3	1	7 4		0	6	9	
Cryptomeria japonica		3 科 2	1		3		4	1	2	2		
Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae				1.		,				-	1	
Myrica	ヤマモモ属	1				1				1		
Platycarya strobilacea	ノグルミ属		1		_			1	_			
Alnus	ハンノキ属		1	1	2		1	3	2		1	
Betula	カバノキ属	1		$^4$	3			1			3	
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ	1		1	1	1		3		1		
Castanea crenata-Castanopsis-Pasania	クリーシイ属ーマテバシイ属	39	28	35	47	96	60	100	2	107	160	
Fagus	ブナ属									3		
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	4	4	1	6	4	5	5		4	1	
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	25	36	27	16	18	30	16	2	14	17	
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属ーケヤキ	1		1	1	1		2		2	~.	
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ	4		$\hat{1}$	6	$\hat{6}$	14	6		11	16	
Zanthoxylum	サンショウ属	-*		1.	U	2	2	U		11	10	
					1	4	2					
Rhus	ウルシ属				1		7			a		
Ilex	モチノキ属		_		1		1			2	1	
Acer	カエデ属		1	_								
Vitis	ブドウ属	6		2	1	1	1			1		
Comellia	ツバキ属	1		22	1	1	4	3		2	3	
Elaeagnus	グミ属										1	
Symplocos	ハイノキ属									1		
Oleaceae	モクセイ科			5	1	1				ĩ	2	
Sambucus - Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属			1						_		
Hamameridaceae	マンサク科		1			1	1					
r .	- / )	1	1	1		1.	1	1		3	1	
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<u>-</u> -	1			<del>-</del>	1			<u>-</u>	
Arboreal · Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉					-	0.0	4.0		-00		
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	11		3		7	29	19	1	29	14	
Rosaceae	バラ科		2	1	4		1				4	
Araliaceae	ウコギ科					2						
Nonarboreal pollen	草本花粉		-		_							
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属	1	2	2			2	1		1	3	
Alisma	サジオモダカ属	*		_			ĩ			~	-	
Sagittaria	オモダカ属	2	3	2			4			1	1	
Gramineae	イネ科		149		1.47	120		105	Q	115	80	
	イネ属型	130		32	18	3	20	19	0		5	
Oryza type									7	8		
Cyperaceae	カヤツリグサ科	30	27	30	21	20	20	21	1	17	13	
Aneilema keisak	イポクサ			_	1							
Monochoria	ミズアオイ属			8		1	3	5		2	3	
Polygonum sect. Persicaria	タデ属サナエタデ節	4		. 1	2		3				1	
Rumex	ギシギシ属	1	1	1	1		4	6		1	1	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	2	1	2	9	5		12		14		
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	1	1		1	1			1	1	
Nuphar	コウホネ属							2		1		
Ranunculus	キンポウゲ属	2	2	3	1		1	$\frac{\tilde{2}}{2}$			2	
Cruciferae	アプラナ科	6		8	7	12	2	$\frac{2}{2}$		2	$\tilde{1}$	
Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ	U	1	O	1	14	1	4		Δ	1.	
					α		1					
Onagraceae	アカバナ科	_	10	1 4	2	10	-		•			
Umbelliferae	セリ科	7	13	14	13	12	7	4	1	4	8	
Hygrophila lancea	オギノツメ	1										
Plantago	オオバコ属				1							
Valerianaceae	オミナエシ科		1									
Actinostemma lobatum	コギヅル										1	
Lactucoideae	タンポポ亜科	4	4	3	9	9	1	2		1	7	
Asteroideae	キク亜科	$\hat{2}$		2	3	ĩ	ĩ	_		$\tilde{2}$	5	
Xanthium	オナモミ属		~	~	***	1	4					
Artemisia	ヨモギ属	58	58	36	51	30	43	30		28	34	
	- 1 neg こ / xi* k古州の伊口 ア			30								
Pern spore	シダ植物胞子		~	_	_	7.0	_		-	_	~	
Monolate type spore	<b>单条溝胞子</b>	4		2	8	16	7	8	1	7	8	
Celatopteris	ミズワラビ		1			1						
Trilate type spore	三条溝胞子	4	18	10	9	18	9	19	3	20	21	
Arboreal pollen	樹木花粉	94	89	109	111	143	134	152	- 8	164	219	
Arboreal Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	11	8	4	4	9	30	19	1	29	18	
Nonarboreal pollen	草本花粉		283							198		
Γotal pollen	花粉総数		380							391		
pollen	未同定花粉	5		4	3	3	7	2	2	5	4	
Fern spore	シダ植物胞子	8	21	_12	17	35	16	27	4	27	_29	
Helminth eggs	寄生虫卵											
Trichuris	鞭虫卵				3		2	4		12	7	
Diphyllobothorium mansoni	マンソン裂頭条虫卵				1						•	
					.1.							

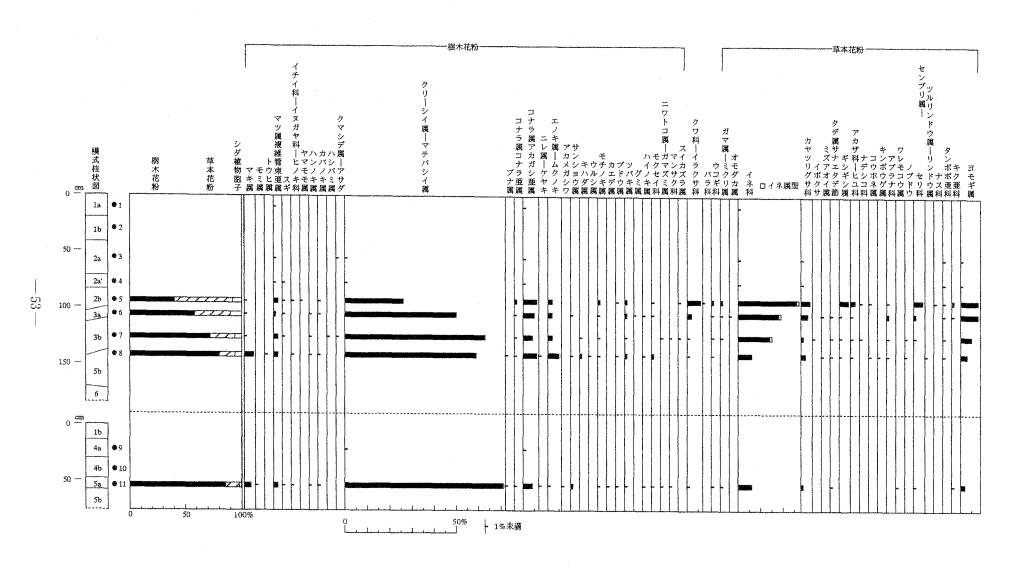


図1 原の辻遺跡 (河川地区), CD5区における花粉ダイアグラム (花粉総数が基数)

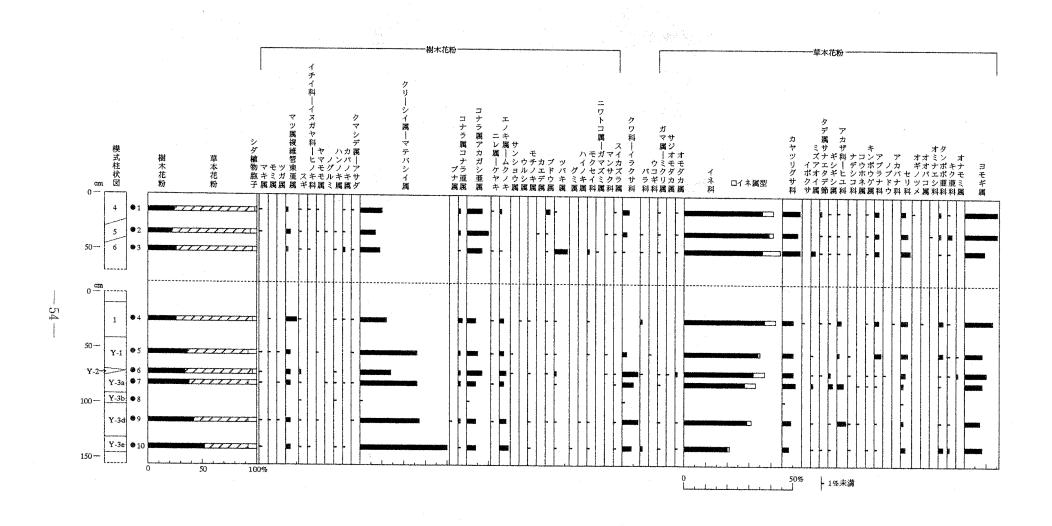
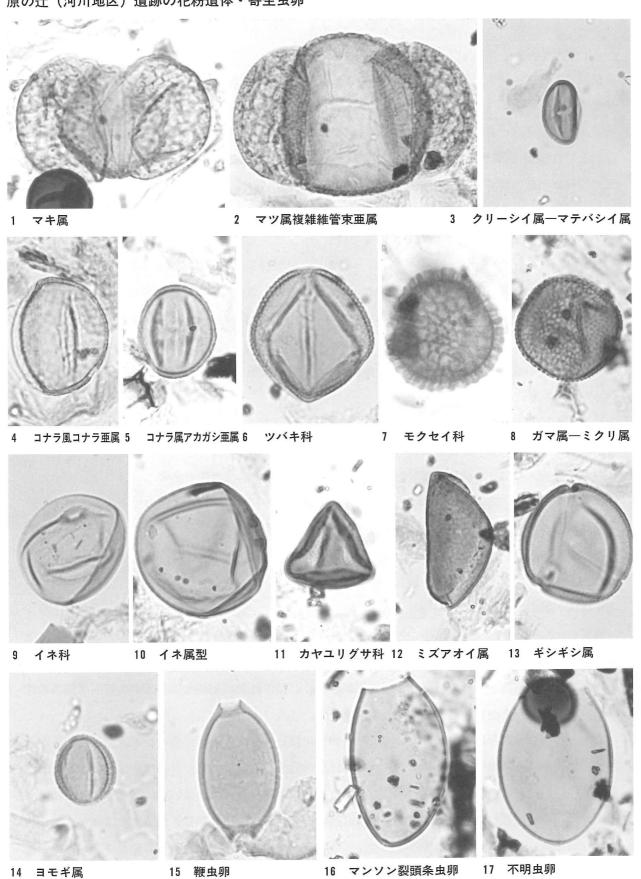


図2 原の辻遺跡 (河川地区), C1・8区における花粉ダイアグラム (花粉総数が基数)

### 原の辻 (河川地区) 遺跡の花粉遺体・寄生虫卵



### Ⅱ.原の辻遺跡(河川地区)における植物珪酸体分析

### 1. はじめに

植物珪酸体は,植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸( $SiO_2$ )が蓄積したものであり,植物が枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は,この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり,イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山,1987)。また,イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である(藤原・杉山,1984)。

### 2. 試 料

分析試料は、C 7・8  $\boxtimes$  8  $\boxtimes$  9  $\boxtimes$  9

### 3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原、1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 試料約1gに対して直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20µm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1 g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位:10-5 g)をかけて、単位面積で層厚 1 cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94、ヨシ属(ヨシ)は6.31、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属(チシマザサ節・チマキザサ節)は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。

### 4. 分析結果

### (1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

### [イネ科]

機動細胞由来:イネ、キビ族型、ヨシ属、ウシクサ族型、マコモ属

穎の表皮細胞由来:オオムギ族(ムギ類)

### [イネ科―タケ亜科]

機動細胞由来:メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、クマザサ属型(チシマザサ節やチマキザサ節など)、ミヤコザサ節型(おもにクマザサ属ミヤコザサ節)、未分類等

### 〔イネ科一その他〕

表皮毛起源,棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来),未分類等 [樹木]

ブナ科 (シイ属), クスノキ科, マンサク科 (イスノキ属), その他

### 5.考 察

### (1) 稲作跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合,一般にイネの植物珪酸体が試料1gあたりおよそ5,000 個以上と高い密度で検出された場合に,そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。また,その層にイネの密度のピークが認められれば,上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくなり,その層で稲作が行われていた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準にもとづいて稲作の可能性について検討を行った。

C7・8区の4層(試料1)からY-3 e層(試料10)までの層準について分析を行った。その結果、Y-3b層(試料8)を除くすべての試料からイネが検出された。このうち、弥生時代前期末~中期前葉とされる河道堆積層下部のY-3 d層(試料9)とY-3 e層(試料10)、および弥生時代中期とされる河道堆積層のY-2層(試料6)では、密度が2,900~4,400個/gと比較的高い値である。このことから、当時はこれらの河道周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で河道内にイネの植物珪酸体が混入したものと考えられる。

弥生時代後期~古墳時代初頭とされるY-1層(試料 5)および中世・近世以降とされる 6 層(試料 3)では,密度が2,900個/g と比較的高い値であり,明瞭なピークが認められた。したがって,これらの層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたものと考えられる。その他の層では,密度が1,000個/g 前後と低い値である。イネの密度が低い原因としては,①稲作が行われていた期間が短かったこと,②土層の堆積速度が速かったこと,③洪水などによって耕作土が流出・流入したこ

と, ④採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと, ⑤稲藁が耕作地以外に持ち出されていたことなどが考えられる。

### (2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族 (ムギ類が含まれる)、ヒエ属型 (ヒエが含まれる)、エノコログサ属型 (アワが含まれる)、ジュズダ マ属 (ハトムギが含まれる)、オヒシバ属型 (シコクビエが含まれる)、モロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはオオムギ族が検出された。

オオムギ族(穎の表皮細胞)は、弥生時代中期とされる河道堆積層の Y-2層(試料6)から検出された。ここで検出されたのは、ムギ類(コムギやオオムギなど)と見られる形態のもの(杉山・石井、1989)である。密度は700個/gと低い値であるが、穎(籾殻)は栽培地に残されることがまれであることから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。これらのことから、当時の河川周辺では、ムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、未分類等としたものの中にも栽培種に由来する ものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題と したい。

### (3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、全体的に棒状珪酸体が比較的多く検出され、Y-3 e 層から Y-2層にかけてはヨシ属なども少量検出された。また、クスノキ科やマンサク科(イスノキ属)などの樹木起源も少量検出された。I 層より上位では、メダケ節型やネザサ節型、クマザサ属型、ミヤコザサ節型などが検出され、樹木起源は減少している。おもな分類群の推定生産量によると、Y-2 層より下位ではヨシ属、I 層より上位ではメダケ節型が優勢となっていることが分かる。

以上の結果から、弥生時代前期末から弥生時代中期にかけての調査地点は、ヨシ属などが生育する 湿地的な環境であったと考えられ、周辺にはクスノキ科やマンサク科(イスノキ属)などの照葉樹林 が分布していたものと推定される。その後、弥生時代後期~古墳時代初頭とされる I 層の時期には、照 葉樹林が減少して、メダケ節などのタケ・ササ類が多く見られるようになったものと推定される。

### 6. まとめ

分析の結果、弥生時代前期末~中期前葉および弥生時代中期とされる河道堆積層からは、イネの植物珪酸体が比較的多く検出され、これらの河道周辺で水田稲作が行われていた可能性が認められた。また、弥生時代後期~古墳時代初頭および中世・近世以降とされる土層でも、水田稲作が行われていた可能性が認められた。さらに、弥生時代中期とされる河道周辺では、ムギ類の栽培が行われていた可能性も認められた。

弥生時代前期末から弥生時代中期にかけての調査地点は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺にはクスノキ科やマンサク科 (イスノキ属) などの照葉樹林が分布していたものと推定される。

### 参考文献

杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点。植生史研究,第2号,p.27-37。 杉山真二・石井克己 (1989) 群馬県子持村,FP直下から検出された灰化物の植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析。日本第四紀学会要旨集,19,p.94-95。

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) 一数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法一。考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) 一プラント・オパール分析による 水田址の探査—. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

表 1 長崎県,原の辻遺跡 (河川地区) における植物珪酸体分析結果

検出密度(単位:×100個/g)

	Į	C 7 · 8 区 南 壁										
分類群 \ 試 料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
イネ科		·		Marine School of Continue and Audio School of	And the state of t							
イネ	7	13	29	7	29	30	14		44	29		
オオムギ族(穎の表皮細胞)						7						
キビ族型			7					7				
ヨシ属	7					7	7		7	7		
ウシクサ族型	29	19	29		7		14		7			
マコモ属					7							
タケ亜科										******		
メダケ節型	44	96	15	59								
ネザサ節型	22	6		15					7			
クマザサ属型	15	26	15	15						15		
ミヤコザサ節型		13	7	7	7							
未分類等	80	39	22	37						7		
その他のイネ科							****	*****				
表皮毛起源							14	7	15			
棒状珪酸体	110	148	88	96	36	90	99	15	140	145		
未分類等	402	482	381	368	266	284	410	60	412	392		
樹木起源			****									
ブナ科(シイ属)	22	6			7					22		
クスノキ科		6	22	7	7	7	28	7		15		
マンサク科(イスノキ属)					22	22	7	15	118	36		
その他				7	7	15	7	7	7	15		
(海綿骨針)					7					7		
植物珪酸体総数	739	854	616	619	396	463	601	120	758	682		
おもな分類群の推定生産量(単位	∶kg/m²•cm)											
イネ	0.22	0.38	0.86	0.22	0.85	0.88	0.42	······································	1.30	0.85		
ヨシ属	0.46					0.47	0.45		0.46	0.46		
メダケ節型	0.51	1.12	0.17	0.68								
ネザサ節型	0.11	0.03		0.07					0.04			
クマザサ属型	0.11	0.19	0.11	0.11						0.11		
ミヤコザサ節型		0.04	0.02	0.02	0.02							

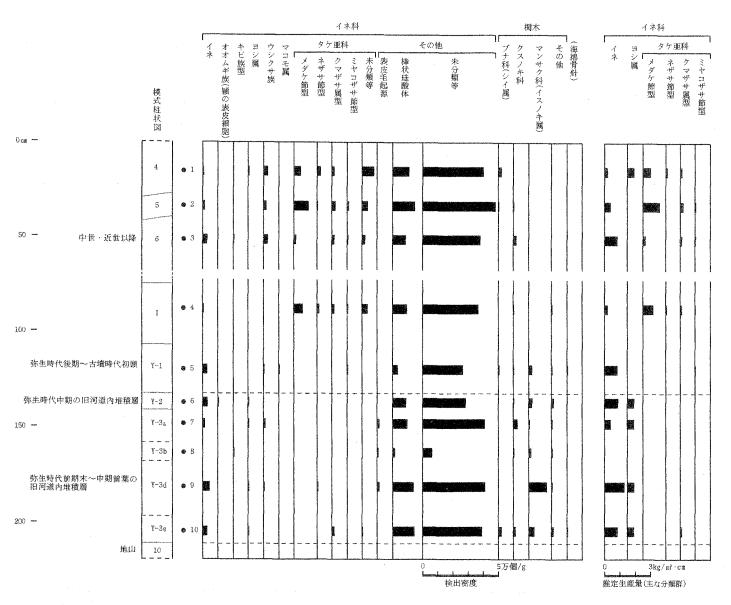
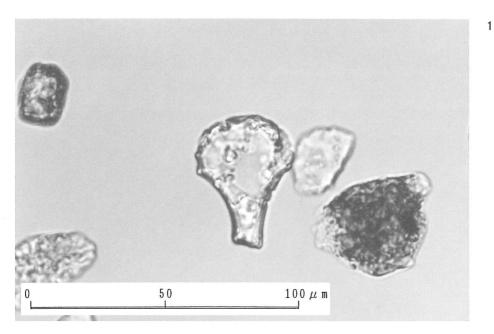
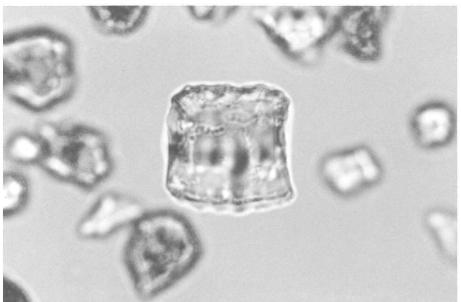


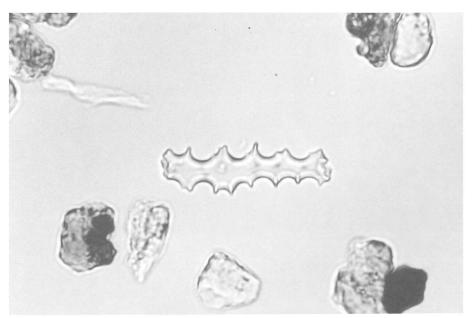
図1 原の辻遺跡,河川地区 C 7・8 区における植物珪酸体分析結果

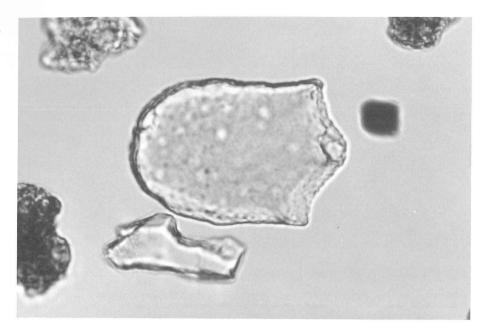
植物珪酸体の顕微鏡写真 (倍率はすべて400倍)

No.	分	類	群	試料名
1	イネ			5
2	イネ (側面)			9
3	オオムギ属	(穎の	表皮細胞)	6
4	ヨシ属			6
5	メダケ節型			4
6	ネザサ節型			4
7	ミヤコザサ貧	<b></b>		4
8	棒状珪酸体			6
9	ブナ科(シィ	(属)		1
¥ 10	クスノキ科			6
11	マンサク科	(イス.	ノキ属)	5
12	海綿骨針			8

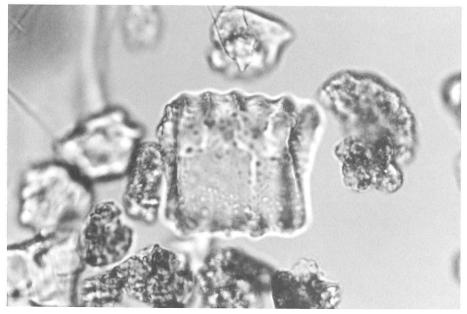




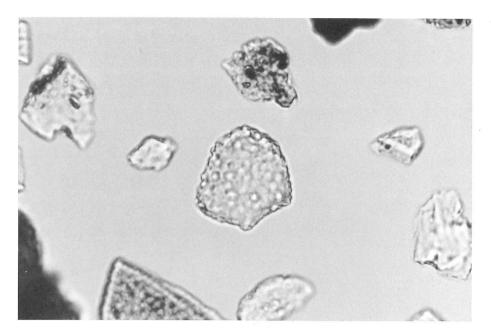


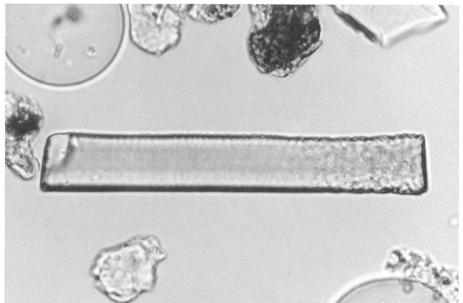


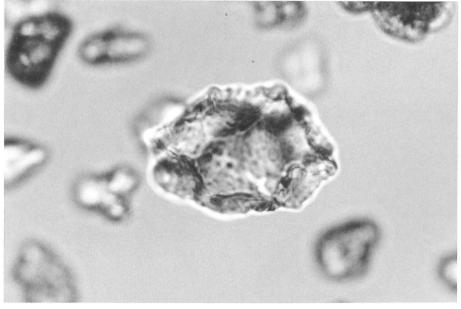




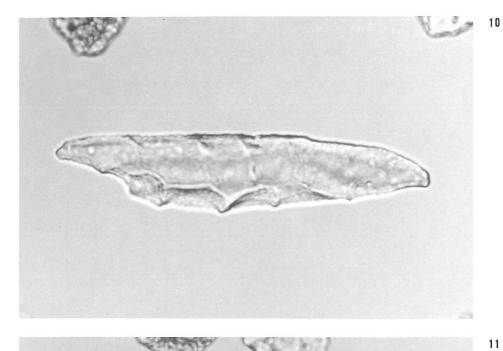
— 64 —



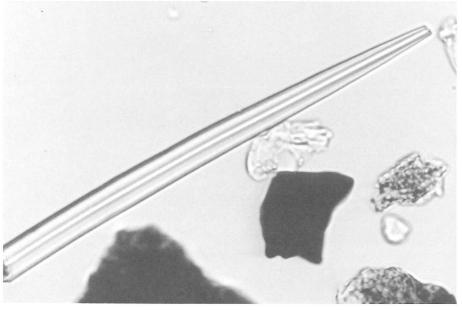




— 65 —







12

## Ⅲ. 原の辻遺跡 (河川地区) 出土木材の樹種同定

## 1. 試 料

試料は、河川地区C7区の5b層から出土した木材である。

## 2. 方 法

カミソリを用いて、試料の新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、 生物顕微鏡によって60~600倍で観察した。樹種同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によっ て行った。

#### 3. 結果

分析の結果, ブナ科のツブラジイ (Castanopsis cuspidata Schottky) と同定された。以下に同定 根拠となった特徴を記す。

横断面:年輪のはじめに中型から大型の道管が、疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。放射組織は、単列のものと集合放射組織が存在する。

放射断面:道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなり、同性放射組織型である。

接線断面:放射組織は同性放射組織型で,単列のものと集合放射組織が存在する。

以上の形質よりツブラジイに同定される。ツブラジイは関東以南の本州、四国、九州に分布する。 常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。照葉樹林の主要構成要素の一つである。材は耐朽性、保 存性低く、建築材などに用いられる。

## 参考文献

佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞. 木材の構造,文永堂出版, P.20-48.

佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、P.49-100。

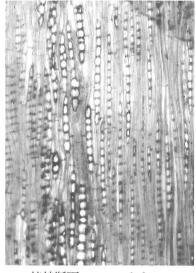
## 原の辻遺跡 (河川地区) 出土木材の顕微鏡写真







放射断面----0.1mm



接線断面----0.2mm

## Ⅳ. 原の辻遺跡(河川地区)における放射性炭素年代測定結果

## 1. 試料と方法

試料名	地点·	層準	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	C 7 ⊠,	5 b層	木材 (ツブラジイ)	酸-アルカリ-酸洗浄ベンゼン合成	β線法

#### 2. 測定結果

試料名	<sup>14</sup> C年代	δ <sup>13</sup> C	補正"C年代	暦年代	測定No.
	(年BP)	(‰)	(年BP)	交点 (1σ)	(Beta-)
No. 1	3020±50	-29.3	$2950 \pm 50$	BC1135 (BC1250~1045)	105078

## 1) 14C年代測定値

試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した値。<sup>14</sup>Cの半減期は5,568年を用いた。

#### 2) δ<sup>13</sup> C 測定値

試料の測定<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比を補正するための炭素安定同位体比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)。この値は、標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差( )で表す。

#### 3) 補正<sup>14</sup>C年代值

 $\delta^{13}$ C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}$ C/ $^{12}$ Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

## 4) 曆年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}$ C濃度の変動を補正することにより算出した年代(西暦)。 補正には年代既知の樹木年輪の $^{14}$ Cの詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い試料には適用できない。暦年代の交点とは,補正 $^{14}$ C年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。 $1\sigma$ は補正 $^{14}$ C年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって,複数の交点が表記される場合や,複数の $1\sigma$ 値が表記される場合もある。

## 報告書抄録

	-1-	), }, ~> ~~		. , , , 3-										
ふりが	な	はるのつじいせき												
書	名	原の辻遺跡												
副書	名	幡鉾川流域総合整備計画に係る幡鉾川河川改修に伴う緊急発掘調査報告書												
巻	次					***************************************								
シリーズ	名	原の辻	遺跡	調査事	<b>务所調查報</b>	告書				and the second s				
シリーズ番	号	第9集	第9集 上巻											
編著者	名	宮 崎 貴 夫												
編集機	関	長崎県	教育	委員会										
所 在	地	₹850-	-086	1 長崎	県長崎市江	工戸町 2	番13号	TEL 095	(824) 1111					
発行年月	日	西暦19	98年	3月31E	3									
ふりがな 所収遺跡名	所		地	コ 市町村	ー ド 遺跡番号	北緯。, "	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因				
原の辻遺跡	長崎	たい きぐ 県壱岐郡	が芦 るき	42423	93	33°45′39″	129°45′ 7″	19951102	4,000m²	河川改修				
	in	深江智	鲁亀		7 4 4 4 4			\$						
	触				2 e 6 c c c c c c c c c c c c c c c c c c			19960331						
	THE PARTY AND LABOUR							19961221	2,532m <sup>2</sup>	<i>))</i>				
	PO CONTO ANTA ANTA ANTA ANTA ANTA ANTA ANTA							(	2,002111	"				
	Market contract							19970328		·				
	THE PROPERTY OF THE PROPERTY O							19970408	2,410m²	<i>11</i>				
								5	Walter and the second s					
								19971213		2004 1-2100				
所収遺跡名	種	別	主	な時代	主な	遺構	主	な遺物	特 記	事 項				
原の辻遺跡	集落	•	弥生	三時代	濠2条		弥生.	上器, 石器,						
	包含均	也	古墳時代		溝1条		木製品	ā						
		and the state of t			旧河道4	1条	細形銷							
					į	別把頭飾								
		OVO/ACIA LURY A ANDREAMANA					ココナ	アシ製笛						
		не се негостиналния под						a.						
		ALLE CONTRACTOR OF THE PROPERTY OF THE PROPERT						And a second and a second and a second as						
		WITT ARRANGEMENT AND A STATE OF THE STATE OF						- Company designation of the company						
					Transaction of Parks									
					Participant of the state of the			- The second sec						
L														

原の辻遺跡調査事務所調査報告書第9集

## 原の辻遺跡(上巻)

1998. 3. 31

発行 長崎県教育委員会 長崎市江戸町2番13号

印刷 株式会社 昭和堂印刷

原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第9集

# 原の辻遺跡

幡鉾川流域総合整備計画に係る幡鉾川河川改修に伴う 緊急発掘調査報告書

下 巻

1998

長崎県教育委員会

原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第9集

# 原の辻遺跡

幡鉾川流域総合整備計画に係る幡鉾川河川改修に伴う 緊急発掘調査報告書

下 巻

## 発刊にあたって

本書は、幡鉾川流域総合整備計画に係る幡鉾川の改修工事に伴って、平成6年度から8年度にかけて実施した原の辻遺跡の緊急発掘調査報告書です。

原の辻遺跡の調査においては、現在の河川敷のなかに弥生時代から古墳時代前期にかけての旧河道が数条確認されました。その中の一つの弥生時代中期の河道からは、日本初例のココヤシ製の笛が出土して話題になったことを御存じの方も多いと思われます。この河道の中からは、おびただしい数の弥生土器に伴って、朝鮮半島系の土器、青銅製の細形銅剣、石製の柄飾、各種の木製品など貴重な品々が出土しました。

原の辻遺跡は、重要遺跡として平成9年9月2日に国の史跡指定を受けました。現 在、遺跡整備委員会において遺跡の保存と活用を図り、将来に伝えるための検討がな されています。

壱岐には、現在全国的に注目されている原の辻遺跡のほかに著名な弥生時代の遺跡として勝本町のカラカミ遺跡、郷ノ浦町の車出遺跡等が知られ、また260基を超える数の古墳があります。県内最長の双六古墳や奈良県の藤ノ木古墳に匹敵する馬具類を出土した笹塚古墳、全国で12番目に長い横穴式石室をもつ鬼の窟古墳など、優れた文化財と歴史資料を保有している島といえます。

これらの豊かな遺跡や文化財を護り、将来に伝えていくのは現在に生きている私達の努めであり、地域住民の方々のご理解とご協力をいただきながら、文化財保護担当部局と開発部局との綿密な連絡調整を行っていかなければならないと考えています。

今回の原の辻遺跡で行われた発掘調査成果が、学術的資料として活用され、文化財の愛護に役立つことを念じて刊行のあいさつといたします。

平成10年3月31日

長崎県教育委員会教育長 中 川 忠

## 例 言

- 1. 本書は、幡鉾川総合整備計画に係る幡鉾川改修工事に伴って、長崎県教育委員会が平成6年度から平成8年度に実施した原の辻遺跡の発掘調査の報告書である。
- 2. 本書に収録した遺跡は長崎県壱岐郡芦辺町深江鶴亀触字川原畑および不條に所在する。
- 3. 本書は、当該調査に係る報告書二分冊の内の下巻である。
- 4. 本書の執筆と編集は、宮崎が担当した。
- 5. 本書関係の出土遺物と図面および写真類は、現在、長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所に保管されている。

# 総 目 次

I . [	原の辻遣	員跡 (上巻)						
1.	遺跡の	)立地と環境…		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •				1
2.	調査の	)経緯		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		··· 5
3.	遺	構						12
付	編	自然科学分析	報告	*********				45
II. J	原の辻遣	遺跡(下巻)						
1.	遺	物	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		,	********		1
2	まと						• • • • • • • • • • • • • • • •	95

## 本 文 目 次(下巻)

(1	.) 土		器…	• • • • • • •		• • • • • • • •				• • • • • •		• • • • • • • •		• • • • • • •	••••		• • • • • •		1
(2	2) 石		器…								•••••	•••••	•••••	·····	• • • • • •	· · · · · · · · ·	•••••		57
(3	3) 金	属	器…						• • • • • •					• • • • • • •	• • • • • •				78
(4	)木	製品	J等…							,					• • • • • •		• • • • • • •	• • • • • • •	79
(5	5) 骨	角	器…	• • • • • • •	• • • • • •	, <b></b>	•••••								• • • • • •				79
(6	5) 土	製品	占・石	製品・		· • • • • • • •	• • • • • • •		• • • • • • •		• • • • • • •		• • • • • • •			• • • • • • •	••••		94
(7	) 装	飾	品…	• • • • • • •		· • • • • • • •			*****				• • • • • • •	• • • • • • •	<b></b> .				94
2.	まと	: め	)		• • • • • • •			•••••					• • • • • • •					•••••	95

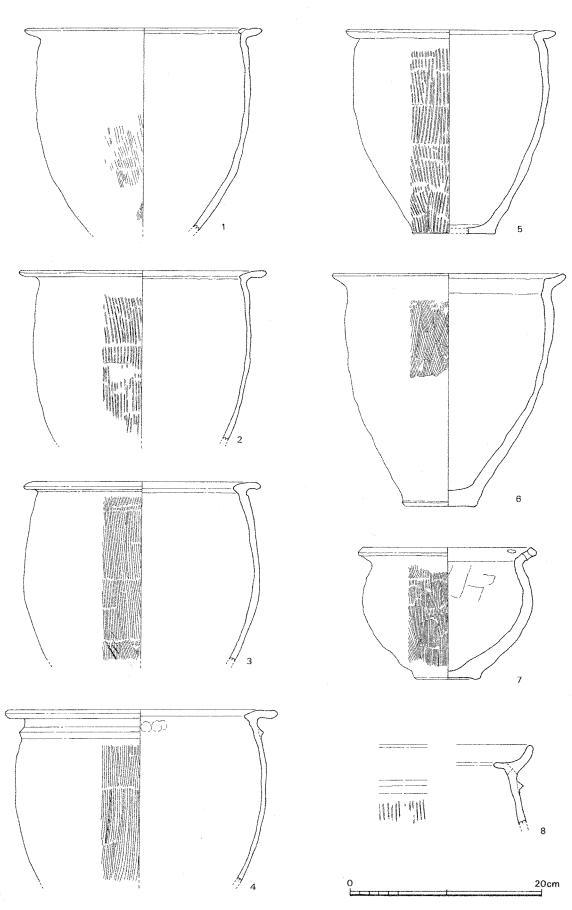
## 1. 遺物

平成6年度から平成8年度にかけて実施された幡鉾川改修工事に伴う緊急発掘調査によって、コンテナー約450箱分の遺物が出土した。遺物で最も多く出土したのは弥生前期から古墳時代前期の土器で、次に出土量の多い石器、その他に金属器、木製品、骨角器、土製品・石製品、自然遺物がある。各項目ごとに取り上げて、説明を行う。

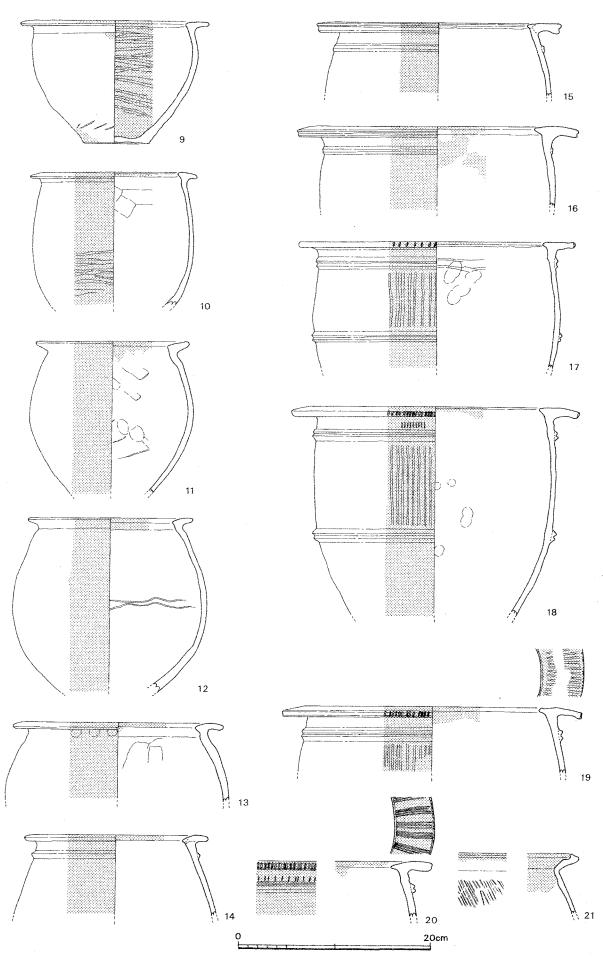
### (1) 土 器

## ①1号旧河道土器溜出土土器(第14図~第19図)

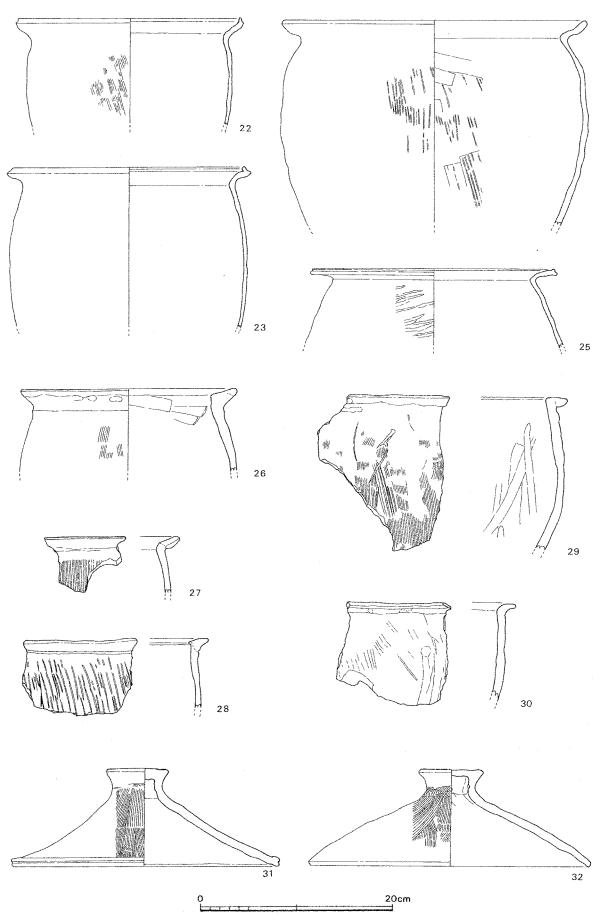
 $1\sim30$ は甕である。 $1\sim4$ は、鋤先形口縁の甕で、4は口縁下に三角突帯を1条もち、3と4は胴 部が丸く張りを有する。1・3は,胎土に金雲母を含み,須玖II式古段階の甕である。1がVI層下部 の他は、VI層出土である。5は、口縁が逆L字形に折れ、外方端部を尖りぎみにおさめるが、口縁下 方が丸みをもって巻き込むような処理をしてあり、朝鮮半島系の擬無文土器の系譜を引く甕かもしれ ない。金雲母を含まない。VI層出土。6は、短い口縁が内湾ぎみに折れて、内方を面取りしたように 平坦になっている。胎土に金雲母を含む。VI層出土。7は、小形甕で、口縁が「く」の字形に外反し て、2孔の穴がみられる。内面にまで煤が付着している。VI層下部出土。8は、口縁が大きく内湾す る大形甕破片である。VI層下部出土。 $9\sim21$ は、丹塗の甕である。 $9\sim12$ は小形の甕で、いずれも金 雲母を含む。 9 ,11・12はVI層下部出土。11はVII層出土。13は,鋤先形の甕で,胎土に金雲母を含む。 VI層出土。14は、口縁下に三角突帯を1条もち、胎土に金雲母を含む。VII層出土。15~20は、鋤先形 口縁の甕でM字突帯をもつものである。17から20は、端部に刻目を施している。20以外は、胎土に金 雲母を含む。18がVI層出土の他は、VII層から出土している。21は、跳ね上げ口縁の甕片で、VI層出土。 22・23は,跳ね上げ口縁の甕で,胎土に金雲母を含まない。22はIV層,23はVI層出土。24は張りを胴 部上半にもつ甕で、口縁が内湾ぎみに折れ曲がり、端部を肥厚して丸くおさめている。胎土に絹雲母? を含んでいる。VI層出土。25は、薄手つくりの甕で、口縁が逆L字形に折れ曲がり、端部を摘みぎみ におさめている。胴部外面は横位にミガキを施している。灰白色ぎみの色調で、胎土に石英・長石・ 黒褐色砂粒を含む。瀬戸内系の甕であろう。26~30は,朝鮮半島系の影響をもつ甕で,回転台を使用 していないのでいびつででこぼこしたつくりであるが、外面にハケ調整を施すなど折衷的な様相をも っている。いずれも、胎土に金雲母を含んでいない。26・30がⅥ層、27がⅥ層下部,28・29がⅦ層か ら出土している。31・32は、甕の蓋である。32は、胎土に金雲母を含む。32はVI層、31はVII層出土。 33~56は, 壷である。33~37は, 鋤先形口縁の広口壷で, 36・37は丹塗壷である。34は, 口縁端部 に刻目を施している。37は胎土に金雲母を含む。36がVI層下部、35がVI層下部~VII層、33・34がVII層 出土で、37は壁面出土。38~42は、北部九州東部地域系と考えられる壷である。35は、多条のM字突 帯を施す丹塗壷で,口縁上方には円形浮文を貼りつける。灰褐色の色調で,胎土に長石を多く含んで いる。VI層出土。39は、外湾ぎみに広がる頸部から水平方向に口縁は屈曲している。胎土にはわずか に金雲母を含んでいる。VII層出土。40~42は、細頸の鋤先口縁壷で、40は部分的に丹塗が残る。40は



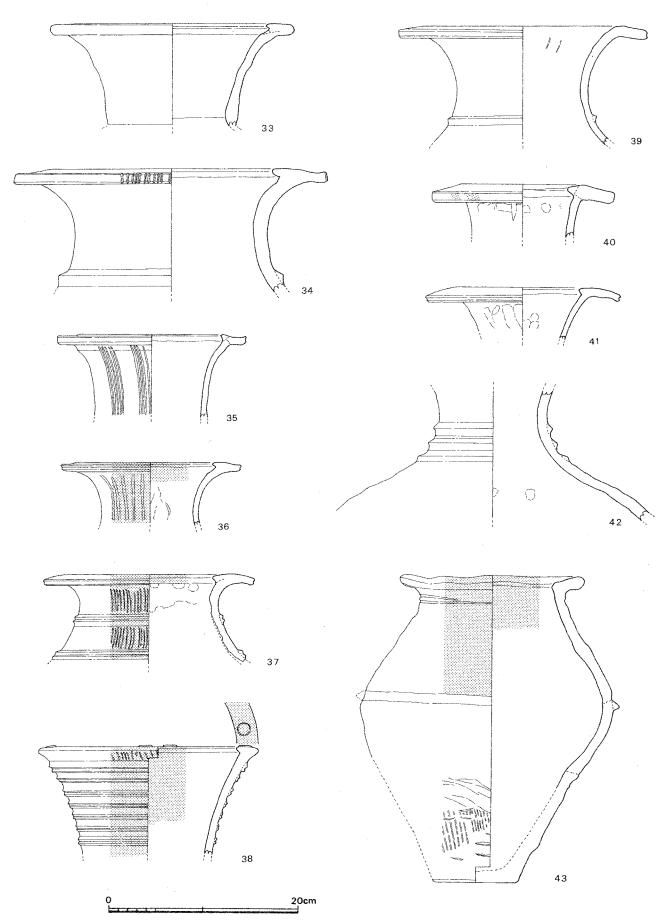
第1図 1号旧河道跡土器溜出土土器① (1/4)



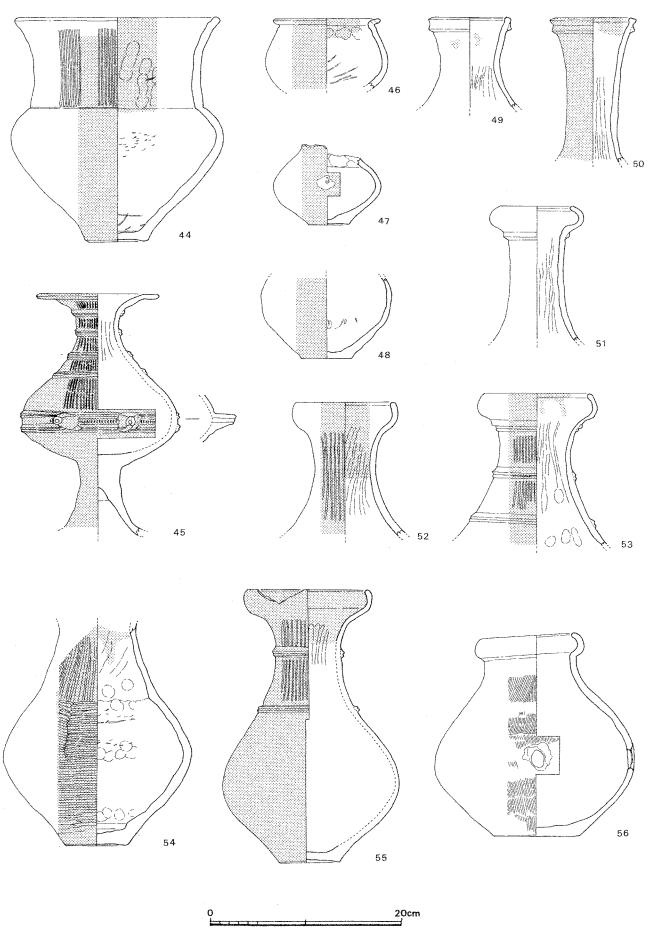
第2図 1号旧河道跡土器溜出土土器② (1/4)



第3図 1号旧河道跡土器溜出土土器③ (1/4)

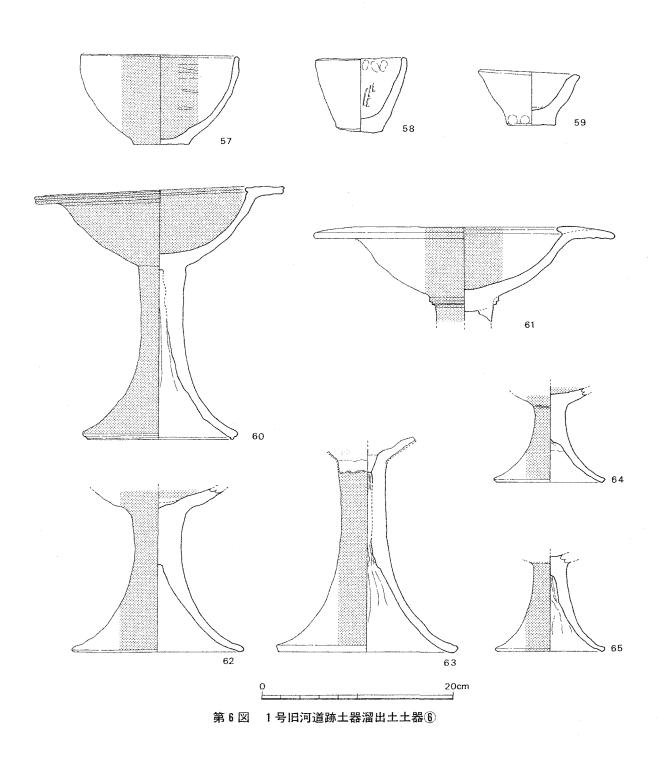


第4図 1号旧河道跡土器溜出土土器④ (1/4)



第5図 1号旧河道跡土器溜出土土器⑤ (1/4)

胎土に金雲母を含む。42はVI層・VI層下部,40・41はVII層出土。43は,いびつなつくりの丹塗壷である。にぶい黄橙色の色調で,胎土に石英・長石・角閃石・赤色砂粒を含む。擬無文土器の系統の可能性をもつ。VI層出土。44は,単口縁の広口丹塗壷である。胎土に金雲母を含む。VII層出土。45は,台付で二つの注口をもつ丹塗壷である。胎土に金雲母を含む。VII層上部出土。46~48は,小形の丹塗壷である。46は有蓋壷で,口縁に穿孔がみられる。47は注口を付けていたようだが,はげ落ちた部分をみると穴が貫通していない。46・48は胎土に金雲母を含む。47・48はVII層下部,46はVII層出土。49・



\_ 7 \_

50は北部九州東部地域系と考えられる丹塗の長頸壷である。口縁下に三角突帯を付けている。両者ともに胎土に金雲母を含まず、IV層出土。51~56は、袋状口縁壷である。51は、細長い頸部で黒塗の可能性をもっている。胎土は灰白色の色調で、石英・長石を含んでいる。VI層下部出土。52・54は突帯をもたない丹塗の長頸壷である。両者ともに胎土に金雲母を含む。54はVI層下部出土。52はVII層出土。53・54はM字をもつ丹塗の長頸壷である。両者ともに胎土にわずかに金雲母を含み、VI層出土。56は、短頸の丹塗壷で、わずかに丹塗りの痕跡がみられる。胎土に金雲母を含み、VI層上部出土。

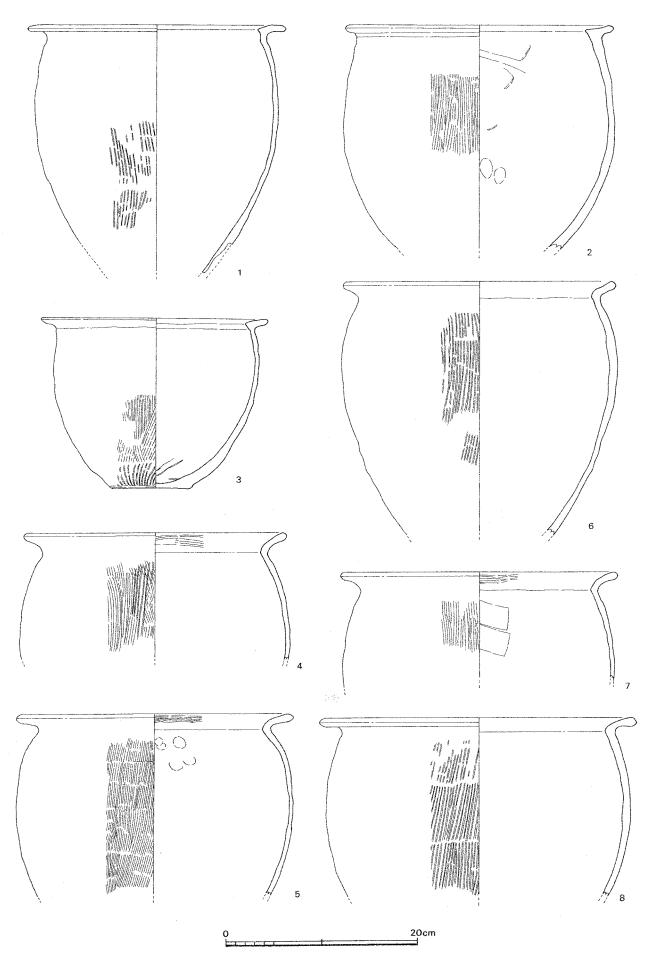
57~59は,鉢である。57は,椀形の丹塗鉢で胎土に金雲母を含み,VI層下部出土。58・59は手づくねの小形鉢で,両者ともに胎土に金雲母を含まない。58はVI層下部,59はVI層出土。

 $60\sim65$ は、丹塗高杯である。 $60\cdot61$ は鋤先形の口縁の高杯で、61は長めの口縁で端部を尖りぎみにおさめている。筒部と杯部との境界にはM字突帯を付けている。61は胎土に金雲母を含み、ともにIV層出土。 $62\sim65$ は筒部部分である。 $64\cdot65$ は小形品で、胎土に金雲母を含む。 $62\cdot64$ はVI層、 $63\cdot65$ はVII層出土。

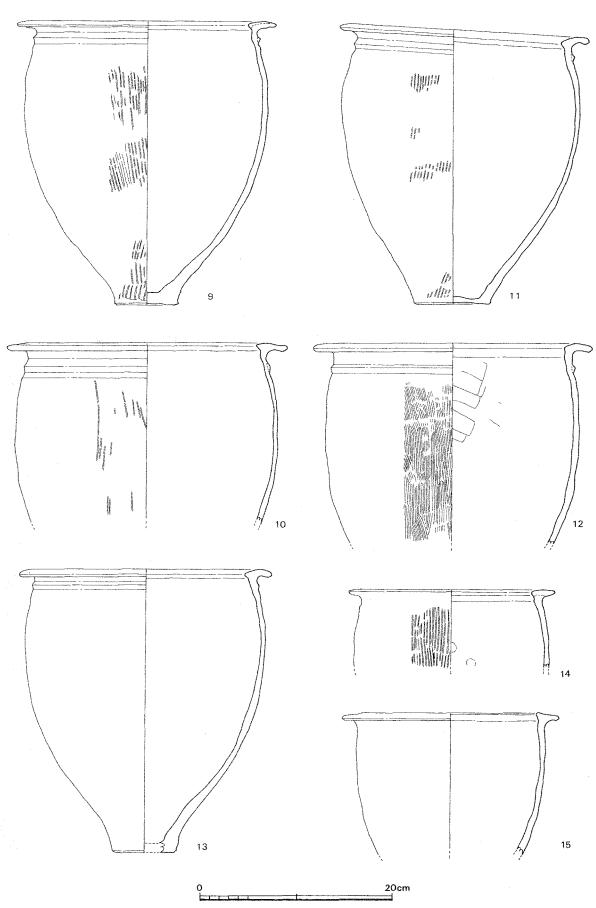
## ②1号旧河道包含層出土土器(第15図~第25図)

 $1\sim 26$ は,甕である。 $1\sim 3\cdot 14\cdot 15$ は鋤先形口縁の甕で,口縁下に突帯をもたないものである。 1と2は胴部に張りをもち、2は口縁の処理の仕方をみると朝鮮半島系の影響を受けた可能性をもっ ている。両者は胎土に金雲母を含み、V層から出土している。 3・14・15は、小形の甕である。 3 は 身が浅い鉢状の甕で、外面に煤が付着している。14・15は、口縁端部を尖りぎみにおさめるもので、 15の外面にはべったり煤が付着している。いずれも、胎土に金雲母を含み、14・15はV層、3はVI層 出土。9~13は、口縁下に突帯をもつ鋤先形口縁の甕である。9・10・12は胎土に金雲母を含み、11・ 13は金雲母を含んでいない。いずれもV層出土である。  $4 \sim 8$ は、口縁が屈曲して端部を丸くおさめ るもので、4・7・8は胎土に金雲母を含み、5・6は金雲母を含んでいない。いずれもV層出土で ある。 $16 \sim 18$ は跳ね上げ口縁の甕で、16は金雲母を含み、 $17 \cdot 18$ は金雲母を含んでいない。 $16 \cdot 18$ は V層, 17はⅥ層出土である。19~26は丹塗甕である。19・20・25・26は小形甕で, 19・20は身が深く, 25・26は身が浅い鉢形の資料である。19は丹塗の上に黒塗を施しているようだ。いずれも、金雲母を 含み、V層出土である。22~24は、鋤先形口縁で端部に刻目と胴部にM字突帯を施す甕である。いず れも胎土に金雲母を含み、V層出土である。21は、跳ね上げ口縁で口縁下に三角突帯をもつ甕である。 胎土に石英・長石・赤色砂粒を含むが、金雲母を含んでいない。V層出土。27~33は、壷である。27~29 は鋤先形口縁の壷で、28・29は丹塗壷である。28・29は胎土に金雲母を含むが、33は金雲母を含んで いない。いずれもV層出土である。30・31は、袋状口縁の壷で胎土に金雲母を含み、V層出土である。 32は、太い頸部から外湾ぎみに開く単口縁の壷で、胎土に金雲母を含む。V層出土。33は、鋤先形口 縁の系統を引く弥生後期の壷である。胎土に、石英・長石を含む。V層出土であるが、東端にあり、 近世以降の河川から混入した可能性が強い。

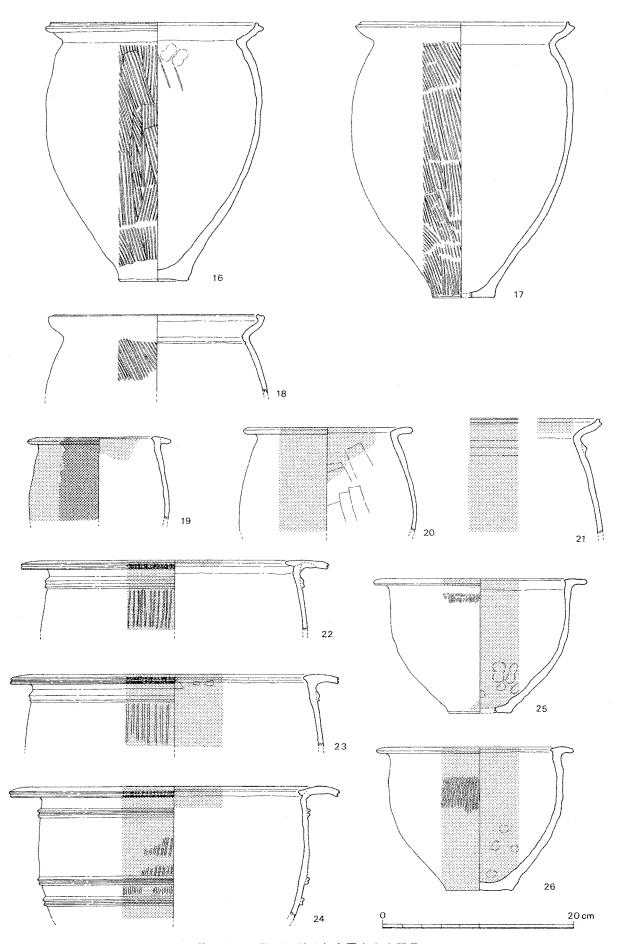
34~38は、丹塗高杯である。34~37は鋤先形口縁の杯部で、34は端部を丸くおさめるが、35~37は長い口縁で端部外方を面取りして平坦におさめている。いずれも胎土に金雲母を含み、V層出土であ



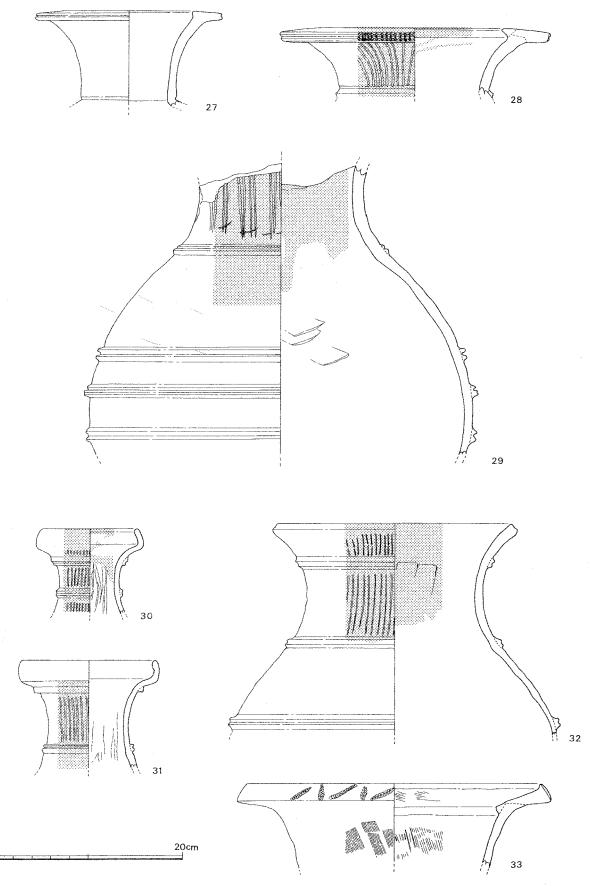
第7図 1号旧河道跡包含層出土土器① (1/4)



第8図 1号旧河道跡包含層出土土器②(1/4)



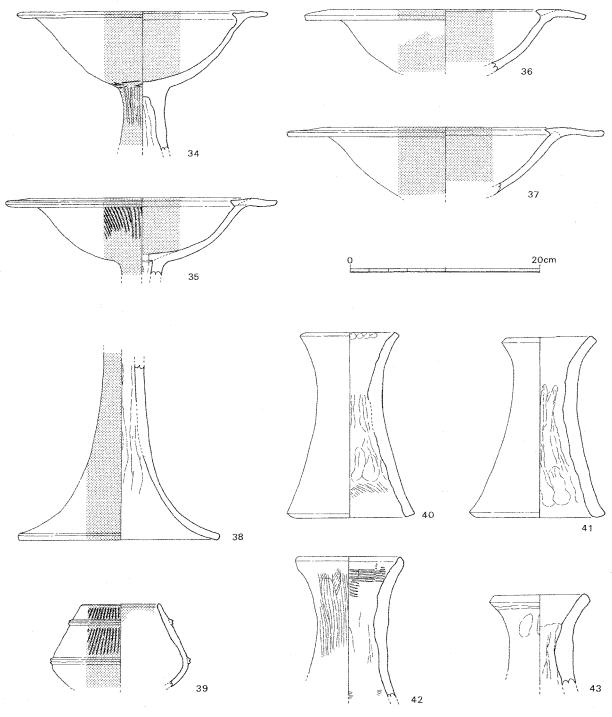
第9図 1号旧河道跡包含層出土土器③



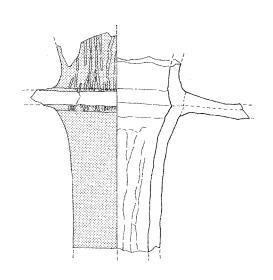
第10回 1号旧河道跡包含層出土土器④ (1/4)

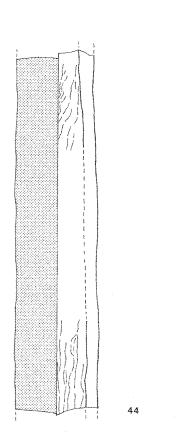
る。38は筒部で、胎土に石英・長石を含む。V層出土。39は丹塗の台付壷の体部で、無頸壷の形状をなす。胎土に金雲母を含み、V層出土である。

40~43は、筒形の器台である。いずれも胎土に金雲母を含み、V層出土である。44は、鍔をもつ丹 塗の大形器台である。2個体に復原できたが、同一個体と考えられる。口頸部と鍔部には暗文を施し ている。胎土に少量金雲母を含み、V層・VI層出土である。



第11図 1号旧河道跡包含層出土土器⑤ (1/4)







第12図 1号旧河道跡包含層出土土器⑥ (1/4)

### ③2号旧河道(AB11·12区)出土土器(第26~29図)

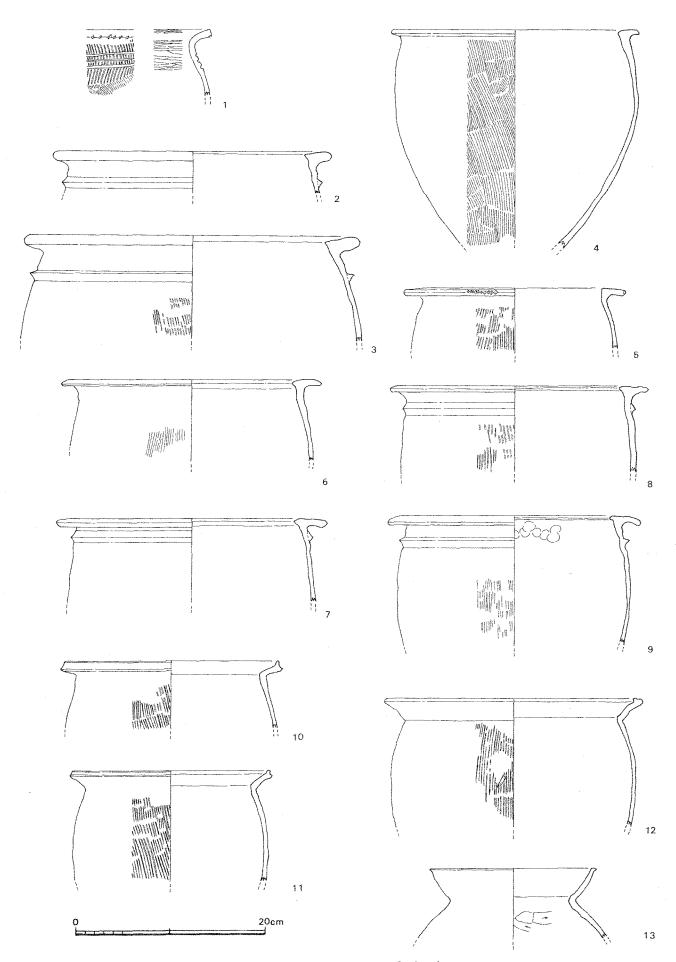
 $1\sim13$ は,甕である。 1 は如意形口縁の甕で,口縁下端に刻目を施し,丸く張りをもつ胴部には 3 条の沈線をめぐらしている。胴部内面上半には,横位にミガキを施している。外面は煤けて黒褐色を呈するが,内面は灰白色の色調である。胎土には長石と黒色砂粒を含んでいる。 B11区出土。  $2\cdot3\cdot4$  は,逆L字口縁の須玖 I 式古段階の甕で,  $2\cdot3$  は胴部上半に三角突帯をもつ。いずれも胎土に金雲母を含み, B11区出土である。  $5\sim9$  は,鋤先形口縁の甕である。 5 は, 口縁端部に一部刻目を施している。  $7\sim9$  は,口縁下に三角突帯をもつ。  $5\cdot7\cdot8$  は須玖 I 式新段階,  $6\cdot9$  は須玖 I 式古段階の甕であろう。  $5\cdot6\cdot8$  は胎土に金雲母を含み,  $5\cdot7\cdot9\cdot$  は A11区, 8 は B11区, 6 は B12区出土。  $10\sim12$ は,跳ね上げ口縁の甕で, 12は端部を内方に摘みぎみに仕上げる。  $10\cdot12$ は,胎土に金雲母を含み,いずれも 120 と 131 は 131 に 132 に 133 に 134 に 135 に 136 に 137 に 138 に 139 に

14~28は、壺である。14~17は、単口縁の広口壺である。14は、ぶ厚いつくりの壺で、口頸部は外湾ぎみに開き、頸胴界に小さな三角突帯を貼りつけている。中期初頭ごろの資料であろうか。15は、胴中位が張りをもつ城ノ越式の小形壺である。頸部には全面に暗文を施す。胎土に金雲母を含み、B 11区出土である。16は丹塗の有蓋壺で、口縁に2箇所穿孔されている。胎土に金雲母を含み、B 11区出土である。17~19は鋤先形口縁の壺である。19は口縁端部に刻目を、頸部に暗文を施している。19は域ノ越式、17は須玖 I 式古段階、18は須玖 I 式新段階に位置付けられよう。17・19は胎土に金雲母を含み、B 11区出土。18はA 11区出土。20は鋤先形口縁の系統を引く後期の壺で、胎土に金雲母はみられない。B 11区出土。21は北部九州東部系の丹塗長頸壺である。口頸界に三角突帯を付す。胎土に金雲母を含んでいるい。B 11区出土。22と23は弥生後期前半期の複合口縁の壺で、23は胎土に金雲母を含んでいる。22はB 11区、23はA 11区出土。24は、古墳初頭の直口壺で、胴部内面は櫛状の工具で深くナデられている。灰黄色の色調で、胎土に金雲母を含んでいる。B 11区出土。25は布留式の広口壺で、胎土にごく少量金雲母を含んでいる。A 12区出土。26・27は、山陰系の複合口縁壺である。26は黄灰色の色調で、胎土に石英・黒色砂粒・金雲母を含んでいる。27は浅黄橙色の色調で、胎土に石英・黒色砂粒・金雲母を含んでいる。27は浅黄橙色の色調で、胎土に石英・黒色砂粒・金雲母を含んでいる。27は浅黄橙色の色調で、胎土に石英・長石・角閃石・金雲母を含んでいる。26はA 12区、27はA 11区出土。

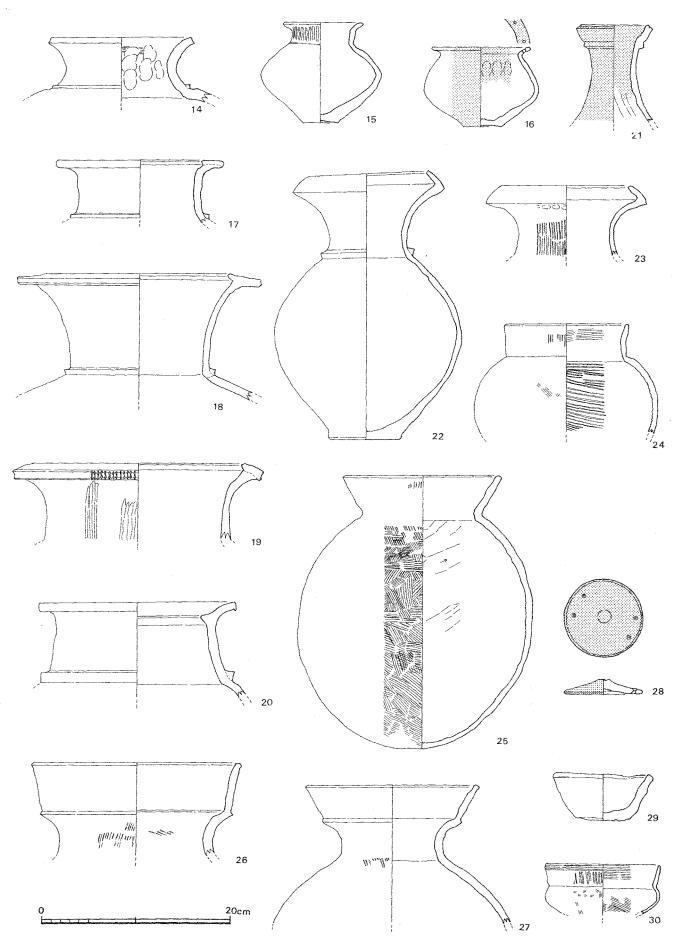
28は丹塗壷の蓋である。 2 箇所ずつの穿孔が対面にみられる。 B11区出土。 29と30は鉢である。 29は手づくねの鉢で、胎土に金雲母を含み、 B11区出土。 30は、 古墳初頭の小形杯で、 台付の可能性をもつ。 胎土に金雲母を含み、 B11区出土。

 $31\sim35$ は,北部九州系の甕棺片である。 $32\sim34$ が比較的大形な品で,31と35は小形棺である。32は胎土に金雲母を含んでいる。橋口達也氏の甕棺の編年によれば, $31\sim33\cdot35$ がK II b 式からK II c 式,34がK III a 式段階の資料であろうか。31はA 12 区,32はA 11 区,33はB 12 区,34  $\cdot35$ はB 11 区から出土している。

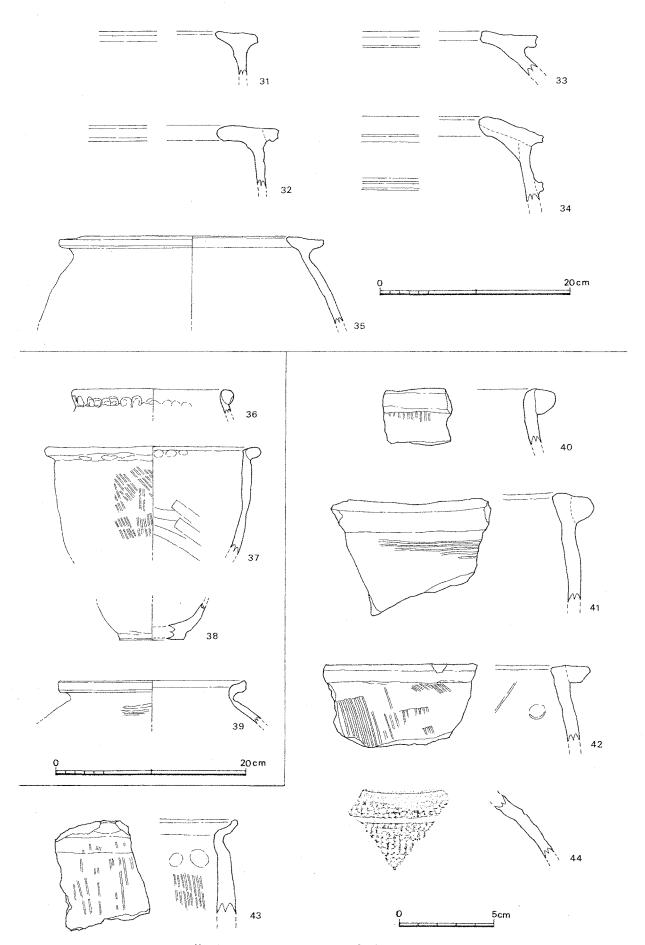
36~44は、朝鮮半島系あるいはその影響を受けた土器である。36~38、40~43は無文土器系統の土



第13図 2号旧河道出土土器① (1/4)



第14図 2号旧河道出土土器② (1/4)



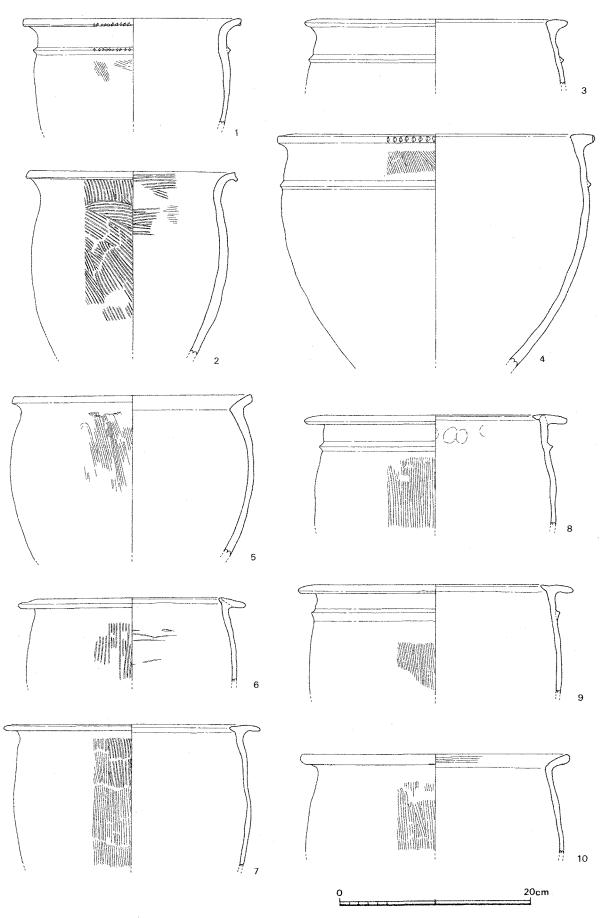
第15図 2号旧河道出土土器② (1/4, 1/2)

器で、36は口縁の粘土紐が丸いが下端全体に指オサエ痕が残る。37・40~42は、粘土紐の上方を平坦にして、41はハケを横位に施してナデ消している。43は口縁部を小さく外湾ぎみに摘みあげている。38は底部片である。38と42は、胎土に金雲母を含む。38がB12区から出土している他は、B11区から出土している。39と44は、瓦質土器である。39は口縁を屈曲して端部を摘みぎみにおさめている。胴部は横位にミガキ調整している。B11区出土。44は、格子目叩きを施す壷である。B12区出土。 ④ 3 号旧河道( $B8 \cdot 9$  区)出土土器(第29~31・32図)

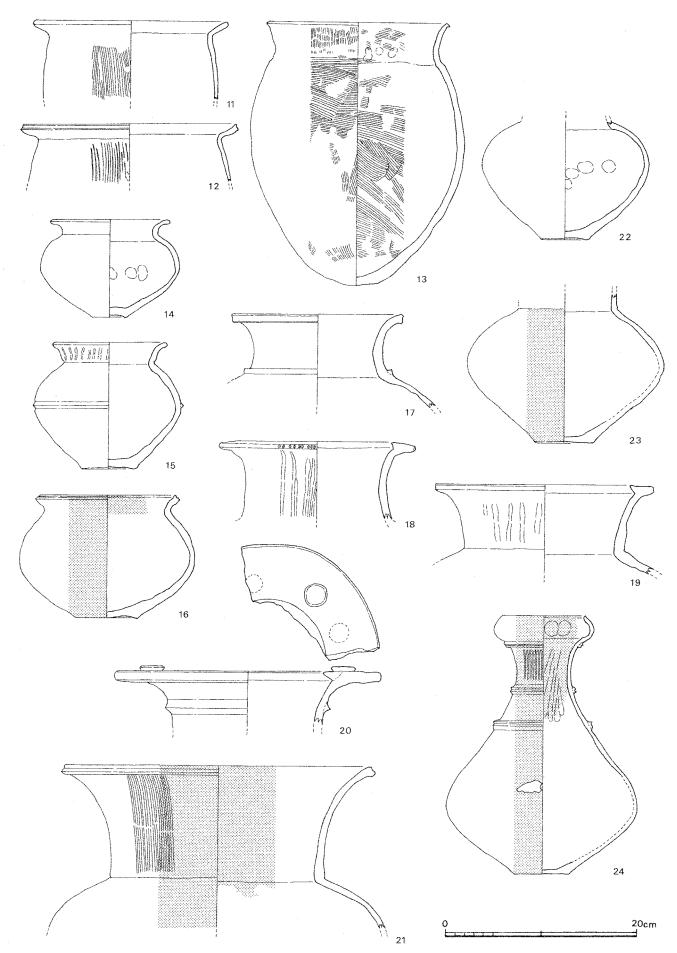
1~13は,甕である。1・2は如意形口縁の甕で,1は口縁下端と突帯に刻目を施しているが,2は刻目をもたないもので,時期的には1が弥生前期末で,2が弥生前期末から中期初頭の資料であるう。両者ともに胎土に金雲母を含まず,1がB9区,2がB8区から出土している。3・4は,口縁断面が三角形をなす城ノ越式の資料で,4は口縁端部に刻目を施している。両者ともに胎土に金雲母を含み,B8区出土である。5は,逆L字形の口縁で内面に内傾している。胎土に金雲母を含み,B8区出土である。6~9は,鋤先形口縁の須玖II式古段階の資料で,8・9は口縁下に三角突帯を付している。5・8・9は胎土に金雲母を含み,B8区出土。10・11は,屈曲口縁の中期末の資料で,端部を肥厚して丸くおさめている。両者ともに胎土に少量金雲母を含み,B8区出土。12は,跳ね上げ口縁の資料で,胎土に石英・長石を含み,B8区出土。13は,古墳初頭の完形甕である。古墳時代の資料は1点のみであるので,部分的に撹乱された落ち込みがあったのであろうか。

14~24は、壷である。14・15は単口縁で小形の広口壷である。15は頸部の全面に暗文を施す。14は城ノ越式,15は須玖 I 式の資料である。両者ともに胎土に金雲母を含み,B 8 区出土。16は丹塗の小形広口壷で,口縁端部を小さく摘みぎみにおさめている。B 8 区出土。17は,外湾する口縁の広口壷で頸胴界に三角突帯を貼りつけている。胎土に金雲母を含み,B 8 区出土。18~20は,鋤先形の口縁壷である。18は口縁端部に刻目を付し,18・19ともに頸部全面に暗文を施す。20は頸部に三角突帯をめぐらし,口縁上面に円形浮文を貼りつけている。18は城ノ越式,19は須玖 I 式の資料で,20は暗灰黄色の色調をもつ北部九州東部系の資料である。19は胎土にごくわずかに金雲母を含み,18・20は石英・長石を含んでいて,20は長石を多く含む。18・19はB 8 区,20はB 9 区出土。21は単口縁の丹塗広口壷で,頸部に部分暗文を施す。須玖 II 式古段階の資料であるう。胎土に金雲母を含み,B 8 区出土。22・23は広口壷の胴部で,23は丹塗壷である。ともに胎土に金雲母を含み,B 8 区出土。24は袋状口縁壷で,口頸部の大半を打ち欠き,胴部に 1 箇所穿孔がみられる。胎土に金雲母を含む。B 9 区出土。

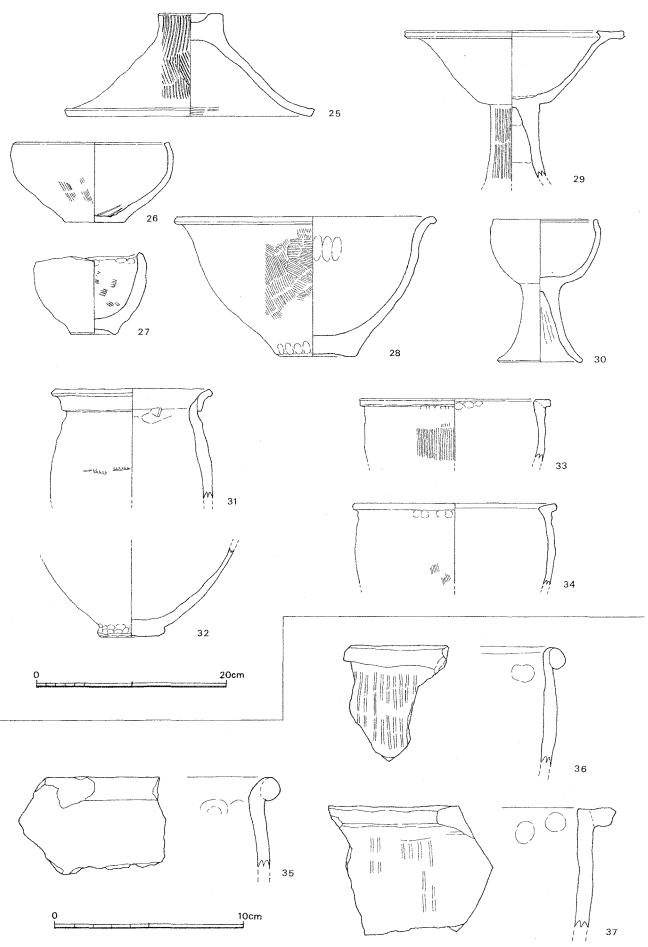
25は甕蓋である。胎土に金雲母を含み,B8区出土。26~28は鉢である。26は椀形の鉢で,内面上半部が煤けて黒ずんでいる。胎土に金雲母を含まず,B8区出土。27は手づくねのいびつでぶ厚いつくりの鉢で,胎土にごくわずかに絹雲母を含んでいる。B8区出土。28は大形の鉢で,胎土に金雲母を含む。B8区出土。29・30は高杯である。29は鋤先形口縁の高杯で,身がわりに深く丹塗でない資料である。30は椀形の身に脚部が付く資料で,緻密なミガキ調整がなされている。胎土に金雲母を含み,B8区出土。38・39は北部九州系の成人甕棺片である。橋口達也氏編年のKIIb式~KIIc式で



第16図 3号旧河道(B8・9区)出土土器①(1/4)



第17図 3号旧河道 (日8・9区) 出土土器② (1/4)



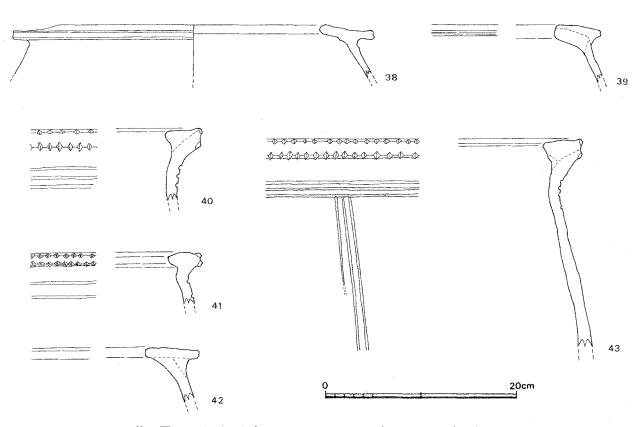
第18図 3号旧河道 (B8・9区) 出土土器③ (1/4, 1/2)

あろう。胎土に、38は石英・長石・角閃石・赤色砂を含み、39は石英・長石を含む。

31~37は朝鮮半島系の無文土器およびその影響を受けた土器である。35・36は口縁に丸い粘土紐を付けるもので、36は1箇所粘土紐下端を押えた痕跡がみられる。胎土に35は石英・角閃石を含み、36は石英・長石・赤色砂粒を含む。35はB9区、36はB8区出土。31は粘土帯を貼りつける口縁の資料で、胎土に粗い石英砂を多く含み、角閃石を若干含む。B8区出土。32・34・37は口縁の粘土紐を面取りして方形に仕上げたもので、口縁下端には指オサエの痕跡が残る。形態的に楽浪系の花盆形土器の影響を受けたものであろうか。検討を要する。胎土に33は石英・角閃石を含み、34・37は石英・長石を含む。33・34はB8区、37はB9区出土。32は甕体下半部で、円盤状の底は指オサエ痕が残る。胎土に石英・長石を含む。B8区出土。

## ⑤ 3 号旧河道(C7 · 8区)出土土器(第32~40図)

 $1\sim25\cdot28$ は,甕である。 $1\sim10$ は如意形口縁の甕で,1は口縁下端に刻目を施し,他は端部外方を平坦に仕上げている。 $2\sim4$  は胴部に1条, $5\cdot6$  は2条の沈線をめぐらす。弥生前期末の資料である。 $1\sim10$ はいずれも胎土に金雲母を含み,1 がC 8 区の他は,C 7 区出土。 $9\cdot10$ は如意形口縁の甕であるが,端部を丸くおさめ,胴部に張りをもつ資料である。片岡宏二氏から勒島遺跡出土のものに類似していて中期後半以降の資料ではないかとの教示を受けた。国内での搬入土器の可能性も検討すべきであろう。ともににぶい赤褐色の色調で,胎土に9 は石英・長石・金雲母を含み,10は石英・



第19図 3号旧河道 (B 8 · 9, C 7 · 8区) 出土土器 (1/4)

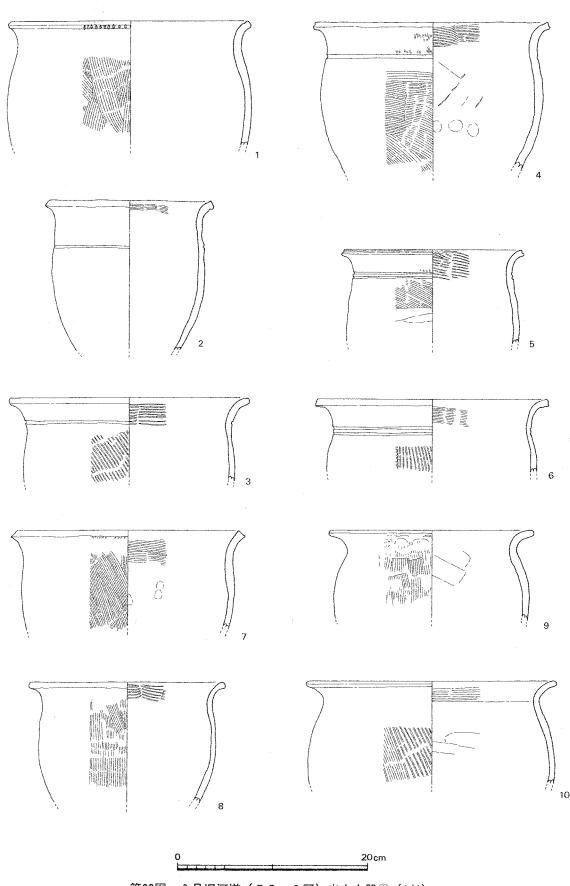
長石を含む。C7区出土。11~14・16・17は逆L字形口縁の甕で、11~13が須玖 I 式古段階、14・16・17が須玖 I 式新段階の資料であろう。13・14は胎土に金雲母を含み、13がC7区以外はC8区出土。15は鋤先形口縁の甕で、須玖 II 式古段階の資料であろう。胎土に若干金雲母を含み、C8区出土。18・19は同一個体の可能性が高いが、接合できなったので別個体として図化した。逆L字形の口縁は内面にむかってやや傾斜していて、胴部は尖りぎみに張りをもっている。外面は粗いハケ調整され、上半部はナデつけというよりもペタペタと軽く敲いたような感を受ける。にぶい黄橙色の色調で、胎土に石英・長石・金雲母を含む。C8区出土。20~25は鋤先形口縁の甕で、口縁下に三角突帯を付している。20~24は須玖 I 式新段階、25が須玖 II 式古段階の資料であろう。23は胎土に金雲母を含む。25がC7区の他は、C8区出土である。28は2条の刻目突帯と口縁に刻目を施す大甕で、口縁は肥厚され内面に突出している。胎土に金雲母を含む。C7区出土。

26・27は、筒形の器台である。いずれも胎土に金雲母を含み、С8区出土。

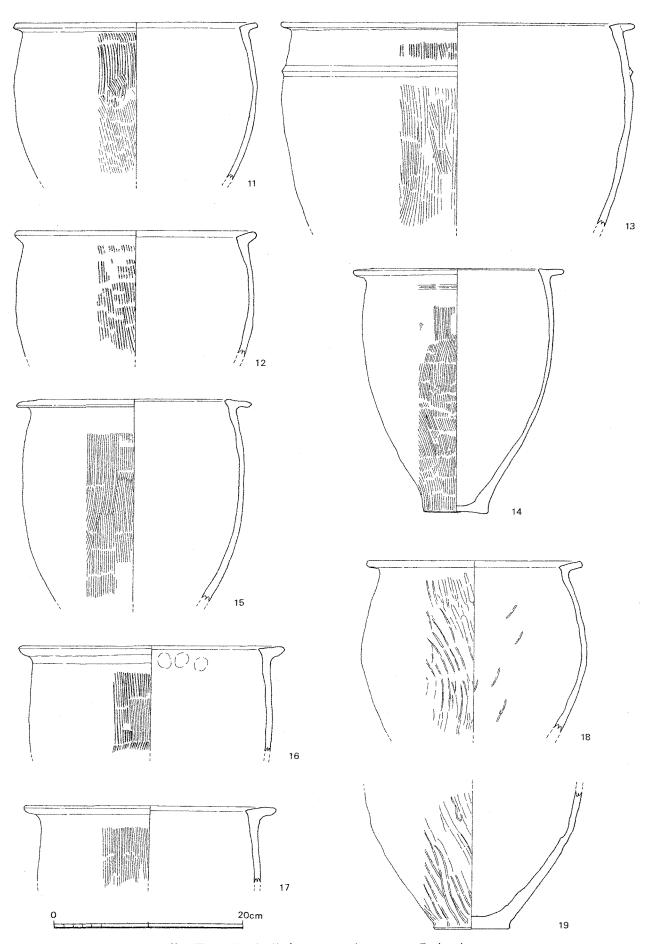
29~51は、壷である。29・45~51は肩部に文様をもつ壷である。29はヘラ先を押し当てて羽状文を 描くもので、45はヘラ描きの羽状文、46・48~51は貝殻羽状文、47は細いヘラ描きの重弧文を配して いる。29と46は胎土に金雲母を含む。29・46・49・51はС8区,45・47・48・50はС7区出土。30・ 31は頸胴界に沈線を施す壷で、弥生前期末から中期初頭の資料であろう。30は胎土に金雲母を含む。 いずれもС7区出土。32・33は口縁が外湾して開くぶ厚いつくりの広口壷で、胎土に金雲母を含む。 城ノ越式の資料であろう。35・36は頸部全面に暗文を施し,頸胴界に小さな三角突帯を貼りつける壷 である。城ノ越式の資料であろう。胎土に金雲母を含む。34・37は頸胴界に2条・3条の沈線を施す 壺で、34は頸部全面に粗いハケにより暗文風の装飾を施し、口縁上部を肥厚して段を有する。城ノ越 式の資料であろう。34は胎土に金雲母を含む。いずれもС7区出土。38~40・44は口縁上部を肥厚し て段を有する未発達の鋤先形口縁の壷である。38は頸部全面に、40・44は部分暗文がはいる。38は城 ノ越式, 39・40・44は須玖 I 式の資料であろう。40・44は胎土に金雲母を含む。40・44が C 8 区の他 は,C7区出土。41は口縁が朝顔形に開く単口縁の広口壷である。丹塗ではなく,頸部の全面に暗文 がはいる。須玖Ⅰ式の資料であろう。胎土に金雲母を含む。С8区出土。42は有蓋の無頸壷である。 胎土に金雲母を含む。С7区出土。43は古墳前期の布留式の長頸壷である。薄手の丁寧なつくりで、 内面には放射状に細い暗文がはいる。胎土に金雲母を含み、С7区 I 層出土。これ以外資料は弥生時 代の包含層であるⅢ層出土品であるが,この資料はI層出土である。当初I層は弥生時代の包含層で あると考えていたが、この資料によって古墳前期になることが判明した。

第32図の40~43は、北部九州系の甕棺片である。40・41・43は橋口達也氏編年のKIc式のいわゆる金海式の甕棺である。いずれも胎土に金雲母を含み、C7区出土。42はKIIb式であろう。胎土に金雲母を含む。C8区出土。

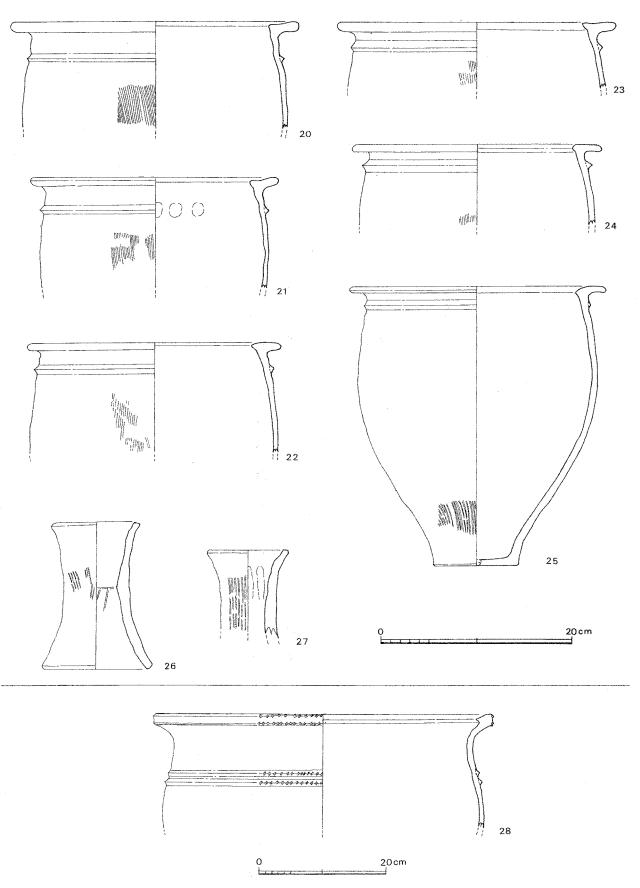
52~89は、朝鮮半島系土器およびその影響を受けた土器である。52・54・66~76は、丸い粘土紐を 貼りつけて口縁とする甕と鉢で、76は上面をナデて平坦にしている。68・69・72・74・75は粘土紐の 下端を指で押えた痕跡が残る。53・55・56は粘土紐の下端を連続的に指で押えて、断面が丸みをもっ



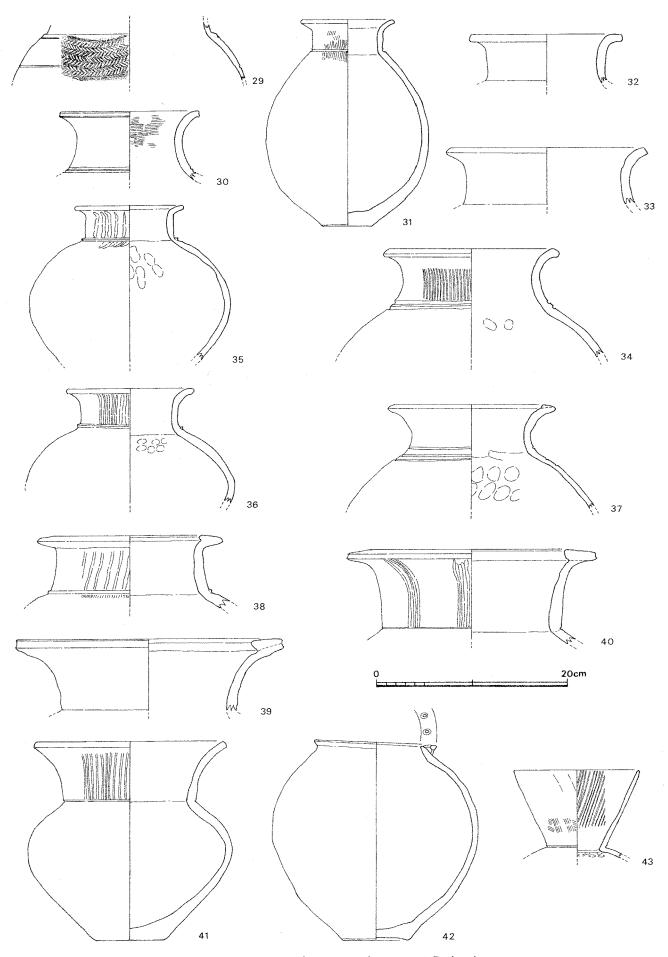
第20図 3号旧河道 (С7・8区) 出土土器① (1/4)



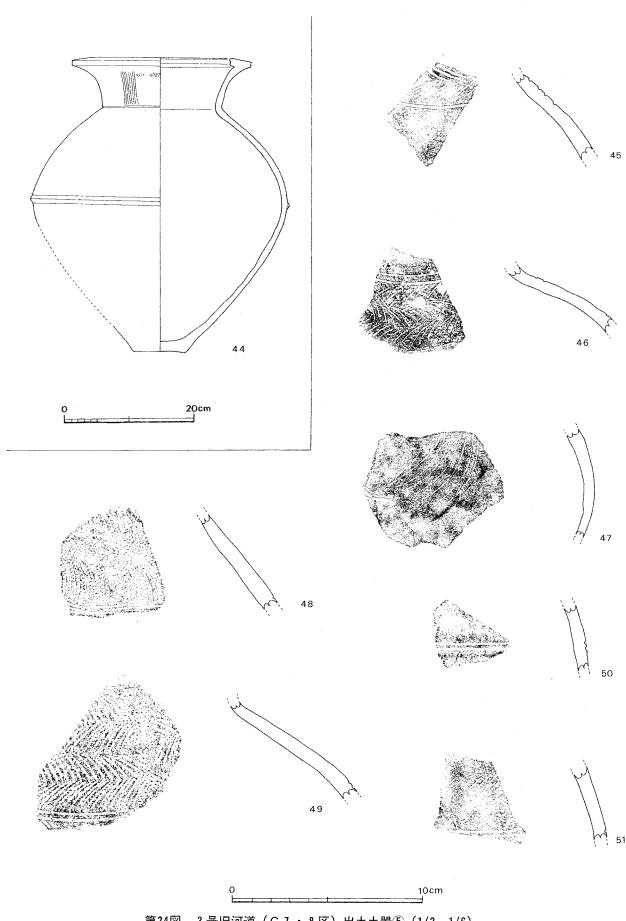
第21図 3号旧河道 (С7・8区) 出土土器② (1/4)



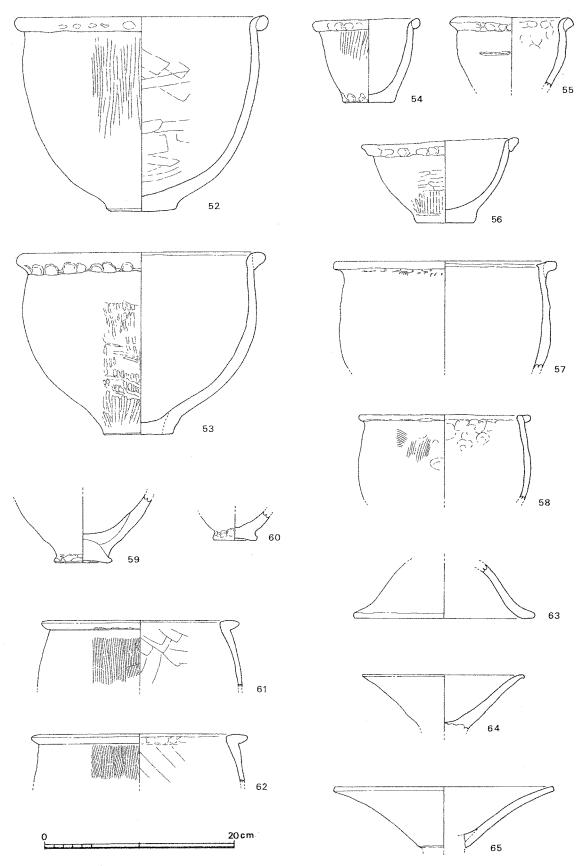
第22図 3号旧河道 (C7・8区) 出土土器③ (1/4, 1/6)



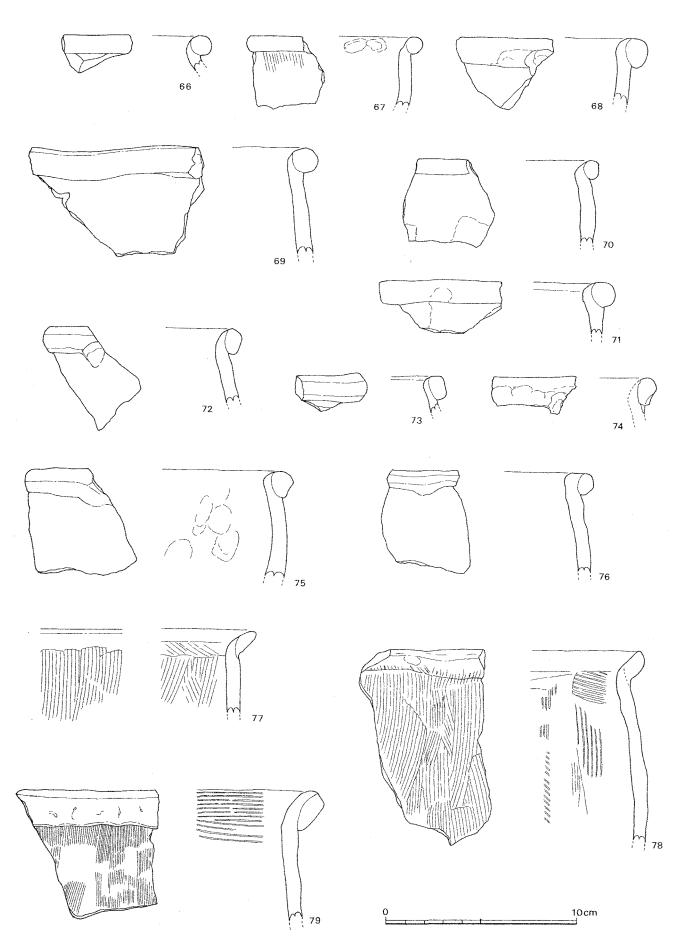
第23図 3号旧河道 (C7·8区) 出土土器④ (1/4)



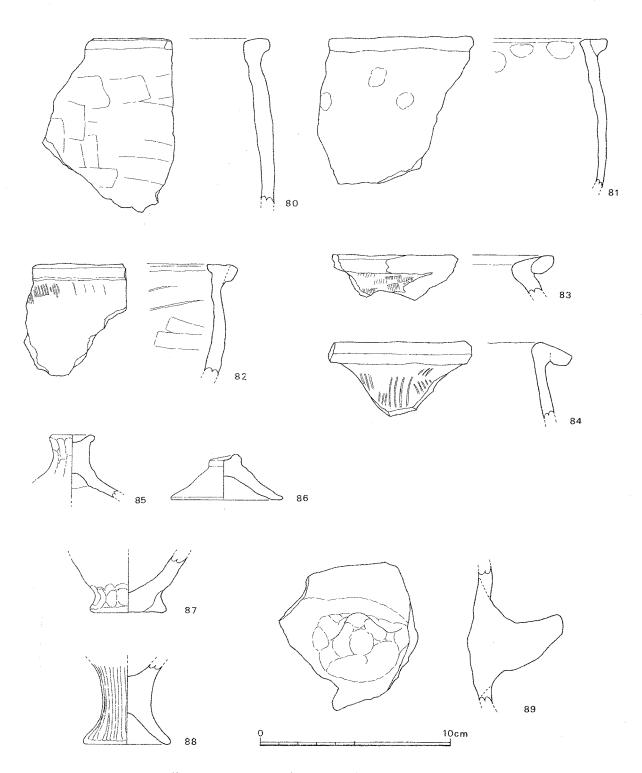
第24図 3号旧河道 (С7・8区) 出土土器⑤ (1/2, 1/6)



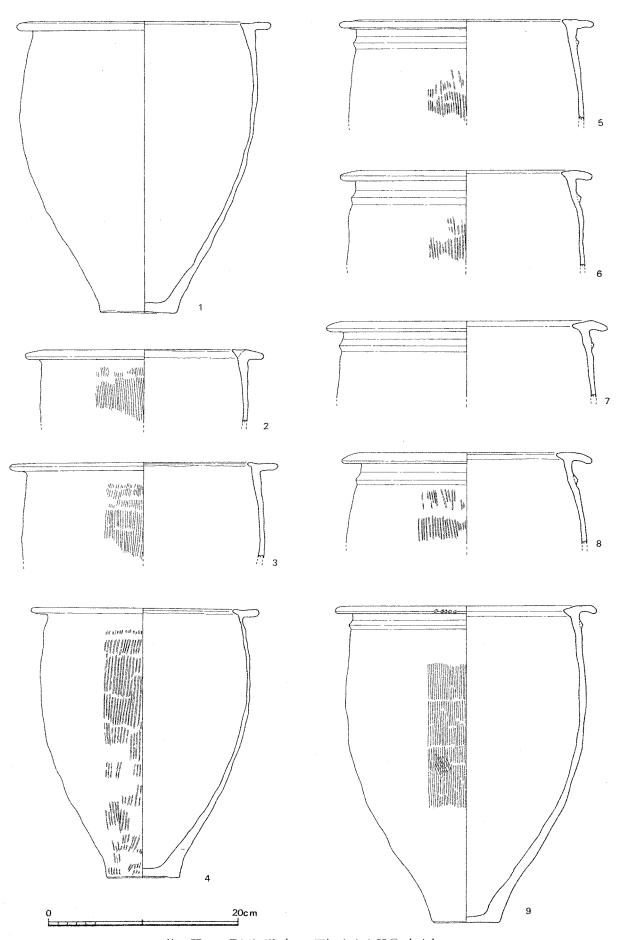
第25図 3号旧河道 (С7・8区) 出土土器⑥ (1/4)



第26図 3号旧河道 (C7・8区) 出土土器⑦ (1/2)

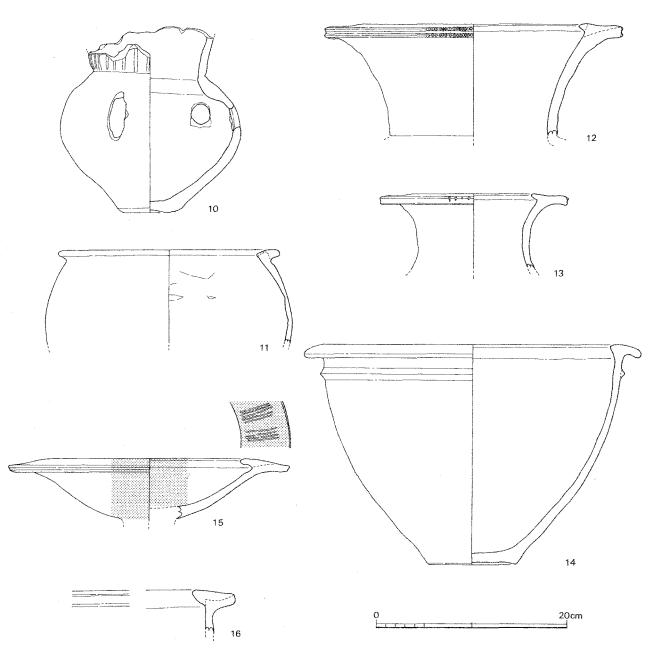


第27図 3号旧河道 (С7・8区) 出土土器⑧ (1/2)



第28図 4号旧河道 (C2区) 出土土器① (1/4)

た三角形状になる甕と鉢である。54・56は完形の鉢で、52・53とともに縦位にミガキを施している。52~56、69はC7区、66~68、70~76はC8区出土。79は粘土帯を貼りつけてるもので、細かいハケ調整を行っている。胎土に金雲母を含み、C7区出土。77・78は粘土紐を摘みぎみにおさめて、短く外反する口縁をもつ甕で、調整にハケを多用している。C8区出土。57・58・80~82は口縁の粘土紐を面取りして平坦におさめる甕で、58・81は胎土に金雲母を含む。80がC7区、57・58・81・82はC8区出土。83・84は口縁上面を平坦にして口縁が強く屈曲する甕で、83はC7区、84はC8区出土。61・62は弥生土器に類似する甕で、粘土紐の接合など口縁下端の処理の仕方に弥生土器とのニユアン



第29図 4号旧河道 (C2区) 出土土器② (1/4)

スの違いをみることができる資料で、折衷的な様相をもつものであろうか。いずれもC7区出土で、62は胎土に金雲母を含む。59・60は甕あるいは鉢の体下半部の資料で、円盤形の底部には指オサエの痕がみられる。ともに胎土に金雲母を含む。63は甕蓋と推測される資料で、内面には煤が付着している。C7区出土。64・65は高杯の杯部で、内外面ともに緻密なナデ仕上げが施されている。C7区出土。89は牛角把手の破片である。赤褐色を呈する。C8区出土。85・86は蓋、87は甕、88は高杯のミニチュア製品で、灰褐色あるいは褐灰色の色調を呈する。88は外面全体に縦位のミガキを施す。85~87はC7区、88はC8区出土。

#### ⑥ 4 号旧河道 (C 2 区) 出土土器 (第41·42図)

 $1\sim 9$  は鋤先形口縁の甕である。 $1\sim 4$  は突帯をもたない甕で,須玖 I 式新段階の資料であろう。いずれも胎土に金雲母を含む。 $5\sim 9$  は口縁下に三角突帯をもつ甕で, $5\cdot 6$  は須玖 I 式新段階, $7\sim 9$  は須玖 I 式古段階の資料であろう。9 は口縁端部に部分的に刻目を施している。いずれも胎土に金雲母を含む。

11~13は壷である。10は口頸部を打ち欠いて、胴部に6箇所の穿孔をした資料である。残存した頸部には全面に暗文風に沈線を縦に施している。須玖I式新段階の資料であろう。胎土に微細な金雲母を含む。12・13は鋤先形口縁の壷で、12は端部に刻目を施し、13は部分的に刻目を施している。いずれも胎土に金雲母を含む。11は小さく外反した口縁の広口壷である。外面は横位のミガキ調整がなされている。

14は大形の鉢で、内外面は平滑なナデ仕上げされている。15は丹塗高杯の杯部で、鋤先形口縁の上面に部分暗文が施されている。16は北部九州系の甕棺の小片である。小形棺で、橋口達也氏編年のKIIb式であろうか。金雲母を胎土に含んでいる。

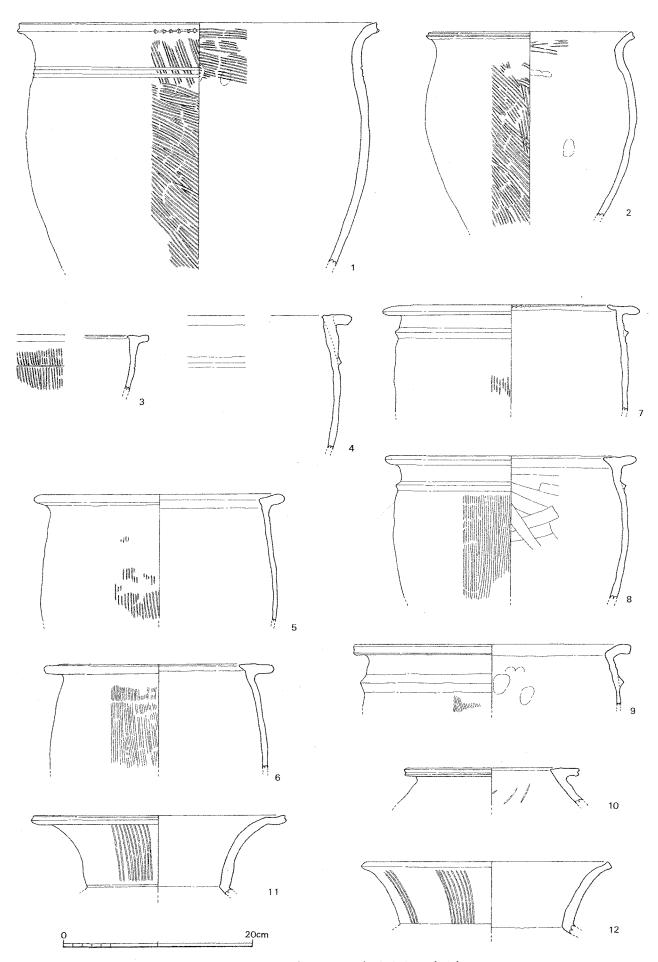
#### ⑦ 4 号旧河道 (C3 · 4区) 出土土器 (第43図)

1~9は,甕である。1・2は如意形口縁の甕で,1は口縁下端に刻目をもち,2条の沈線をめぐらす。1は弥生前期末,2は前期末~中期初頭の資料であろう。いずれも胎土に金雲母を含む。3~5は逆L字形の口縁の甕で,3が城ノ越式,4・5が須玖Ⅰ式古段階の資料であろう。6~8は,鋤先形口縁の甕で須玖Ⅰ式新段階の資料であろう。7は口縁部内面突出部の一部に刻目を施している。3・5・6・8は胎土に金雲母を含む。9は,屈曲口縁の甕で,端部がやや肥厚されて外方を平坦におさめている。胴部には幅広の三角突帯を貼りつけている。北部九州東部系の甕であろうか。灰黄褐色の色調で,胎土に石英・長石を含んでいるが,金雲母みあたらない。

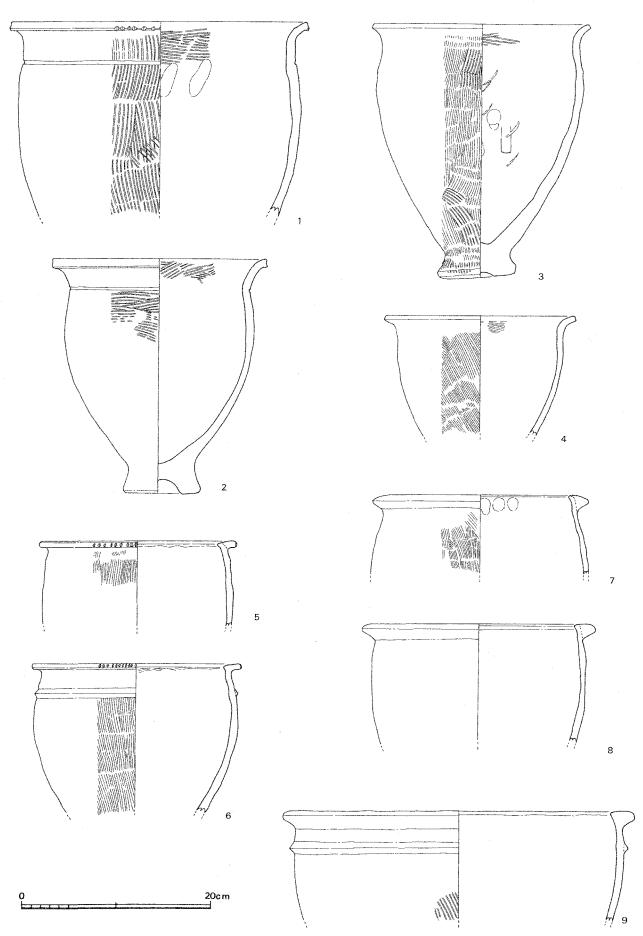
10~12は、壷である。10は急速にすぼまる胴部から口縁は強く折れて上面が水平となる壷で、胎土 に石英・長石を含む。11・12は朝顔形の大きく開く広口壷で、頸部に部分暗文を施している。両者と もに丹塗でなく、胎土に若干金雲母を含む。

#### ⑧ 4号旧河道(CD4・5区)出土土器(第44~47図)

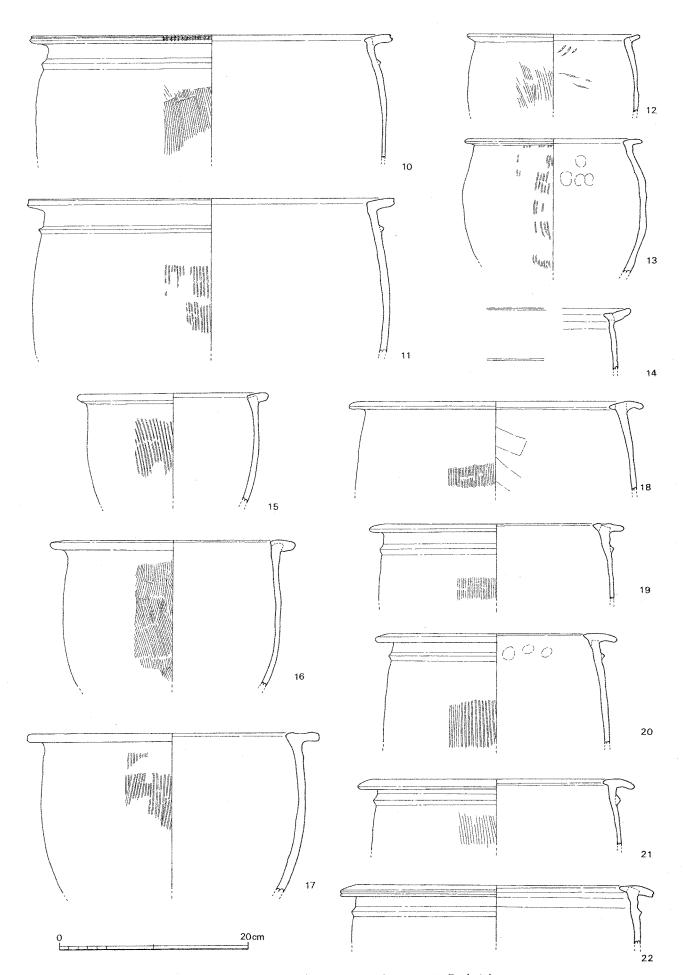
 $1\sim23$ は甕である。 $1\sim4$ は如意形口縁の甕で,1は口縁下端に刻目を施し1条の沈線をめぐらすが, $2\sim4$ は刻目をもたず,2は胴部に1条の沈線をめぐらす。 $2\cdot3$ はぶ厚い台付の底部である。



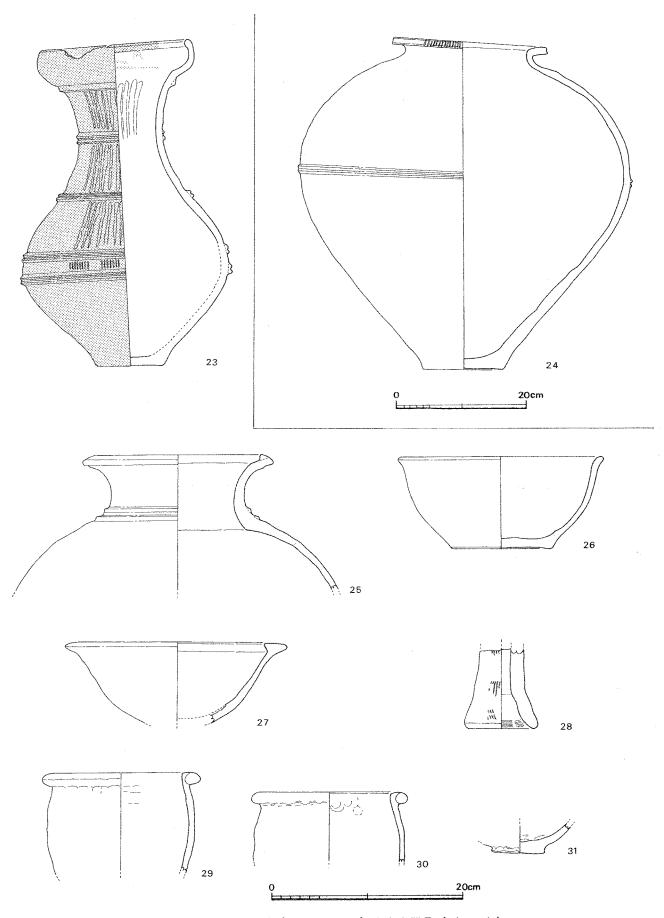
第30図 4号旧河道 (C3・4区) 出土土器 (1/4)



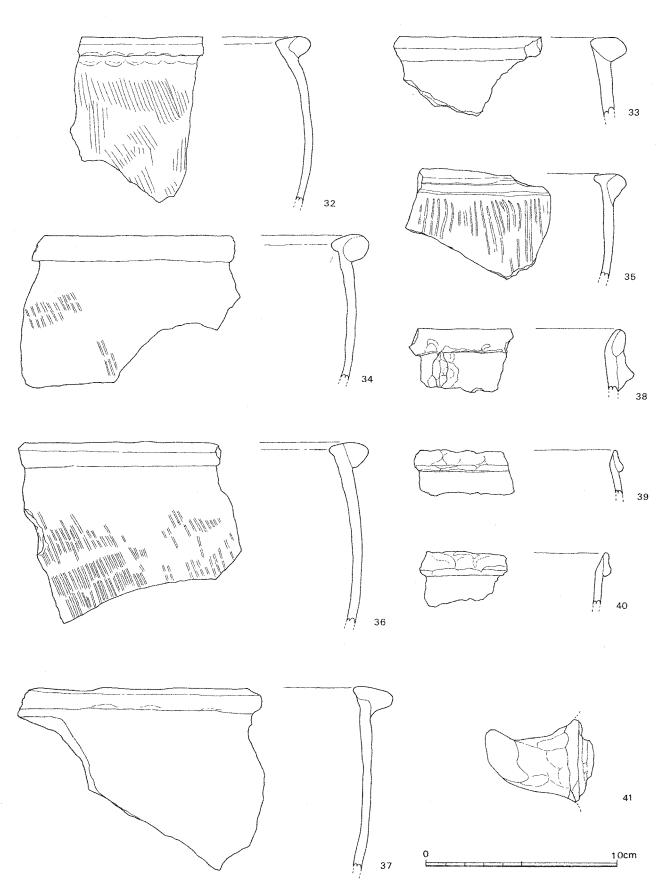
第31図 4号旧河道 (CD4・5区) 出土土器① (1/4)



第32図 4号旧河道 (CD4・5区) 出土土器② (1/4)



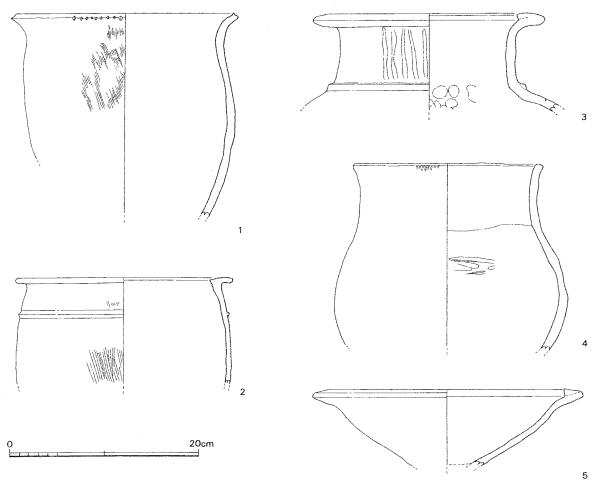
第33図 4号旧河道 (CD4・5区) 出土土器③ (1/4・1/6)



第34図 4号旧河道 (CD4・5区) 出土土器④ (1/2)

1が弥生前期末,2~4は前期末~中期初頭の資料であろう。1・2・4は胎土に金雲母を含む。2がCD4区の他は,CD5区出土である。5・6は短い逆L字形の口縁で端部に刻目を施す甕で,6は胴部に三角突帯を貼りつけている。城ノ越式の資料であろう。6は胎土に金雲母を含む。ともにCD5区出土。7~9は,口縁断面が三角形をなす甕である。9は胴部に三角突帯を貼りつけている。7は胎土に金雲母を含む。8はCD4区,7・9はCD5区出土。10~17は逆L字形口縁の甕で,須玖I式の資料であろう。ただ14は胴上半部沈線を1条めぐらし,灰黄褐色の色調で北部九州以外の地域からの搬入の可能性をもつ。10・11・13~16は胎土に金雲母を含む。いずれもCD5区出土。18~22は鋤先形口縁の甕で,19~22は口縁下に三角突帯をもつ。22は端部外方を平坦におさめ淡い沈線が入る。19が須玖I式新段階,18・20~22は須玖II式古段階の資料であろう。18・19・21は胎土に金雲母を含む。いずれもCD5区出土。

23~25は壷である。23は口を一部打ち欠く他は完形の品である。丹塗の袋状口縁壷で、胎土に金雲母を含む。中期末~後期初頭の資料である。CD5区出土。24は大形の広口壷で、丸く張りをもつ胴部に対して小さな口縁部をもつ。強く屈曲した短い口縁の端部は平坦に面取りされ、刻目を施してい



第35図 4号旧河道 (C6区) 出土土器 (1/4)

る。胴部最大径の部分にM字突帯を貼りつけている。中期末〜後期初頭の資料であろうか。CD5区出土。25は、外湾して開く口頸部の端部上方に、断面三角形の肥厚を貼り付けて上方に突出をもつ壷で、頸胴界に2条の三角突帯を貼り付けている。城ノ越式の資料であろう。胎土に金雲母を含む。CD5区出土。

26は浅鉢で、内外面ともに煤が付着している。胎土に金雲母を含み、CD5区出土。27は短い口縁高杯の杯部で、丹塗土器ではない。須玖I式の資料であろう。胎土に金雲母を含み、CD5区出土。28は上半部を欠失する支脚形の器台である。胎土に石英・長石・角閃石を含む。CD5区出土。

29~41は、朝鮮半島系の土器およびその影響を受けたものである。29・30・32~37は、丸い粘土紐を貼りつけて口縁とする甕である。29・30は上面をナデてやや平らになっているが、32~36はより平らになって断面が三角形状に近づき、34~35は口縁内方が突出している。37は粘土紐を面取りしたように断面が方形に近づいている。30・31は胎土に金雲母を含む。いずれもCD5区出土。38~40は小さな粘土帯を貼りつけて口縁とする甕あるいは鉢で、39・40は外方を指頭で押しつけて平坦にしている。また38の胴部には耳状の貼りつけがみられる。CD5区出土。41は牛角把手付壷の把手で、基部が出へそ状に突起をもち体部とソケットをなしていたことが分かる資料である。灰色の色調で、CD5区出土。なお、29と30は同一個体で、図化した後に接合したことが判明した。

#### ⑨ 4号旧河道(C6区)出土土器(第48図)

1・2は甕である。1は如意形口縁の甕で、口縁下端に刻目を施す。弥生前期末の資料である。2は逆L字形の口縁の甕で、胴部上半部に三角突帯を1条貼りつけている。須玖I式古段階の資料であるう。いずれも胎土に金雲母を含む。3・4は壷である。3は強く外湾する口縁で上部を肥厚して段をもつものである。頸部全面に暗文が施され、胎土に金雲母を含む。城ノ越式の資料であろう。4はいびつなつくりの直口壷で、器表は火を受けて荒れている。胴部上半部は粗いヨコミガキがなされ、口縁はハケをナデ消している。胴部内面はヘラ状の工具でナデられた痕跡と、指オサエやナデの痕がみられる。灰黄褐色の色調で、胎土に石英・長石を含む。朝鮮半島の無文土器系壷の可能性が高いとおもわれる資料である。5は高杯の杯部である。口縁上面に断面三角形の粘土を付けて肥厚し、段をもつものである。外面は丁寧に横位のミガキで調整され、内面はナデ仕上げである。胎土に石英・長石・金雲母を含む。城ノ越式の資料であろう。

#### ⑩旧河道出土土器の様相について

以上の1~4号旧河道出土の土器をとりあげて説明したきたが、ここで簡単なまとめをしておきたい。1号旧河道出土土器は、北側の土器溜が弥生中期後半~後期初頭、南側の包含層が弥生中期末~後期初頭の資料である。これによって低地での居住が後期初頭期に終わり、台地での居住に限られることが推定されるようになった。土器溜出土品では、完形の丹塗袋状口縁壷55と高杯60が据え置かれた状況がみられ、また完形品や丹塗土器が多いことが注目される。なかでも丹塗台付注口壷45は珍品で、類似した資料は三雲番上遺跡、吉武高木遺跡、吉野ケ里遺跡などで出土しているが、注口が2箇所あるものはこれだけである。26~30・5は朝鮮半島系無文土器の影響を残す資料で、瀬戸内地方系の甕

25も出土している。包含層出土品では、丹塗土器が多いことは前者と同様であるが、屈曲口縁の中期末~後期初頭の甕が出土していて、土器溜出土品よりやや新しい様相がみられる。丹塗の大形器台44も注目される資料である。2号旧河道出土土器は、弥生前期末~古墳前期の資料である。河が長期間流れていたことを物語っている。北部九州系の甕棺片が5点出土していること、瀬戸内地方系の弥生前期末甕が出土していることが注目される。弥生前期末には瀬戸内まで交流があったことを示す資料である。3号旧河道出土土器は、弥生前期末~中期後半までの資料であるが、須玖II式古段階は少なく須玖I式新段階までの土器が多く出土している。ここでは、45点の朝鮮半島系土器およびその影響を受けた土器がまとまって出土したことであろう。資料を実見した片岡宏二氏によれば、朝鮮半島での後期前半から後期後半の無文土器と、日本の弥生土器の影響を受けて変化した擬朝鮮系無文土器との教示・指導をいただいた。4号旧河道出土土器は、C2区が須玖I式新段階〜須玖II式古段階の資料、C3・4区が弥生前期末〜須玖II式古段階の資料、C3・4区が弥生前期末〜須玖II式古段階の資料、C6区が弥生前期末〜須玖II式古段階の資料、C6区が弥生前期末〜須玖II式古段階の資料が出土している。CD4・5区では、弥生前期末〜中期初頭期の完形甕が出土したが、北部九州東部系の資料である。また、朝鮮半島系土器およびその影響を受けた土器が13点出土していて、3号旧河道出土品とともに注目される。

また,胎土に金雲母を含む土器が多くみられることの問題については,今回は時間的余裕がないので次回に再検討を行いたい。

#### 註

- (1) 橋口達也「考察」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 XXXI』福岡県教育委員会 1979
- (2) 朝鮮半島系土器については片岡宏二氏に懇篤なる指導を受けたが、今回の報告では時間的な余裕がなくて検討することができなかった。再検討の機会を持ちたい。また指導をいただいた片岡氏に感謝申し上げたい。

#### 1号旧河道(土器溜)出土土器一覧表①

図番号	地区・層位	P番号	種類	T	調整	F i		色調	胎土砂粒
		-		F-1					石英, 赤色砂
1-1	S 101-32VIT	436	甕		ハケナデ消し <b>,</b> スス 		平滑ナデ	にぶい褐色	金雲母
n-2	S 101-32VI	213	11	外.	ハケ	内.	平滑ナデ 	灰黄褐色	石英, 長石
n-3	S 101-31VI	18	"	外.	ハケ	内.	平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英, 金雲母
11 4	S 101-32VI	44	"	外.	ハケ	内.	平滑ナデ、指オサエ	浅黄橙色  にぶい黄橙色	石英
<i>n</i> — 5	S 101-32VI	22	"	外.	ハケ, スス	内.	ナデ,指オサエ	にぶい黄橙色	石英, 長石 赤色砂, 角閃石
11-6	S 101-32VI	20	11	外.	ハケ、ナデ	内.	ナデ、指オサエ	にぶい黄橙色 橙色	石英, 角閃石 金雲母
11-7	S 101-32VI	620	小形甕	外.	ハケ,スス	内.	ナデ、ヘラナデ	にぶい橙色	石英, 長石
11 8	S 101-32VI下	483	大甕	外.	ハケナデ消し	内.	平滑仕上げ	にぶい黄褐色	石英, 長石
2-9	S 101-32VI下	377	丹塗甕	外.	ヘラナデ、剝落	内.	ヨコミガキ	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
n 10	S 101-32VII		11	外.	ヨコミガキ	内.	ヘラナデ,平滑仕上げ	にぶい赤褐色	石英, 長石 赤色砂,金雲母
n-11	S 101-32VI下	423	11	外.	ハケ,ヨコミガキ	内.	ヘラナデ,指オサエ	にぶい黄橙色	石英, 金雲母
<i>n</i> −12	S 101-32VI下	478	17	外.	ヨコミガキ	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 金雲母
n-13	S 101-32VI	205	7)	外.	ヨコミガキ	内.	ヘラナデ、平滑仕上げ	にぶい橙色	石英, 角閃石 金雲母
<i>n</i> −14	S 100- 2 VII	116	11	外.	ヨコミガキ	内.	風化剝落	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> 15	S 101-32VII	635 632	11	外.	ヨコミガキ	内.	平滑ナデ	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
<i>∥</i> −16	S 100- 2 VII	119	11	外.	ヨコミガキ	内.	平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石 金雲母
n-17	S 101-32VI	232	11	外.	全周暗文	内。	指オサエ,平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −18	S 101-32VI	251	11	外.	全周暗文、ヨコミガキ	内.	指オサエ、平滑ナデ	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −19	S 100- 2 VII	165	11	外.	全周暗文	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
n20	S 100- 2 VII		))	外.	ナデ	内.	平滑ナデ	にぶい橙色	石英, 長石
<i>n</i> −21	S 101-32VI	46	11	外.	ハケ	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石
3 22	S 101-32 III • IV		翘	外.	ハケナデ消し	内.	平滑仕上げ	灰褐色	長石,石英
<i>n</i> −23	S 101-32VI	4	Ŋ	外.	風化剝落	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石
n —24	S 101-32VI	91	11	外.	ハケナデ消し	内.	ハケ,ヘラナデ,指オサエ	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
n —25	S101-32VI下	443	"	外.	ヨコミガキ	内.	風化	灰白色	石英, 長石 黒色砂
n26	S 101-32VI	86 • 87	無文系	外.	ハケナデ消し	内。	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石 赤色砂
n —27	S101-32VI下	THE PROPERTY OF THE PROPERTY O	"	外.	ハケ	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石 赤色砂
<i>n</i> −28	S 100- 2 VII	106	n	外.	沈線のようなハケ	内.	ナデ	灰褐色	石英, 長石
n —29	S 100- 2 VII	26	n	外.	ハケナデ消し	内.	ナデ	にぶい黄橙色	石英, 角閃石
n — 30	S 100- 2 VI	and the state of t	77	外.	ハケナデ消し	内.	ナデ	黒色	石英, 長石
n31	S 101-32VII	165	蓋	外,	ハケ	内.	平滑ナデ	灰黄褐色	石英
<i>n</i> −32	S 101-32VI	247	蓋	外.	ハケ	内.	平滑ナデ	浅黄橙色	石英, 金雲母
									<u> </u>

### 1号旧河道(土器溜)出土土器一覧表②

図番号	地区・層位	P番号	種類		調整	F i	去 等	色 調	胎土砂粒
4 -33	S 101-32VII	690	壺	外.	ナデ	内.	ナデ	黒色	石英, 長石
<i>∥</i> −34	S 101-32VI	162	1)	外.	ナデ	内.	ナデ	明褐灰色	石英, 長石
<i>n</i> 35	S 101-32VFF • VII		1)	外,	部分暗文	内.	ナデ	褐灰色	石英, 長石
<i>n</i> −36	S 101-32VI下	542	丹塗壺	外.	全周暗文	内.	ナデ、しぼり痕	にぶい黄橙色	砂粒ほとんど無
<i>n</i> —37	S 100-1 VII		"	外.	全周暗文	内.	ナデ、指オサエ	にぶい褐色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −38	S 101-26VI		11	外.	全周暗文	内.	ヨコミガキ	褐灰色	石英, 長石
n —39	S 101-32VII	698, 544	壺	外,	ナデ	内.	平滑仕上げ	にぶい黄橙色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −40	S 101-32VII	760	丹塗壺	外.	平滑仕上げ	内.	ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −41	S 100- 2 VII	7	壺	外.	ヘラナデ	内.	ナデ	浅黄色	石英, 長石
11 -42	S 101-32VI	570	11	外.	平滑ナデ	内.	指オサエ,平滑仕上げ	浅黄橙色	石英, 長石
<i>n</i> −43	S 101-32VI	57	丹塗壺	外.	タタキ,ハケ,ナデ	内.	ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石 赤色砂,角閃石
5 44	S 101-32VI	164	11	外.	部分暗文,ヨコミガキ	内.	ヘラナデ,指オサエ	にぶい黄橙色	石英, 金雲母
n −45	S 101-26VI上	4	17	外.	全周暗文,注口2	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
n —46	S 100- 2 VII	100	11	外.	ヨコミガキ	内.	ヘラナデ,指オサエ	にぶい黄橙色	金雲母
<i>n</i> −47	S 101-32VI下	521	11	外.	ヨコミガキ,注口痕	内.	ナデ、指オサエ	にぶい橙色	石英,角閃石
<i>n</i> −48	S 101-32VI下	548	17	外.	ナデ	内.	ナデ	灰黄色	石英,金雲母
11 —49	S 100- 2 VI		11	外.	タテミガキ	内.	ナデ,しぼり痕	にぶい褐色	石英, 長石
<i>∥</i> —50	S 101-32VI	311	11	外.	タテミガキ	内.	ナデ、しぼり痕	にぶい橙色	石英
<i>II</i> 51	S 101-32VI下	438	黒塗壺	外.	平滑なナデ仕上げ	内.	しぼり痕	灰白色	石英, 長石
n —52	S 101-32VII		丹塗壺	外.	全周暗文	内.	しぼり痕	灰黄褐色	石英, 金雲母
n —53	S 101-32VI	107	))	外.	全周暗文	内,	指オサエ,しぼり痕	橙色	石英, 金雲母
<i>n</i> −54	S 101-32VI下	506	"	外.	タテ, ヨコミガキ	内.	指オサエ,しぼり痕	にぶい赤褐色	石英, 金雲母
n55	S 101-32VI	50	n	外.	全周暗文,ヨコミガキ	内.	しぼり痕	にぶい黄橙色	石英,角閃石 金雲母
n −56	S 100-31VI上	1	11	外.	ハケ,穿孔1	内.	ナデ	浅黄色	石英, 長石 赤色砂,金雲母
6 —57	S 101-32VI下	370	丹塗鉢	外.	風化剝落	内.	粗いヨコミガキ	にぶい橙色	石英,角閃石 赤色砂,金雲母
n —58	S 101-32VIF	561	鉢	外.	ナデ	内.	指オサエ,ヘラナデ	にぶい赤褐色	石英
<i>II</i> —59	S 101-32VI	150	77	外.	指整形ナデ	内。	平滑仕上げ	浅黄色	石英
n —60	S 101-32VI	100	丹塗 高杯	外.	ヨコ, タテミガキ	内,	しぼり痕	にぶい黄橙色	石英, 長石 赤色砂
n —61	S 101-32VI	110	1)	外.	ヨコミガキ	内.	ヨコミガキ	にぶい黄橙色	石英,金雲母
n62	S 101-32VI	153	11	外.	タテミガキ	内.	平滑なナデ仕上げ	にぶい黄橙色	石英, 長石 赤色砂
<i>n</i> −63	S 100- 2 VII	117	11	外.	タテミガキ	内.	しぼり痕	にぶい橙色	石英,角閃石
n64	S 101-32VI	155	11	外.	タテミガキ	内.	ナデ	にぶい黄橙色	金雲母

# 1 号旧河道(土器溜)出土土器一覧表③

図番号	地区・層位	P番号	種類	調整手法等	色 調	胎土砂粒
665	S 100- 1 VII		母塗 高杯	外. タテミガキ 内. しぼり痕	灰黄褐色	石英,金雲母

### 1号旧河道(包含層)出土土器一覧表①

図番号	地区・層位	P番号	種類		調整	F i	去 等	色 調	胎土砂粒
7 - 1	R100-30 V	121, 122 155	甕	外.	ハケ, 平滑仕上げ	内.	平滑仕上げ	にぶい橙色	石英, 長石 金砂粒
11 2	R100-30V	171	n	外.	ハケ	内.	ヘラナデ,指オサエ	にぶい黄橙色	石英,長石 金雲母
<i>n</i> — 3	R 100-24VI		"	外.	ハケナデ消し	内.	ヘラナデ,スス	浅黄色	石英,赤色砂 金雲母
n — 4	R100-24V	71	"	外.	ハケ	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
n — 5	R100-30V	144	]]	外.	ハケ	内.	ナデ,指オサエ	にぶい橙色	石英, 長石
n — 6	R100-30V	180	11	外.	ハケナデ消し	内.	指オサエ、平滑ナデ	灰白色	石英,角閃石
11 - 7	S 100-13V	O man de man e de la companya de la	11	外.	ハケ,スス	内.	ヘラナデ	にぶい褐色	石英, 長石 金雲母
n — 8	R100-24V	119, 114	17	外.	ハケ	内.	平滑ナデ	にぶい褐色	石英, 長石 金雲母
8 — 9	R100-30V	174	11	外.	ハケナデ消し,スス	内.	スス	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
n —10	R100-24V	61	11	外.	ハケナデ消し	内.	指オサエ、ナデ	にぶい褐色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −11	R100-24V	17	11	外.	ハケナデ消し	内.	ハケナデ消し	にぶい橙色	石英, 長石
<i>n</i> −12	R100-24V	62	11	外.	ハケ、スス	内.	ヘラナデ	にぶい褐色	石英, 長石 金雲母
n —13	R100-30V	16	11	外.	ハケナデ消し,スス	内.	ハケナデ消し	にぶい橙色	石英, 長石 赤色砂
n —14	R100-24V	75	17	外.	ハケ	内.	ナデ、指オサエ	にぶい褐色	石英,金雲母
n15	R100-19V	57	17	外.	ナデ, スス	内.	ナデ,スス	にぶい褐色	石英, 長石 金雲母
9 —16	R 100-24 V	9	11	外.	ハケ	内.	ヘラナデ,指オサエ	にぶい褐色	石英,赤色砂 金雲母
<i>n</i> −17	R 100-24VI		11	外.	ハケ	内.	平滑ナデ,スス	にぶい褐色	石英, 長石 赤色砂
<i>n</i> −18	R100-30 V	107, 112	11	外.	ハケ	内.	平滑仕上げ	浅黄色	石英, 長石
n —19	S 100-19 V	83	丹塗甕	外.	ヨコミガキ, 黒塗	内.	ナデ	にぶい褐色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −20	R100-24V	41	"	外.	ヨコミガキ	内.	ヘラナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −21	R100-30 V	146	11	外.	ナデ	内.	ナデ	明褐灰色	石英, 長石 赤色砂
n —22	R100-24 V		11	外.	全周暗文	内.	平滑仕上げ	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −23	R100-24V	25	n	外.	全周暗文	内.	平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石 赤色砂,金雲母
n —24	R 100-24 V	103	"	外.	全周暗文	内.	平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石 金雲母
n25	S 100-13 V		n	外.	ハケ, 風化	内.	ヨコミガキ,指オサエ	にぶい橙色	石英, 長石 赤色砂, 金雲母
<i>n</i> −26	R100-30V	208	n	外.	ハケ	内.	ヨコミガキ, 指オサエ	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
1027	R100-30 V	125	壺	外.	ナデ	内。	ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石

### 1号旧河道(包含層)出土土器一覧表②

図番号	地区・層位	P番号	種類	The state of the s	調整	手 法 等	色 調	胎土砂粒
10-28	R100-24V		丹塗壺	外.	全周暗文	内. ナデ	にぶい黄橙色	石英,長石 金雲母
n-29	R100-30 V	190	1)	外.	風化	内。ヘラナデ,平滑仕上げ	にぶい橙色	石英, 長石 赤色砂,金雲母
<i>n</i> —30	R100-24 V	126	11	外.	全周暗文	内。しぼり痕	にぶい橙色	石英, 金雲母
n —31	R100-24V	135	11	外.	全周暗文	内、しぼり痕	にぶい黄橙色	石英, 金雲母
n - 32	R 100-24 V		1)	外.	全周暗文,平滑仕上げ	内。ヘラナデ,平滑仕上げ	にぶい橙色	石英, 金雲母
<i>n</i> —33	S 100-13 V	1 • 2	壺	外.	ナデ仕上げ	内。ハケ	にぶい黄橙色	石英, 長石
11-34	R100-24V		丹塗 高杯	外.	タテミガキ	内。しぼり痕	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −35	R100-24V	66 • 78	11	外.	細い暗文,ヨコ・タテミガキ	内。ヨコミガキ	にぶい黄橙色	石英, 長石 金雲母
n —36	S 100-19 V	27	11	外.	剝落	内。ヨコミガキ	灰黄色	石英, 長石 金雲母
n —37	S 100-19 V	63	)]	外.	平滑仕上げ	内。ヨコミガキ	灰黄褐色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> —38	R100-24V	50	))	外.	タテミガキ	内. しぼり痕	灰黄褐色	石英, 長石
n -39	R100-24V		丹塗 台付鉢	外.	全周暗文	内。ナデ	にぶい黄橙色	石英, 金雲母
n40	R 100-24IV	1	器台	外.	ナデ	内。指オサエ、しぼり痕	にぶい黄橙色	石英, 長石 金雲母
n41	R 100-24IV	3	11	外.	ナデ	内。指オサエ、しぼり痕	にぶい黄橙色	石英, 長石 角閃石,金雲母
n —42	S 100-19 V	50	"	外.	ハケナデ消し	内. ハケ, しぼり痕	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
11 43	R 100-24IV	2	n	外.	ナデ,指オサエ	内. しぼり痕	にぶい黄橙色	石英, 長石 金雲母
1244	S 100-24 V • VI	30, 37, 115	大型 器台	外.	タテミガキ	内. しぼり痕	灰褐色	石英, 長石 金雲母

# 2号旧河道(A11・12, B11・12区)出土土器一覧表①

図番号	地区・層位	P番号	種類	調整手法等	色 調	胎土砂粒
13-1	B11	227	甕	外.ハケの後2条沈線 内.ヨコミガキ	黒褐色	長石, 黒色砂
n-2	B11	258	1)	外. ナデ 内. ナデ	灰黄褐色	石英, 長石 金雲母
n-3	B11	636	11	外. ハケ,スス 内. ナデ	灰黄褐色	石英, 長石 金雲母
n — 4	B11	302	11	外. ハケ,スス 内. ナデ	褐灰色	石英, 長石 金雲母
n-5	A11	42	))	外.ハケ,部分刻目 内.風化	にぶい黄橙色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> 6	B12	1	11	外.ハケ 内.ナデ	にぶい褐色	金雲母
n — 7	B11	138	))	外. ハケナデ消し 内. 平滑ナデ	橙色	石英, 長石
n-8	A11	31	n	<b>外.</b> ハケ 内. 平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石
<i>n</i> — 9	A11	12	n	外. ハケナデ消し 内. 指オサエ,平滑ナデ	灰黄色	石英, 長石 角閃石
n-10	B11	156	n	外. ハケ, スス 内. 平滑ナデ	にぶい橙色	石英, 長石 金雲母
<i>n</i> −11	B11	237	n	外、ハケ、スス 内、平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石

2 号旧河道 (A11·12, B11·12区) 出土土器一覧表②

				. (7	1 °   2 ,	/	H		·
図番号	地区・層位	P番号	種類		調整手	. ;	法 等	色 調	胎土砂粒
1312	B11	135	蓬	外.	ハケ	内,	平滑仕上げ	にぶい橙色	石英, 長石, 赤色砂,金雲母
n-13	B12	20	11	外.	ナデ	内.	ヘラケズリ	灰白色	石英
14-14	B11	106	壺	外.	ナデ	内.	指オサエ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −15	B11	805	'n	外.	ヨコミガキ,全周暗文	内.	ヨコミガキ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> —16	B12	2	丹塗壺	外.	平滑ナデ	内.	指オサエ	明赤褐色	金雲母
n-17	B11	331	壺	外.	タテミガキ, 黒塗か	内.	ヨコミガキ	灰黄色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −18	A11	36	"	外.	ナデ	内.	平滑仕上げ	橙色	石英, 長石, 赤色砂
n —19	B11	848	"	外.	部分暗文	内.	ナデ	灰黄褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −20	B11	391	1)	外.	風化	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 角閃石,赤色砂
//21	B11	140	丹塗壺	外.	ナデ	内.	しぼり痕	浅黄橙色	石英, 長石
11 22	B11	358	壺	外.	風化	内.	ナデ	浅黄橙色	石英, 長石
11 23	A12	111	11	外.	ハケ、指オサエ	内,	平滑なナデ	にぶい黄橙色	金雲母
11 24	B11	289	11	外.	ハケ後, 平滑仕上げ	内.	ハケ	灰黄色	金雲母
n25	A12	15	1)	外.	ハケ	内.	ヘラけずり	にぶい黄橙色	石英, 長石, 赤色砂,金雲母
<i>n</i> −26	A 12	3	11	外.	ハケナデ消し	内.	ハケナデ消し	黄灰色	石英, 黑色 砂, 金雲母
n —27	A11	1	- 11	外.	ハケナデ消し	内。	ヘラケズリ	浅黄橙色	石英, 長石, 角閃石,金雲母
n28	B11	142	丹塗蓋	外.	放射状ミガキ	内.	ナデ	橙色	石英, 長石
11 29	B11	659	鉢	外.	手づくね	内,	ナデ	灰黄色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −30	B11 C11		11	外。	タテミガキ	内.	ハケ	にぶい黄色	石英, 長石, 金雲母
15—31	A12	65	カメ棺	外.	風化 (ナデ)	内.	風化 (ナデ)	赤褐色	石英, 長石
n —32	A11	43	n	外.	ヨコナデ	内.	ナデ	灰黄色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> 33	B12	58	))	外.	ヨコナデ	内.	ナデ	にぶい褐色	石英, 長石
n —34	B11	2	"	外.	ナデ	内.	ナデ	橙色	石英, 長石
<i>n</i> −35	B11	38	n	外.	ナデ	内.	ナデ	にぶい褐色	石英
n —36	B11		無文系	外.	指痕	内.	ナデ	黄褐色	石英, 長石
n37	B11	e e e e e e e e e e e e e e e e e e e	n	外.	ハケナデ消し	内.	ヘラナデ,指オサエ	明黄褐色	石英,角閃石
<i>n</i> −38	B12		11	外.	ナデ	内.	ナデ	にぶい黄橙色	金雲母
n —39	B11	501	瓦質	外.	ヨコミガキ	内.	ナデ	暗灰色	精良
<i>n</i> −40	B11		無文系	外.	ハケナデ消し	内.	ハケ	にぶい黄橙色	石英
n41	B11		11	外.	ハケナデ消し	内.	平滑仕上げ	にぶい黄橙色	石英, 長石
n —42	B11		11	外.	ハケナデ消し	内,	ハラナデ,指オサエ	灰褐色	石英, 長石, 金雲母
11 43	B11		11	外.	ハケナデ消し	内.	ハケ. 指オサエ	灰黄褐色	石英, 長石

# 2号旧河道 (A11·12, B11·12区) 出土土器一覧表③

図番号	地区・層位	P番号	種類	調整手法等	色 調	胎土砂粒
15-44	B12		瓦質	外. 格子目タタキ 内. ナデ	褐灰色	精良

### 3号旧河道(B8・9区)出土土器一覧表①

			- ,	7732	三 (D 0 ° 3 区) 山		- 111 962-0		
図番号	地区・層位	P番号	種類		調整	手	去 等	色 調	胎土砂粒
16-1	В 9	4	甕	外.	ハケ	内.	ナデ	にぶい黄褐色	石英,角閃石
n — 2	B 8	943	11	外.	ハケ	内.	ハケ,ナデ	にぶい黄褐色	石英, 長石
n — 3	В 8	665	n	外.	ナデ	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
n-4	В 8	933	77	外.	ハケ、平滑ナデ	内,	ナデ	灰褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> — 5	В 8	756	11	外.	ハケ	内.	平滑ナデ	にぶい褐色	石英,赤色砂,金雲母
<i>11</i> — 6	В 8	671	1)	外.	ハケ、スス	内.	ヘラナデ,ナデ	灰黄褐色	石英, 長石, 金雲母
n — 7	B 8	435	n	外.	ハケ、スス	内.	ナデ	灰黄褐色	石英, 長石, 角閃石
<i>n</i> – 8	В 8	244	11	外.	ハケ、スス	内.	指オサエ,ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> 9	В 8	369	"	外.	ハケ	内.	平滑ナデ	褐灰色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −10	В 8	805	11	外.	ハケ	内.	ナデ	にぶい黄橙色	石英 <b>,</b> 長石 <b>,</b> 金雲母
17—11	B 8	112	11	外.	ハケ	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 赤色砂,金雲母
<i>n</i> −12	В 8	480, 489	77	外.	ハケ	内.	ナデ	黒褐色	石英, 長石
n —13	В 8	11	11	外.	ハケ、ハケナデ消し	内.	ハケナデ消し,指オサエ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −14	B 8	a de la companya de l	壺	外.	ヨコミガキ	内.	指オサエ、ヨコミガキ	灰黄色	石英, 長石, 金雲母
n —15	B 8	11	1)	外.	全周暗文、ヨコ・タテミガキ	内.	ナデ,ヨコミガキ	褐灰色	金雲母
n16	B 8	2	丹塗壺	外.	ヨコミガキ	内.	ナデ	橙色	石英, 長石
<i>n</i> −17	В 8	60	壺	外.	ナデ	内。	粗いヨコミガキ	にぶい褐色	石英, 長石, 金雲母
n —18	В 8	127	11	外.	全周暗文	内.	ヨコミガキ	にぶい黄色	石英, 長石
<i>n</i> 19	В 8	878	1)	外.	全周暗文	内.	ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
n —20	В 9	141	"	外.	ヨコナデ	内.	平滑ナデ	暗灰黄色	石英, 長石
<i>n</i> −21	B 8	476	丹塗壺	外.	部分暗文	内.	ナデ	赤褐色	石英,金雲母
n —22	В 8	6	壺	外.	ヨコ・タテミガキ	内.	指オサエ、ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>II</i> 23	В 9	100	丹塗壺	外.	ヨコミガキ	内.	平滑ナデ	橙色	金雲母
n —24	В 9	100	n	外.	全周暗文,ヨコミガキ	内.	しぼり痕	にぶい赤褐色	石英, 金雲母
1825	B 8	707	蓋	外.	ハケ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	内.	ハケナデ消し	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −26	В 8	10	鉢	外.	ハケナデ消し	内.	ヘラ,ナデ,スス	にぶい赤褐色	石英, 長石
<i>n</i> −27	В 8	1	鉢	外.	風化	内.	ハケナデ消し,指オサエ	浅黄橙色	石英, 長石, 金雲母

### 3号旧河道 (B 8・9, C 7・8区) 出土土器一覧表②

図番号	地区・層位	P番号	種類	調 整 手 法 等	色 調	胎土砂粒
18-28	B 8		鉢	外、ハケ、指オサエ 内、指オサエ、ナラ	· 灰黄色	石英, 長石, 金雲母
n —29	B 8	8	高杯	外. ヨコ・タテミガキ 内. ヨコミガキ	にぶい黄橙色	長石,石英, 黒色砂粒
n -30	B 8	4	"	外。ヨコ・タテミガキ 内。ヨコミガキ,しぼ	0痕 にぶい黄橙色	金雲母
n-31	B 8	595	無文系	外. 板ナデ, ナデ 内. ナデ	灰黄褐色	石英,角閃石
<i>n</i> −32	B 8	909	11	外. 指オサエ, ナデ 内. ナデ	にぶい橙色	石英, 長石
<i>n</i> —33	B 8	726	11	外.ハケ,指オサエ 内.ナデ,指オサニ	にぶい黄橙色	石英, 長石
n —34	В 8		n	外。ハケナデ消し,指オサエー内。ナデ	灰黄褐色	石英, 長石
<i>n</i> −35	B 9		17	外.ナデ、内.ナデ,指オサン	にぶい黄褐色	石英,角閃石
<i>11</i> —36	B 8	401	11	外.ハケナデ消し内.ナデ,指オサニ	にぶい黄橙色	石英, 長石 赤色砂
<i>n</i> −37	В 9	121	11	外. ハケナデ消し 内. ナデ, 指オサニ	暗灰黄色	石英, 長石
19—38	В 9	36	甕棺	外. ナデ 内. ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 赤色砂,角閃石
<i>n</i> —39	B 8	568	))	外. ナデ 内. ナデ	灰黄色	石英, 長石
11 -40	C 7	503	))	外. ナデ, 3条沈線 内. ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −41	С 7—Ш	95, 96	11	外. ナデ, 2条沈線 内. ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −42	C 8 — III	405	n	外. ナデ 内. ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
n —43	С 7 —Ш	161	n	外. ナデ, 3条沈線 内. ナデ	浅黄橙色	石英, 長石, 金雲母

### 3号旧河道 (C7・8区) 出土土器一覧表①

図番号	地区・層位	P番号	種類	調整:	手 法 等	色 調	胎土砂粒
20-1	C 8 III	817	甕	外. ハケ	内。ナデ	灰黄褐色	石英, 長石, 金雲母
n 2	C 7 III	131,62	n	外. ナデ,スス,沈線	内。ハケ。ナデ	褐灰色	石英, 長石, 金雲母
n-3	С 7 Ш	257, 381	11	外. ハケ, 沈線	内、ハケ、ナデ	黄橙色	石英, 長石, 金雲母
n 4	С 7 Ш	258	11	外. ハケ, 沈線	内。ハケ、ヘラナデ、指オサエ	橙色	石英, 長石, 金雲母
n-5	С 7 Ш	376, 314, 398	11	外、ナデ、沈線	内. ハケ, ナデ	黄灰色	石英, 長石, 金雲母
n-6	C 7 III	65	1)	外. ハケ, 沈線	内. ハケ, ナデ	黄橙色	石英, 長石, 金雲母
n — 7	С 7 Ш	33, 353, 461, 285, 517	11	外. ハケ	内。ハケ、ナデ、指オサエ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> 8	C 7 III	577	1)	外. ハケ	内. ハケ,ナデ	にぶい赤褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> — 9	С 7 Ш	256	n	外。指オサエ、ハケ後ナデ	内。ヘラケズリ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −10	С 7 Ш	384	n	外.	内. 平滑なナデ	にぶい赤褐色	石英, 長石
2111	С 8 Ш	317	n	外,ハケ	内. ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石
n —12	C 8 III	323	17	外. ハケ風化	内. ナデ	明黄褐色	長石,石英

3号旧河道 (C 7 · 8区) 出土土器一覧表②

r		T	T	T				
図番号	地区・層位	P番号	種類		調整	手 法 等 ———————————————————————————————————	色調	胎土砂粒
21—13	C 7 III	407	甕	外.	ハケ	内. ナデ	にぶい黄橙色	石英, 金雲母
<i>n</i> −14	C 8 III	149	1)	外.	ハケ	内. ナデ	橙色	石英, 長石, 金雲母
n —15	С 8 Ш	230	n	外.	ハケ,スス	内. ナデ	褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −16	C 8 III	803	"	外.	ハケ	内。ナデ、指オサエ	灰黄褐色	石英, 長石
<i>n</i> −17	C 8 III	24, 13, 19	"	外.	ハケ	内。ナデ	にぶい褐色	石英, 長石
11-18	C 8	2	1)	外.	粗いハケ	内. ヘラ痕,平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −19	C 8	1	1)	外.	粗いハケ	内。ヘラ痕、平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
22-20	С 8 Ш	534	n	外.	ハケナデ消し	内. ナデ	黒褐色	石英, 長石
n21	С 8 Ш	57	n	外.	ハケナデ消し	内。ナデ、指オサエ	にぶい黄橙色	石英, 長石
11 22	С 8 Ш	78	11	外.	ハケ,風化	内. ナデ	暗灰黄色	石英, 長石
n-23	C 8 III	59	11	外.	ハケ,風化	内. 平滑ナデ	にぶい赤褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> —24	С 8 Ш	83	11	外.	ハケ	内。ナデ	橙色	長石,石英
n —25	C 7 III	34	11	外.	ハケ,ナデ,スス	内. ナデ	にぶい橙色	長石, 石英
n —26	C 8 III	8	器台	外.	ハケ,ナデ	内. 板ナデ	浅黄色	長石,石英, 金雲母
n —27	C 8 III	382	11	外.	ハケナデ	内. 指オサエ	にぶい黄褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −28	C 7 III	540	大甕	外.	ナデ	内. ナデ	暗灰黄色	石英, 長石, 金雲母
23-29	C 8 III		壺	外.	ヘラ圧羽状文	内. 平滑ナデ	灰黄色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> 30	C 7 III	426	וו	外.	ナデ, 2条沈線	内。ハケ、ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −31	C 7 III	169	11	外.	ハケ,ヨコミガキ,沈線	内。ナデ	灰黄色	石英, 長石
n —32	C 7 III	68	11	外。	平滑仕上げ	内。ヨコミガキ	橙色	石英, 長石, 金雲母
n —33	C 8 III	326	n	外.	ヨコナデ	内。ヨコミガキ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
n —34	C 7 III	523, 562, 534	17	外.	ハケによる暗文風装飾	内。ナデ、指オサエ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −35	C 7		n	外.	全周暗文,ヨコミガキ	内、ナデ、指オサエ	灰黄色	石英, 長石, 金雲母
n —36	C 7 III	227	11	外.	全周暗文, ヨコミガキ	内。ヨコミガキ,指オサエ	褐灰色	石英, 長石, 金雲母
n —37	C 7 III	558	11	外.	ミガキ, 3号沈線	内。ヘラナデ,指オサエ	にぶい橙色	石英, 長石
n38	C 7 III	452	11	外.	全周暗文,ヨコミガキ	内. ヨコミガキ,ナデ	灰褐色	石英, 長石
n39	C 8 III	746, 747	11	外.	平滑仕上げ	内.ヨコミガキ	にぶい黄橙色	石英, 長石
n —40	C 8 III	338	n	外.	部分暗文	内。ヨコミガキ	にぶい橙色	石英,長石, 金雲母
n41	С 8 Ш	103	13	外.	全周暗文	内。ヨコミガキ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
n42	C 7 III	363	"	外.	ヨコミガキ	内. ナデ	灰褐色	石英, 長石, 金雲母
n —43	C 7 I		"	外.	ハケナデ消し	内。放射状暗文,ケズリ	浅黄橙色	金雲母
n —44	C 8 III	1	壺	外·	はけ、部分暗文	内・ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母

3号旧河道 (C7・8区) 出土土器一覧表③

図番号	地区・層位	P番号	種類	調整	手 法 等	色 調	胎土砂粒
24-45	С 7 Ш		11	外、ヘラ羽状文	内. ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石
<i>n</i> 46	C 8 III		"	外. 貝殻羽状文	内. ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
n47	С 7 Ш		"	外. ヘラ重弧文	内、ナデ	にぶい黄橙色	五美母 石英,長石
n —48	C 7 III		"	外. 貝殻羽状文	内. 指成形	灰白色	石英, 角閃石
<i>n</i> —49	C 8 III		"	外. 貝殻羽状文	 内. ナデ	にぶい橙色	石英, 長石
n50	C 8 III		n)	外. 貝殼羽状文	 内 <b>.</b> ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石
n —51	C 8 III		11	外. 貝殻羽状文	内. ナデ	灰黄褐色	石英, 長石
25-52	C 7 III	391	無文系	外. タテミガキ, ナデ	 内. 板ナデ	灰黄褐色	長石
<i>n</i> −53	С 7 Ш	219	n	外. ミガキ, 指オサエ	内。ミガキ	にぶい赤褐色	長石
<i>n</i> 54	C 8 III	855	1)	外。タテ・ヨコミガキ,指オサエ	内. ナデ	にぶい黄色	石英, 長石
<i>»</i> —55	С 7 Ш	432	"	外.ナデ,指オサエ	内.指オサエ,ナデ	赤褐色	石英, 長石
n 56	С 7 Ш	328	"	外。ヨコ・タテミガキ,指オサエ	内。ヨコミガキ	にぶい褐色	石英, 長石
<i>n</i> —57	C 8 III	164, 383	11	外、板ナデ、指オサエ	内. 板ナデ	褐灰色	石英, 長石
<i>n</i> −58	C 8 III	429, 672 127	1)	外、ハケナデ消し	内。ナデ,指オサエ	灰黄褐色	石英, 長石, 金雲母
n —59	С 7 Ш	565	/)	外. 平滑ナデ,指オサエ	内. 平滑ナデ	黄灰色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> 60	С 7 Ш	524	11	外. ナデ	内。ナデ	灰褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −61.	С 7 Ш	296	11	外. ハケ	内. ヘラナデ	灰白色	石英, 長石
<i>n</i> −62	С 7 Ш	303	77	外、ハケ、スス	内. ヘラナデ	灰白色	石英, 長石, 金雲母
n —63	С 7 Ш		11	外. ナデ	内. ナデ, スス	灰褐色	石英
n64	C 7 III	223	11	外. 平滑ナデ, ミガキ	内. 平滑ナデ	灰白色	石英, 長石, 赤色砂
n —65	С7Ш		11	外. 緻密なナデ	内. 緻密なナデ	にぶい黄橙色	角閃石
2666	C 8 I ∼II		11	外. ナデ	内. ナデ	にぶい橙色	石英, 長石
<i>n</i> −67	С 8 Ш		11	外, 板ナデ	内、ナデ、指オサエ	褐灰色	長石
n —68	C8III		11	外,ナデ	内。擦過	灰褐色	長石, 石英
<i>n</i> —69	C 7 III		11	外。平滑仕上げ	内. ナデ	灰黄褐色	石英他砂粒
<i>n</i> −70	C 8 III		1)	外. 平滑仕上げ	内.指オサエ,擦過	にぶい黄色	石英他砂粒
<i>n</i> −71	C 8 III		<i>n</i> .	外,ナデ	内. 平滑仕上げ	灰黄褐色	石英他砂粒
<i>n</i> −72	C 8 III		11	外。斜め擦過,スス	内. ナデ	黒褐色	石英他砂粒
<i>n</i> −73	C 8 III		11	外. ヨコナデ	内. ナデ	黄灰色	石英, 長石
n —74	C 8 III	678	11	外.指オサエ,ヨコナデ	内. 剝落	灰褐色	石英, 角閃石
n75	С 8 Ш		n	外. 指オサエ, 平滑仕上げ	内.指オサエ,ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石
<i>n</i> −76	C 8 III		無文系	外. 平滑仕上げ	内. ナデ, 指オサエ	にぶい黄橙色	石英, 長石

# 3号旧河道 (C 7 · 8区) 出土土器一覧表④

図番号	地区・層位	P番号	種類	調整	手 法 等	色 調	胎土砂粒
26-77	C 8 III		壺	外. ハケ	内。ハケ、ヨコナデ	にぶい赤褐色	石英, 長石
n —78	C 8 III		11	外. ハケ仕上げ	内。ハケナデ消し	にぶい赤褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −79	C 7 III		11	外. ハケ	内。ハケ、平滑仕上げ	浅黄色	石英,金雲母
2780	C 7 III		1)	外。板ナデ	内、板ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石
<i>n</i> −81	C 8 III		11	外. ナデ, 指オサエ	内。ナデ、指オサエ	にぶい黄橙色	石英, 長石
1182	С 8 Ш		11	外. ハケナデ消し	内. 板ナデ	にぶい赤褐色	石英, 長石
<i>n</i> —83	C 7 III	349	11	外, ハケ	内. ナデ	灰黄色	長石,石英
n —84	C 8 III		]]	外。ハケ	内. ナデ	にぶい赤褐色	石英, 角閃石
<i>∥</i> −85	C 7 III	114	11	外. 指成形	内. 指成形	黒色	長石
<i>n</i> 86	С 7 Ш		]]	外. 指成形	内. 指成形	黒灰色	きめ細かな 胎土
<i>n</i> —87	С 7 Ш	111	))	外. ナデ	内. ナデ	にぶい褐色	石英, 長石, 角 閃石, 金雲母
<i>n</i> —88	C 8 III	833	1)	外。タテミガキ	内. ナデ	灰褐色	石英, 長石
n —89	C 8 III		ŋ	外. 指成形	内. ナデ	赤褐色	長石, 石英

### 4号旧河道(C2区)出土土器一覧表①

図番号	地区・層位	P番号	種類	調整	手 法 等	色 調	胎土砂粒
28-1	C 2	43	甕	外. 風化している	内. ナデ	明黄褐色	石英, 長石, 金雲母
n-2	C 2	11	11	外. ハケ	内、ナデ	灰褐色	石英, 長石, 金雲母
n — 3	C 2	86	11	外,ハケ	内. 平滑ナデ	灰褐色	石英,赤色砂,角 閃石,金雲母
n-4	C 2	45	n	外, ハケ, スス	内. 平滑ナデ,スス	にぶい褐色	石英, 長石, 金雲母
n-5	C 2	52	11	外, ハケナデ消し	内。平滑ナデ	灰褐色	石英, 長石, 金雲母
n — 6	C 2	76	II	外. ハケナデ消し	内。平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
11-7	C 2	56	11	外. ハケナデ消し, スス	内. ヘラナデ	灰黄褐色	長石,石英, 金雲母
n-8	C 2	10	1)	外、ハケナデ消し	内。平滑ナデ	にぶい黄橙色	金雲母
n — 9	C 2	66	))	外. ハケナデ消し, 風化	内。ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
29-10	C 2	1	壺	外. 全周暗文, 穿孔6	内. スス	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
n —11	C 2	167	n	外。ヨコミガキ	内。ヘラナデ、平滑ナデ	灰白色	石英, 長石
<i>n</i> −12	C 2	72	"	外。ヨコヘラナデ	内. ハケナデ消し	灰黄褐色	石英, 長石, 角 閃石, 金雲母
<i>n</i> −13	C 2	87	n	外。平滑ナデ	内. 平滑ナデ	灰褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −14	C 2	100	鉢	外、平滑ナデ	内. 平滑ナデ	にぶい黄橙色	石英
<i>n</i> −15	C 2	74	丹塗 高杯	外. 平滑ナデ	内。ヨコミガキ	にぶい橙色	石英, 長石, 赤 色砂, 角閃石

# 4号旧河道 (C2区) 出土土器一覧表②

図番号	地区・層位	P番号	種類	調	.DE -J- 1	法 等	色 調	胎土砂粒
2916	C 2	72	甕棺	外。ナデ	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母

### 4号旧河道 (C3・4区) 出土土器一覧表①

図番号	地区・層位	P番号	種類	調整手法等	色 調	胎土砂粒
30-1	C 4	97	甕	外. ハケ, 沈線, スス 内. 平滑ナデ,指オサコ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
11-2	C 4	96	11	外. ハケ, スス 内. ハケ,ナデ,指オサコ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> — 3	C 3	32	11	外. ハケ, 沈線 内. 平滑ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
11 4	C 3	47	n	外. ナデ 内. 平滑ナデ	灰黄褐色	石英, 長石, 角閃石
11-5	C 3	42	11	外. ハケ, 風化 内. ナデ	灰黄褐色	長石, 金雲母
n — 6	C 3	15	11	外. ハケ 内. 平滑ナデ,指オサコ	にぶい赤褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> - 7	C 3	1	11	外. ハケ, 平滑ナデ 内. 平滑ナデ	にぶい赤褐色	石英, 長石, 角閃石
n-8	C 4	5	11	外、ハケ 内、ヘラナデ	にぶい黄橙色	長石, 金雲母
11-9	C 4	54	11	外、ハケ、ヨコナデ 内、ナデ、指オサエ	灰黄褐色	石英, 長石
n —10	C 4	45	壺	外. 平滑ナデ 内. ヘラ痕,ナデ	にぶい黄色	石英, 長石, 角閃石
11 11	C 3	8	))	外. 部分暗文 内. ヨコミガキ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
n —12	C 3	5	))	外. 部分暗文 内. ヨコミガキ	橙色	石英, 長石, 金雲母

### 4号旧河道 (CD4·5区) 出土土器一覧表①

図番号	地区・層位	P番号	種類	調整	手 法 等	色 調	胎土砂粒
31-1	C D 5 III	58	甕	外. ハケ,沈線	内。ハケ、ナデ、指オサエ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母
"-2	D 4	34	11	外. ハケ, 沈線	内。ハケ,ナデ	灰褐色	石英, 長石, 金雲母
n-3	С 5 Ш	11	"	外. ハケ,スス	内。ハケ、ヘラナデ、指オサエ	灰黄褐色	石英, 長石
" - 4	CD5III	6	11	外. ハケ	内。ハケ,ナデ	褐灰色	石英, 長石, 金雲母
n5	СД5Ш	53	11	外、ハケ、剝落	内. ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 赤色砂,角閃石
<i>n</i> — 6	CD5III	126, 163	11	外。ハケ、スス	内。ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
11-7	CD5III	15, 16	))	外、ハケ	内。ナデ、指オサエ	にぶい黄褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> - 8	C D 4	1	))	外. 風化	内. 風化	にぶい黄橙色	石英, 長石, 赤色砂
<i>II</i> 9	CD5II	10	n	外. ハケナデ消し	内,ナデ	にぶい黄橙色	石英, 赤色 砂, 角閃石
32-10	CD5II	129 <b>,</b> 148, 137	1)	外. ハケ, ヨコナデ	内. ナデ	にぶい黄橙色	石英, 金雲母
<i>∥</i> —11	CD5I	37	甕	外. ハケナデ消し	内. ナデ	にぶい褐色	石英, 金雲母

4号旧河道 (CD4・5区) 出土土器一覧表②

		<del></del>	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	, , , ,	(CD4・3区)	j.L.j nahau :		γ	
図番号	地区・層位	P番号	種類		調整	手 衤	去 等	色 調	胎土砂粒
32-12	C D 5 III	209	"	外.	ハケ	内.	ヘラナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石
<i>n</i> −13	CD5H	110	))	外.	ハケナデ消し	内.	ナデ、指オサエ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −14	CD 5 III	116	n	外.	ヨコナデ	内,	ナデ	灰黄褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −15	CD5H	192	"	外.	ハケ	内.	ナデ	明褐灰色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −16	CD 5 II	119	"	外.	ハケ	内.	ナデ	黄灰色	石英, 金雲母
<i>n</i> −17	CD5H	101	"	外.	ハケナデ消し	内.	風化	にぶい黄褐色	石英, 長石
<i>n</i> −18	CD5III	126	n	外.	ハケ,ヨコナデ	内.	ヘラナデ	にぶい黄橙色	石英,長石, 金雲母
<i>n</i> −19	CD5III	108	"	外.	ハケ,ヨコナデ	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
n-20	CD 5 III	77	n	外.	ハケ,ナデ	内.	ナデ、指オサエ	黄灰色	石英, 長石
n 21	CD 5 III	123	"	外.	ハケ、ヨコナデ	内.	ナデ	にぶい黄橙色	石英,長石, 金雲母
n —22	CD5III	31	11	外.	平滑仕上げ	内.	平滑仕上げ	にぶい黄色	石英, 長石
33—23	CD5I	100	丹塗壺	外,	全周暗文	内。	ナデ,しぼり痕	褐灰色	石英,長石, 金雲母
n —24	СД5Ш	154	壶	外.	ヨコミガキ	内.	ナデ	にぶい褐色	石英, 長石
n —25	CD5II	58	11	外.	ヨコミガキ,ヨコナデ	内.	ヨコミガキ, ナデ	にぶい橙色	石英,長石, 金雲母
n —26	CD5I	21	鉢	外.	スス	内.	スス	にぶい赤橙色	石英,長石, 金雲母
n —27	CD5I	25	高杯	外.	風化	内.	ナデ	にぶい橙色	石英, 長石, 金雲母
n −28	CD5H	194	器台	外.	ハケ	内.	ハケ,ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 角閃石
n —29	CD5II	54	無文系	外.	擦過,ナデ	内.	擦過,ナデ	灰黄褐色	石英, 長石
<i>n</i> 30	CD5I	53	11	外.	擦過,ナデ	内.	ナデ、指オサエ	灰褐色	石英, 長石, 金雲母
<i>n</i> −31	CD5III	192	11	外.	ナデ,指オサエ	内.	ナデ、指オサエ	にぶい黄橙色	石英,角閃 石,金雲母
34-32	CD5III	69	11	外.	ハケナデ消し	内.	ナデ、指オサエ	にぶい黄橙色	石英, 長石
<i>n</i> −33	CD5III	208	))	外.	ヨコミガキ	内、	平滑ナデ	にぶい黄色	石英, 長石, 赤色砂
n —34	CD5II	59	11	外.	ハケナデ消し	内.	ナデ	灰黄褐色	長石
<i>n</i> −35	CD5II	186	n	外.	ハケ	内.	平滑ナデ	褐灰色	長石
<i>n</i> −36	CD5H	590	1)	外.	平滑ナデ	内.	ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石
<i>n</i> —37	CD5III	70	n	外.	平滑ナデ、ヨコナデ	内.	ナデ、指オサエ	にぶい黄橙色	長石他砂粒
n −38	CD5III	210	n	外,	ナデ,指オサエ,耳貼付	内.	ナデ	灰黄褐色	石英, 長石
n —39	C D 5 I		"	外.	指オサエ	内.	ナデ	にぶい黄橙色	石英他砂粒
n —40	C D 5- I	592	11	外.	指オサエ	内.	ナデ	褐灰色	石英
<i>n</i> −41	CD5II		"	外.	指成形	内.	へそ状突起	灰黄色	石英, 長石
35-1	C 6	76	甕	外.	ハケ	内.	ナデ	にぶい赤褐色	石英, 長石, 金雲母
n-2	C 6	14, 66	"	外.	ハケ	内.	ナデ	にぶい黄橙色	石英, 長石, 金雲母

### 4号旧河道 (C 6区) 出土土器一覧表①

図番号	地区・層位	P番号	種類	調整	手 法 等	色 調	胎土砂粒
35-3	C 6	63, 40	壺	外. 全周暗文	内。ナデ、指オサエ	にぶい褐色	石英, 長石, 金雲母
11 4	C 6		無文系	外. ヨコミガキ,ハク	ケ 内。ナデ,指オサエ	灰黄褐色	石英, 長石
n-5	C 6	37	高杯	外. ヨコミガキ	内. ナデ	にぶい褐色	石英, 長石, 金雲母

#### (2) 石 器

今回の調査で検出された  $1\sim4$  号旧河道内からはおびただしい数の石器が出土しているが、今回の報告では全ての旧河道出土石器を網羅することが時間的に困難であるため、1 号旧河道と 3 号旧河道 (C  $7\cdot8$  区) 出土資料を中心として説明を行う。

#### ① 1号旧河道出土石器 (第49図~56図)

 $20 \cdot 21$ は,旧石器時代から縄文時代の石器である。20は黒曜石製の細石核のブランクである。前面部分が欠損している。土器溜部分のS100区のW層から出土している。流れ込みの資料である。20はサヌカイト製の石槍で,3.5cmの長さの基部をもつ。長さ14.5cm,幅3cm,厚さ1.7cm,重さ63gを測る。南側の包含層S100区V層出土。

1は粘盤岩製の石剣切先部分である。土器溜 V 層出土。 2・3は緑泥片岩製の磨製石鏃である。基部が3は平坦に、2は少し抉っている。両者ともに4gを測り、南側包含層 V 層出土。

 $4 \sim 11$ は頁岩製の石鎌である。 $4 \sim 6$ ,  $8 \cdot 9$  は全面に研磨を行った製品で, $7 \cdot 11$ は敲打混の残る粗い造りの製品である。4 は刃先部分,5 は中程, $6 \cdot 8 \cdot 10 \cdot 11$ は基部が残るものである。7 はこの状況で使用しているようである。11には緊縛によってついた擦痕が観察できる。9 は未製品か失敗品であろう。表面は研磨された部分がみられる。4 は土器溜VI層, $5 \sim 7 \cdot 9 \cdot 11$ は土器溜VII層, $8 \cdot 9$  は南側包含層出土。

12~17は石錘である。12・13は切目石錘である。12は粘盤岩製で7g,13は砂岩製で16gを測る。12は南側包含層V層,13は土器溜VI層出土。14は滑石製の砲弾形の九州型石錘で,285gを測る。P100 区IV層出土。15と16は側辺を凹みを造りだしたもので,敲石の可能性も残っている。15は砂岩製で93g,16は玄武岩製で126gを測る。15は土器溜VI層下部,16は土器溜VI層出土。17は中央に穴をもつ凝灰岩製の資料で,79gを測る。土器溜VI層出土。

18~24は磨製石斧である。18は粘盤岩製の小形方柱状石斧で、土器溜 VI 層出土。21~24は蛤刃石斧である。21・22は頁岩製品で、敲石として再利用されている。23は頁岩製で、表面が風化しているが刃部を部分的に欠失する他は全形が残る資料である。24は硬質の玄武岩と思われる石材を用いた石斧の基部である。21は南側包含層、21~24は土器溜 VI 層出土。

25・26は玄武岩製の礫器である。25が先端と側面が刃部を形成して、上面や側面には敲打痕がみられる。26は湾曲した刃部を形成して、双角の尖頭部か湾曲部を使用するものであろう。25は土器溜W 層、26は土器溜VI層出土。

27は大形の凹石で、石臼のような用途の製品であろう。硬質の玄武岩で、6.34kgを測る。土器溜 VI 層出土。28~37は敲石である。端部を主に使用しているが、側辺にも使用痕がみられる。37は石杵のような使用法が考えられる。素材は、28・30・31・33・34・37が硬質の玄武岩、29が石英、32がフォルンヘルス、35が安山岩、36が硬質頁岩であろう。28は232g、29は248g、30は212g、31は437g、32は330g、33は468g、34は350g、35は380g、36は1.22kg、37は2.56kgを測る。28・33・36・37は土器溜 VI 層、30・31・35は土器溜 VI 層、29・32・34は南側包含層 V 層出土。38~50は磨石・凹石であ

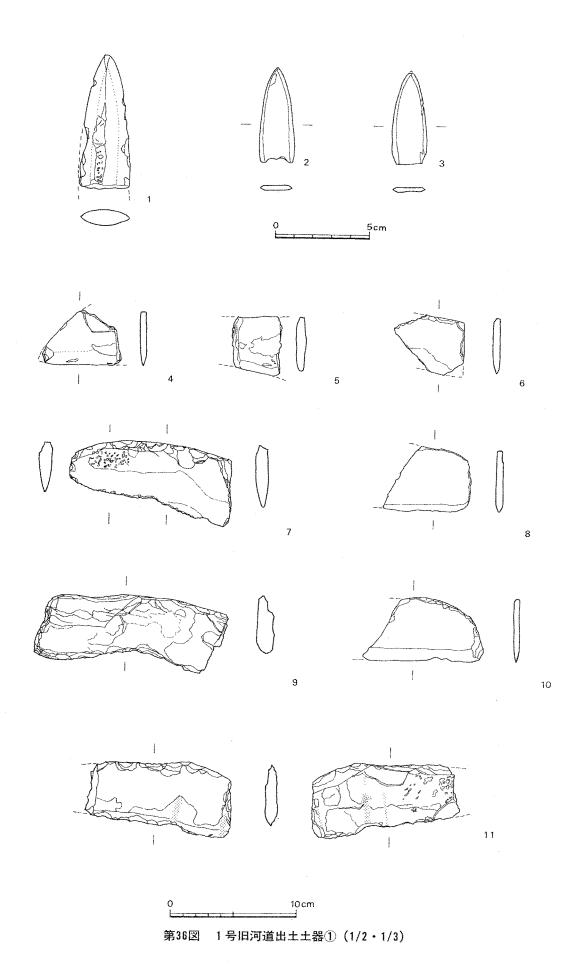
る。側辺の一部や全面に敲石として使用した痕跡を残すものが多い。素材は、38が安山岩の他は、硬質の玄武岩であろう。38は320g、39は520g、40は180g、41は490g、42は850g、43は350g、44は620g、45は525g、46は960g、47は820g、48は920g、49は970g、50は900gを測る。39・44・48・50は土器溜 VI層、38・40・43・47・49は土器溜 VI層。42・45・46は南側包含層 V層出土。

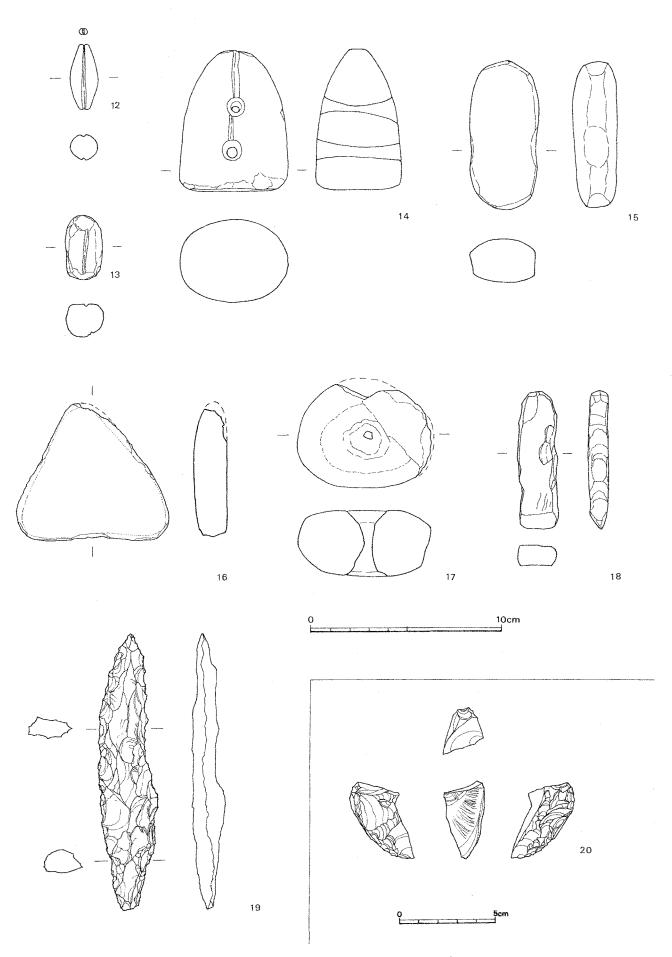
51~59は砥石である。51が緻密な砂岩を素材とする他は、粗い砂岩を用いている。51は260g,52は540g,53は680g,54は600g,55は750g,56は900g,57は1.77㎏,58は2.64㎏,59は2.04㎏を測る。52・56~58は土器溜VI層,51・53~55・59は南側包含層 V 層出土。

 $60 \cdot 61$ は玄武岩をもちいた碇石である。両側辺を打ち欠いて緊縛のための抉りを造っている。60は 14kg,61は8.1kgを測る。60は土器溜VI層,61は南側包含層V層出土。1 号旧河道において碇石は,土器溜から 8 点,南側包含層から 2 点,P100区から 1 点の計11点出土している。以下,一覧表を掲げる。

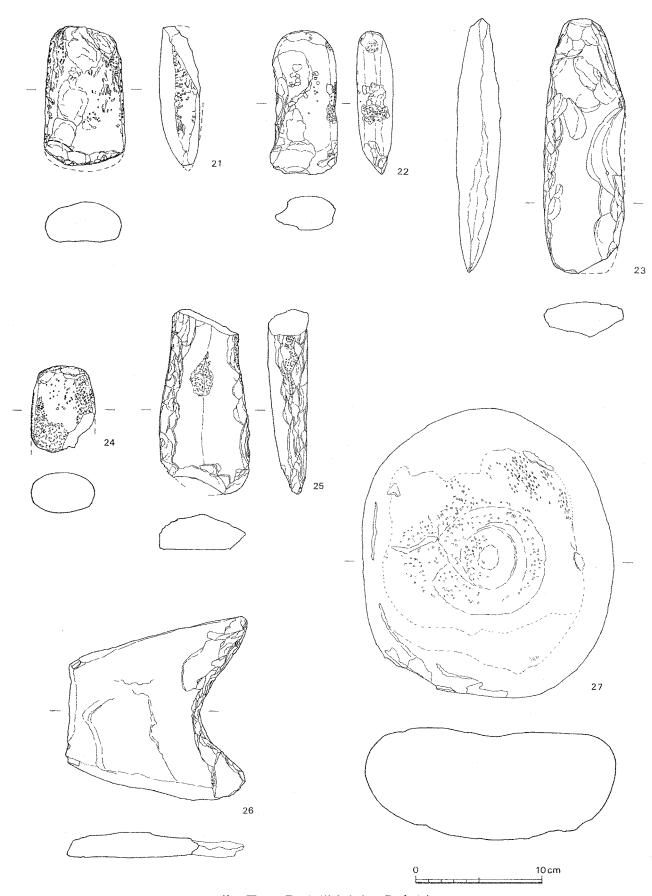
1号旧河道出土碇石一覧表

番号	地区	取り上げ番号	遺構	層	位	重量kg	備考
1	S 101	32-NS-40	土器溜	VI	層	14.0	第56図60
2	S 101	31—NS— <sup>°</sup> 3	土器溜	VI	層	14.5	
3	S 101	31—NS— 2	土器溜	VI	層	8.1	
4	S 101	32—NS—44	土器溜	VII	層	18.6	
5	S 101	32—NS—46	土器溜	VII	層	11.7	
6	S 101	32—NS—65	土器溜	VII	層	9.3	
7	S 101	32—NS—58	土器溜	VII	層	12.3	
8	S 101	32—NS—45	土器溜	VII	層	8.6	
9	S 100	19—SS—12	包含層	٧	層	8.1	第56図61
10	S 100	19—SS—13	包含層	γ	層	8.2	
11	P100	9 - S - 3	包含層	V	層	8.6	

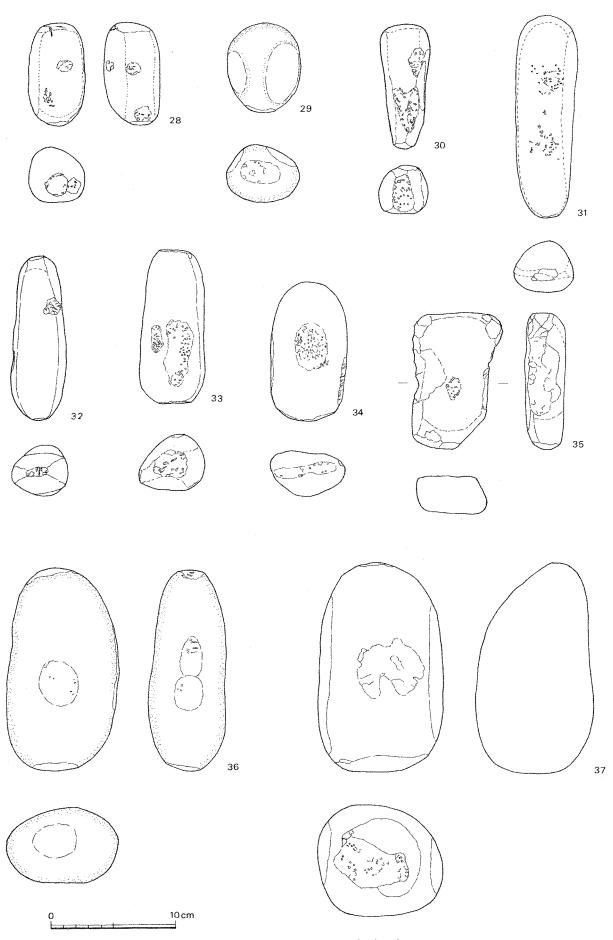




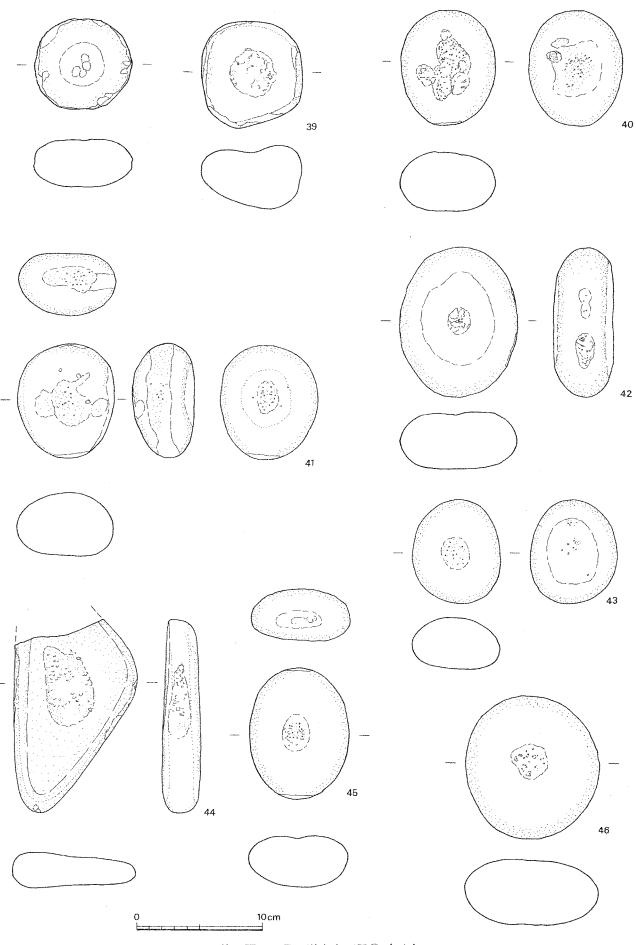
第37図 1号旧河道出土土器② (1/2, 2/3)



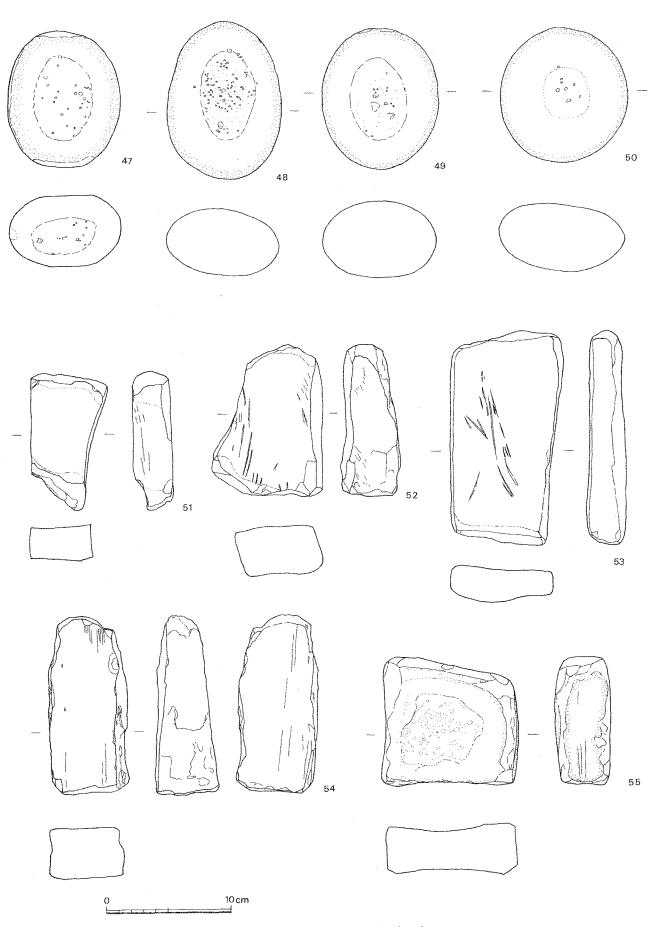
第38図 1号旧河道出土土器③ (1/3)



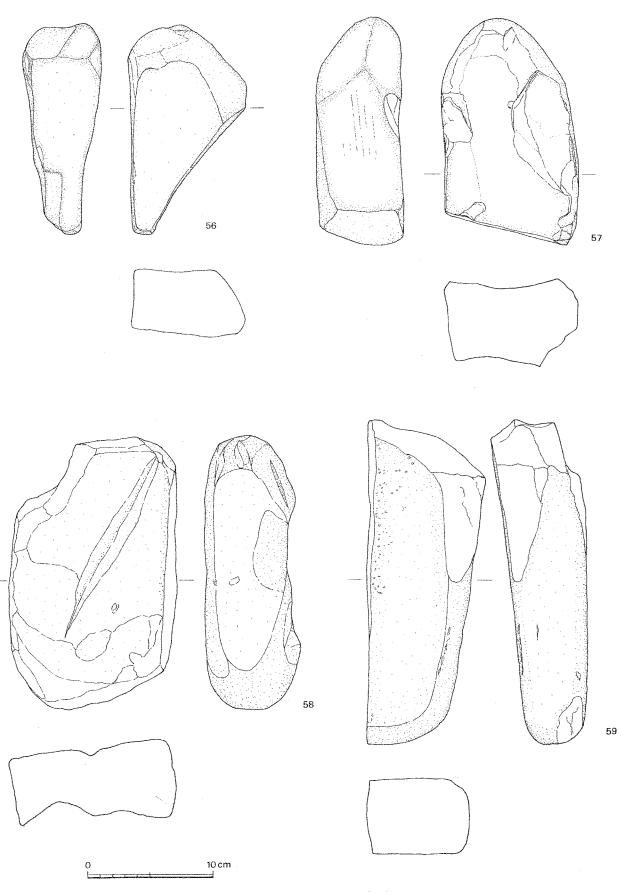
第39図 1号旧道出土石器④ (1/3)



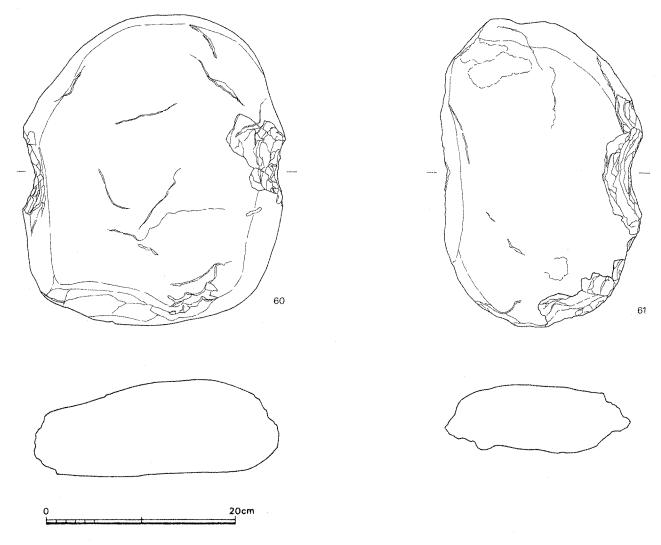
第40図 1号旧道出土石器⑤ (1/3)



第41図 1号旧道出土石器⑥ (1/3)



第42図 1号旧河道出土石器① (1/3)



第43図 1号旧河道出土石器⑧ (1/4)

# ② 3 号旧河道 (C7 · 8区) 出土石器 (第44~53図)

1・2 は黒曜石製角礫を用いた石核である。正面から側辺の2/3ほどを剝離しているが、他の部分には自然面が残る。C8区出土。2 はサヌカイト製のスクレーパーである。側辺に刃部を形成している。C8区出土。両者は、旧石器時代〜縄文時代の石器である。

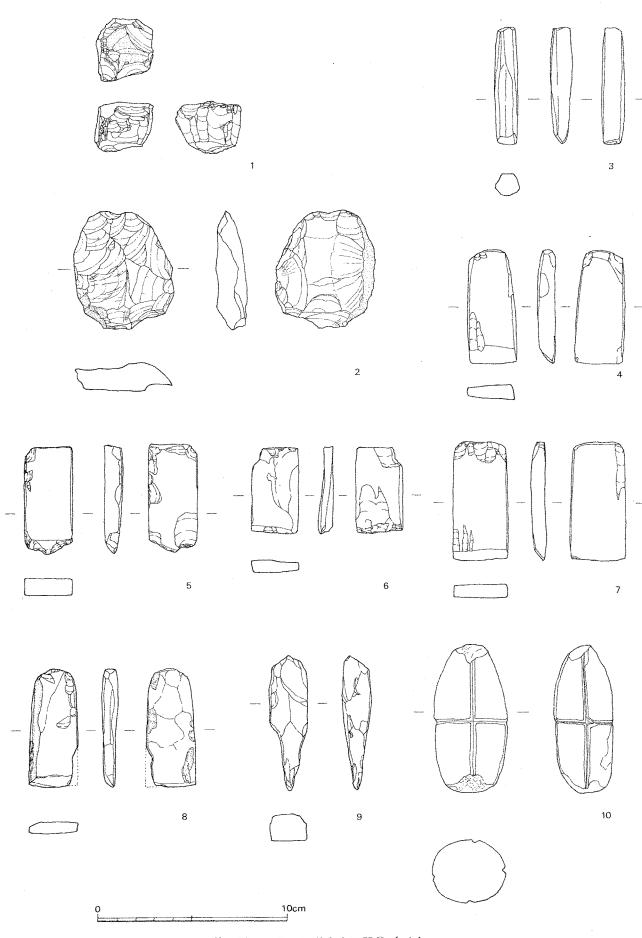
11・12は磨製石鏃である。11は基部側辺ともに平らに仕上げていて、刃部をもたない長葉形の小形品である。粘盤岩製で、1.9gを測る。C7区出土。12は基部を抉った柳葉形の製品で、先端部を欠失している。頁岩製で、3.1gを測る。C8区出土。13は方鉛鉱か亜鉛鉱を利用した石製剣把で、無紐で十字形の形態をもつ。長辺(枕部)が5.9cm、短辺(突出部)が4.3cm、重量が68gを測る。裏面には、漆のような樹脂状のものが付着している。14~19は磨製石剣である。14・15は切先、16は中途、17~19は基部である。18・19は茎をもつもので、17は側辺に抉りをいれて茎としている。15は幅広で石戈の可能性をもつ。18が粘盤岩製で、他は頁岩製である。14・15はC8区出土。16~19はC7区出土。20は、側辺を加工しているが研磨はまだしていない頁岩製の剣未製品である。C7区出土。

 $3 \sim 8$ ,  $21 \sim 23$ は,磨製石斧である。 3 は,粘盤岩製の小形方柱状石斧である。重量20 g を測る。 C 7 区出土。  $4 \sim 8$  は粘盤岩製の扁平片刃石斧である。重量は, 4 が23.4 g, 5 が28.3 g, 6 が14.2 g, 7 が28.5 g, 8 が22.2 g を測る。いずれも C 8 区出土。  $21 \cdot 22$  は方柱状石斧で, 22 抉入である。 21 は粘盤岩製で100 g を測る。 22 は頁岩製で, 298 g を測る。 21 は C 7 区, 22 は C 8 区出土。 23 は 頁岩製の蛤刃石斧である。全体に敲打して形を整え,刃部だけを磨いている。重量は708 g を測る。 C 7 区出土。 24 は方柱状抉入石斧の未製品あるいは失敗品で,敲打の段階で止めている。 頁岩製で, 352 g を測る。 C 7 区出土。 25 は粘盤岩製の石斧素材で, 320 g を測る。 C 8 区出土。

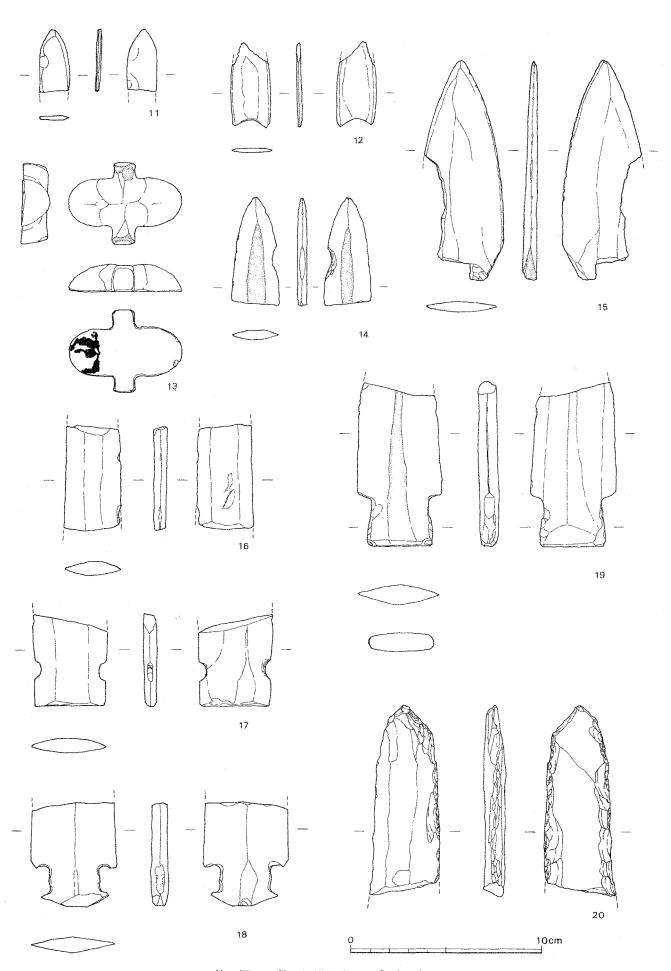
9 は粘盤岩製の石錐である。先端を打欠いて尖らして,さらに面取りして研磨している。27gを測り,C 7 区出土。26は三角形状をなす礫器で,尖頭部か粗い刃部を使用するものであろう。C 7 区出土で,710gを測る。 $10 \cdot 42 \cdot 43$ は滑石製の石錘である。10は十字形に切目をいれるもので,150gを測る。 $42 \cdot 43$ は中央に穴をもつ丸い形の大形品で,42が800g,43が1300gを測る。いずれもC 8 区出土。

27~30は頁岩製の石庖丁である。27・28は完形品で、27は120g、28は78gを測る。29は片刃で小さな穿孔をもっている。27・30はC8区、28・29はC7区出土。31~40は頁岩製の石鎌である。31~33は切先部で、34~40は基部付近の破片である。背から鈍角に屈曲して直線的な基部の36~40と丸い基部の34・35がある。31~34、36~40はC8区、35はC7区出土。39と40は頁岩製の石鎌未製品で、刃部と背部分を打欠いて整えている。39はC7区、40はC8区出土。

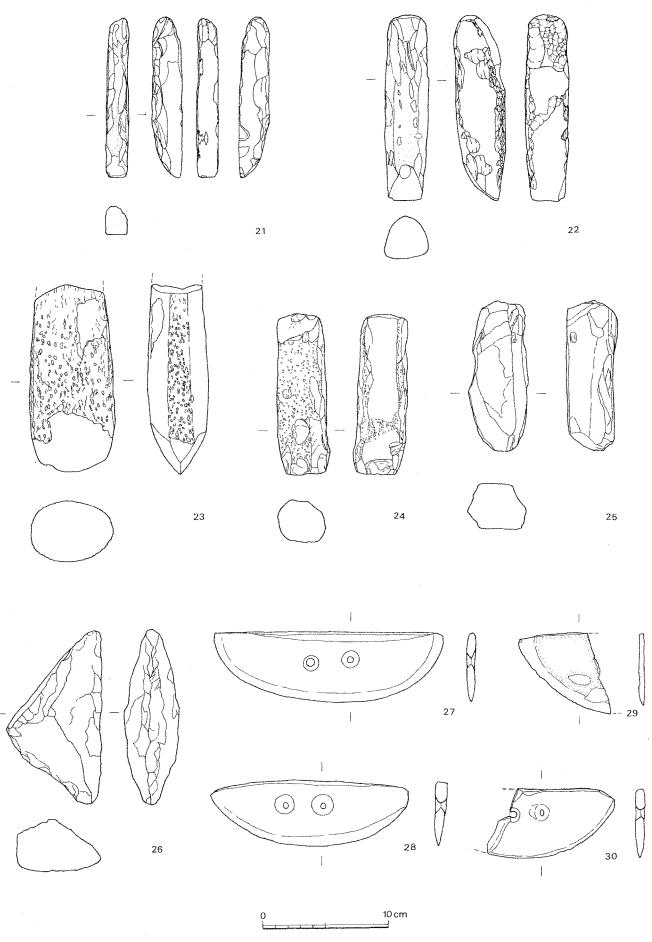
44~46は玄武岩製の敲石である。端部を主に使っているが、側面にも使用痕が認められる。44は490 g, 45は444 g, 46は505 g を測り、44は C 7 区、45・46は C 8 区出土。47~56は磨石・凹石である。上下面が凹むばかりでなく、側辺に敲石として使用した痕跡が残るものも多い。47が100 g, 48が250 g, 49が280 g, 50が1250 g, 51が1200 g, 52が443 g, 53が501 g, 54は460 g, 55は700 g, 56は6540 gを測る。56は,石臼や台石としての用途が考えられる。47・49・51・54・56は C 7 区、48・50・52・



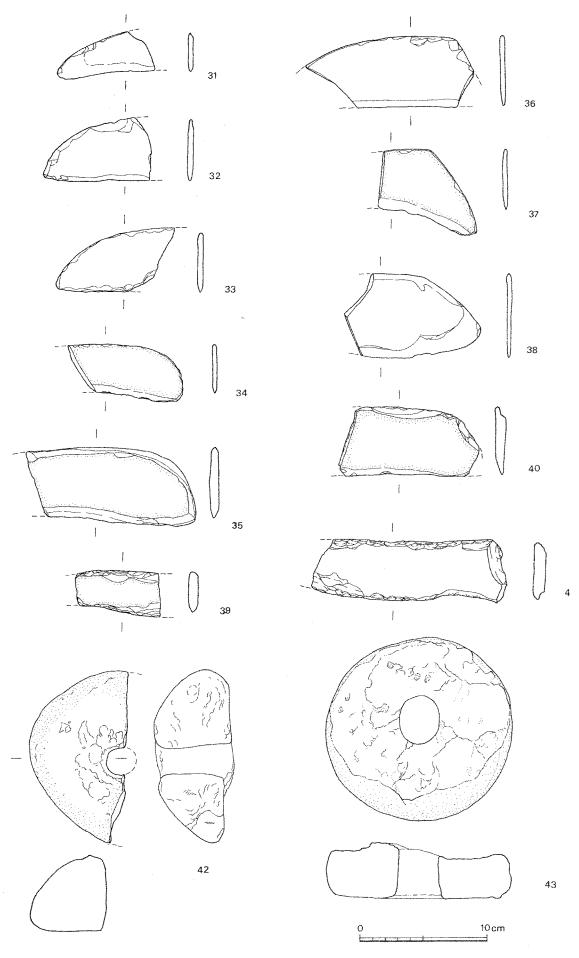
第44図 3号旧河道出土石器① (1/2)



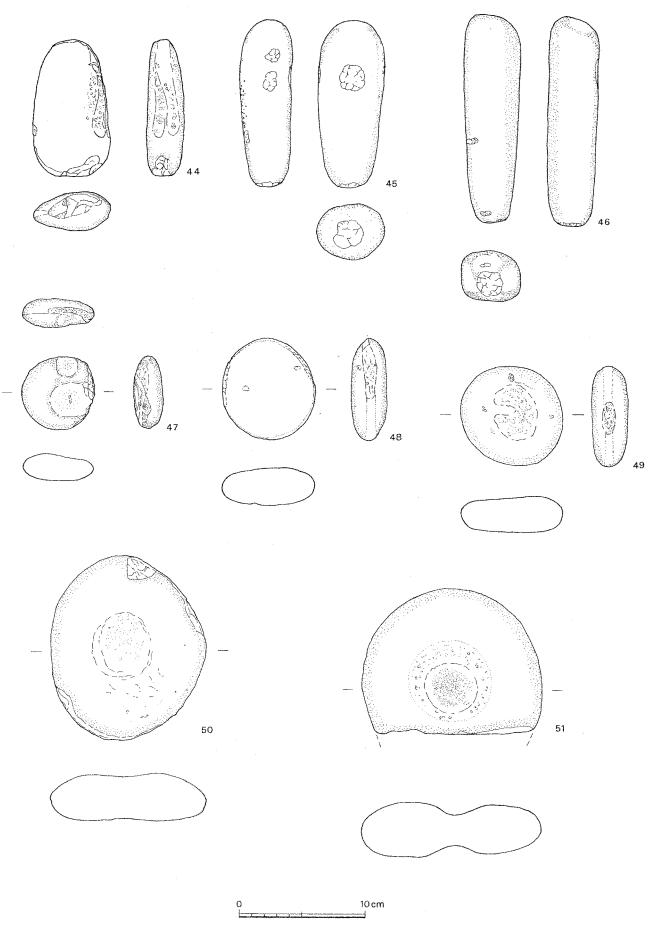
第45図 3号旧河道出土石器② (1/2)



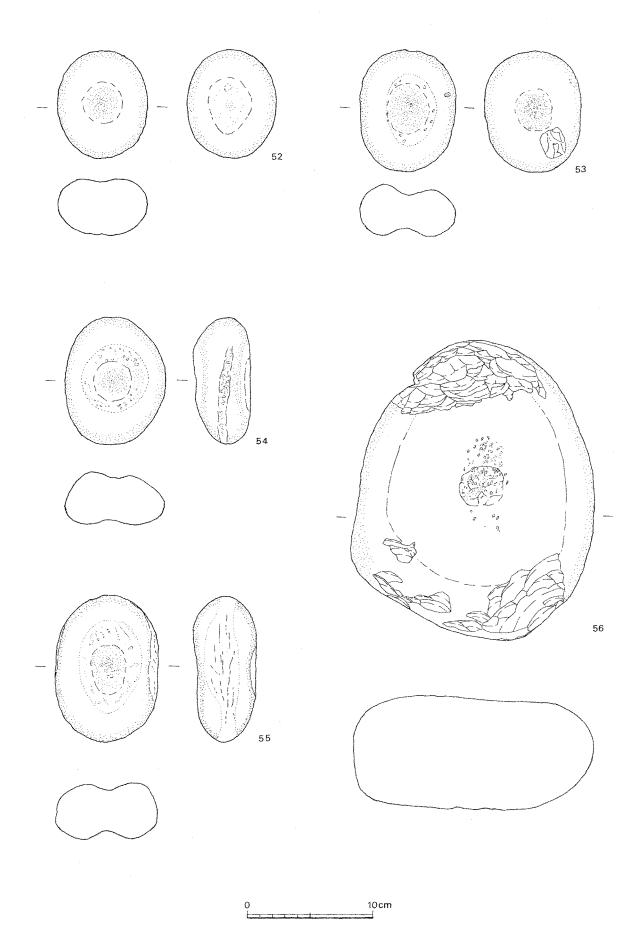
第46図 3号旧河道出土石器③ (1/3)



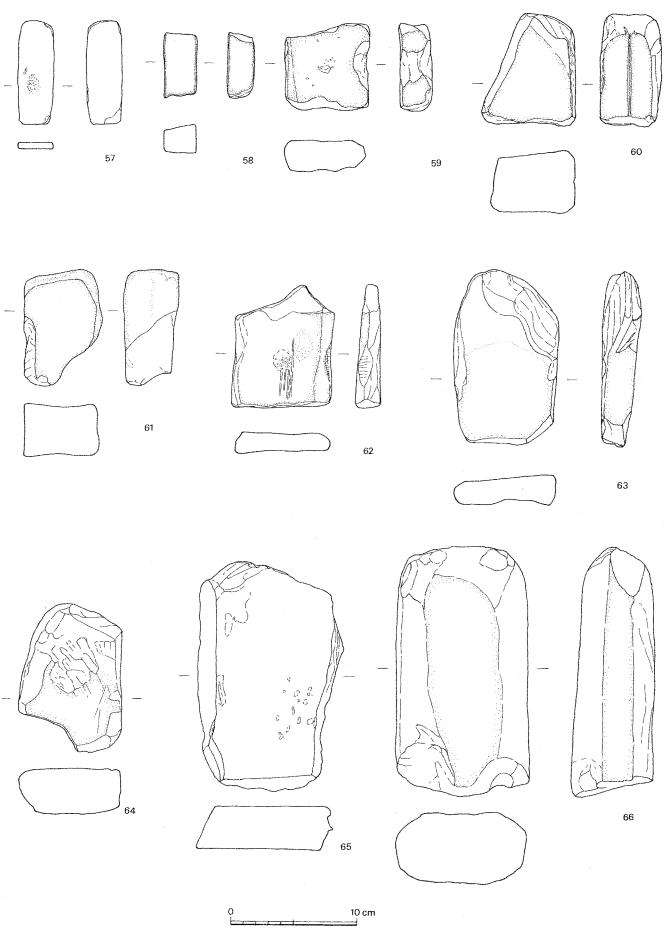
第47図 3号旧河道出土石器④ (1/3)



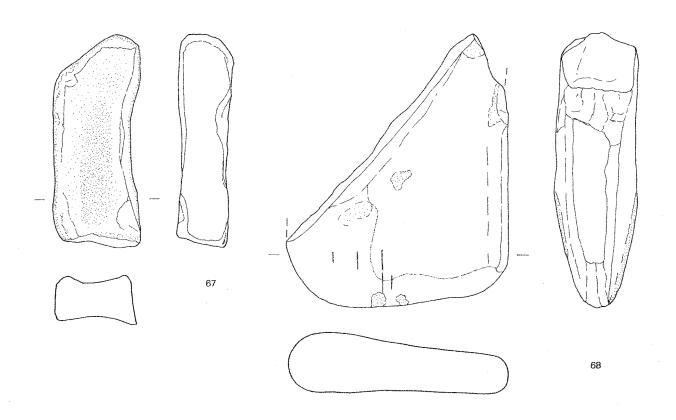
第48図 3号旧道出土石器⑤ (1/3)

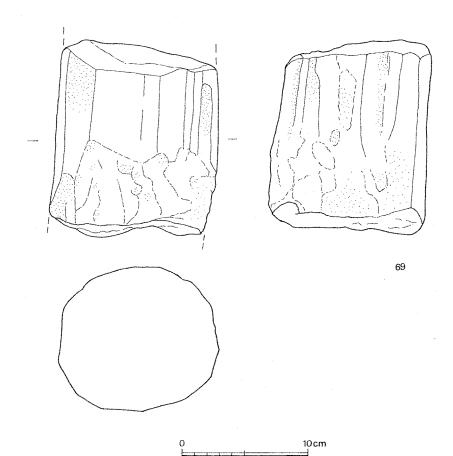


第49図 3号旧道出土石器⑥ (1/3)

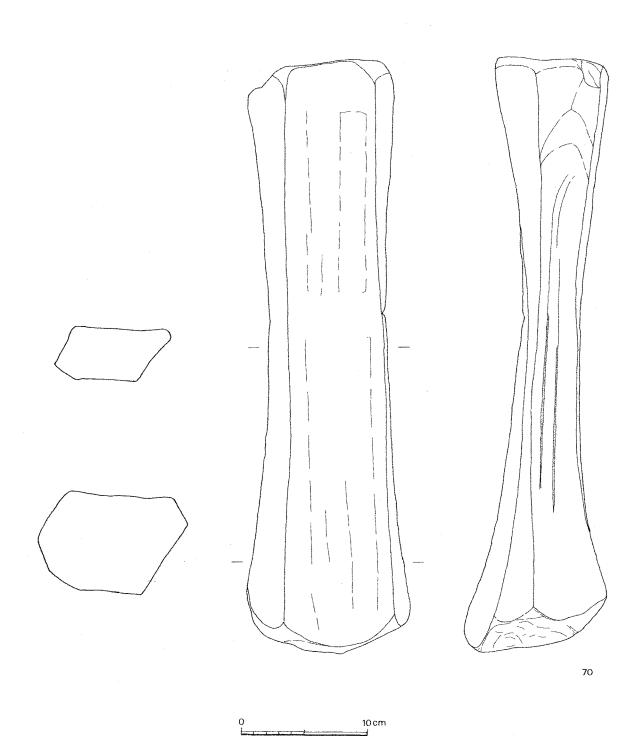


第50図 3号旧河道出土石器① (1/3)

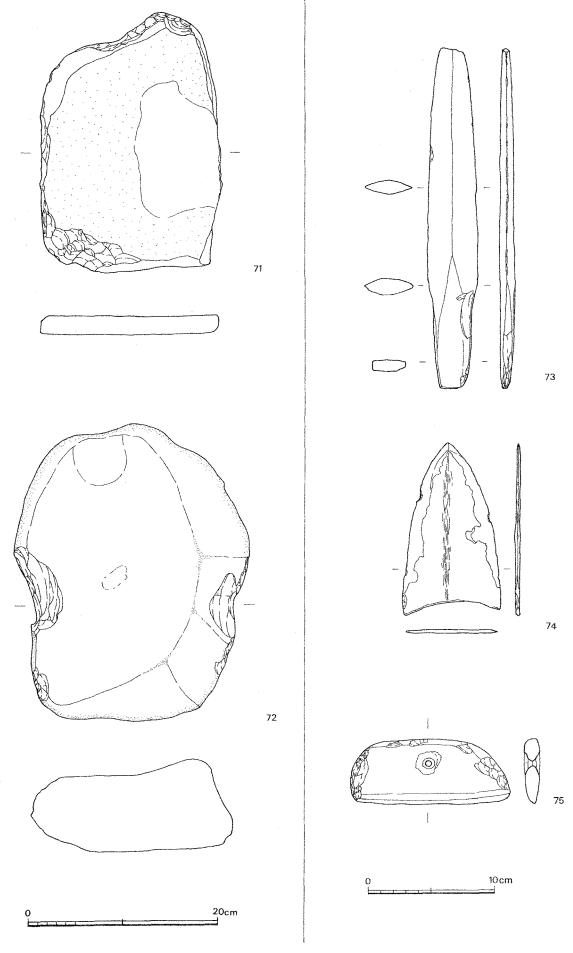




第51図 3号旧河道出土石器⑧ (1/3)



第52図 3号旧河道出土石器⑨ (1/3)



第53図 3号旧河道およびその他の地区出土石器(1/4, 1/3)

#### 53・55はC8区出土。

57~71は砥石である。57が粘盤岩の他は、砂岩製の素材で、長方形の上下面や側面を砥石面として使用するのが基本だが、69・70は多角形の砥石面をもつ荒砥である。57・59・62・64の上面には敲打痕やが残こり、凹石のような使用を行っている。60は細い溝状の窪みがみられる。71は大形で扁平な品で、台石的な使用も考えられる。重量は、17が30g、58が45g、59が185g、60が420g、61が300g、62が205g、63が415g、64が435g、65が1270g、66が2040g、67が560g、68が2400g、69が3300g、70が4580g、71が1620gである。70・71がС7区の他は、C8区出土である。

72は玄武岩製の碇石である。両側面を打欠いて緊縛のための抉りを造っている。C 7 区出土で、1.18 kgを測る。この他にも、 2 号旧河道でB11区18.2kg、B12区15.0kgの 2点が出土している。

# ③その他の地区出土の石器 (第53図)

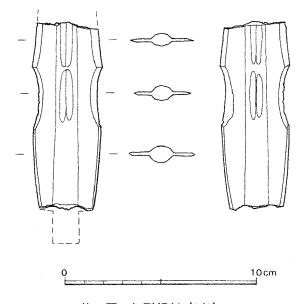
他にも多くの石器が出土しているが、3点だけ紹介したい。73は、切先の先端を一部欠失している他は完形の石剣である。近世以降の河道から出土したが、近くの弥生時代包含層から流れ込んだことが推測される。形態的には鉄剣型の石剣で、中央に明確に稜がはいる。頁岩製で、重量は168gを測る。C4区出土。74は大形の磨製石鏃で、長さ13.6cm、幅7.7cm、厚さ3 mm、重さ33.6gを測る。基部は丸く抉って面取りされ、側辺は刃部を研ぎ出している。上下面には中央部に装着した時にできたと推測される擦痕が認められる。戦闘に使用したものでなく、儀器的な品であろうか。4号旧河道CD5区出土。75はわりときめ細かい砂岩製の石庖丁である。櫛形の形状で中央に1箇所穿孔がみられる。長さ12.3cm、幅5.7cm、厚さ1.0cmを測る。刃部は片刃で、丸みをもつ側辺から背にかけて面取りしている。ぶ厚いつくりの変形石庖丁である。4号旧河道CD5区出土。

#### (3) 金属器(第54図)

金属製品は旧河道内からはほとんど出土せず、1号旧河道土器溜から鉄斧1点、3号旧河道から青銅製の細形銅剣片1点が出土したにすぎな

いが、鉄斧については探索中であるため、 細形銅剣について報告する。鋒部と茎部分 を欠損した細形銅剣片で、岩永省三氏の分 類によれば、細形銅剣 I 類に相当する。愛 媛大学の吉田広氏によれば剣身長が20~25 cmの小型品であると教示を受けた。なお、 ここでの図は吉田氏実測のものを使用させ ていただいた。感謝申し上げたい。

註(1) 岩永省三「弥生時代青銅器型式分類編年再考」『九州考古学』No.55 九州考古学会 1980



第54図 細型銅剣 (1/2)

# (4) 木製品等 (第55~65図)

木製品は、各種多数の出土がみられたが、今回の報告では時間的な関係上一部に限る。

3・4 は木鏃あるいは木槍で、3 が長さ13.3cm、幅1.9cm、4 が長さ13.1cm、幅1.8cmを測る。8・9 は木剣形製品で、8 は長さ57.7cm、幅78.8cm、9 は78.8cm、幅2.3cmである。35・40もその可能性をもつ。8・9・35は1号旧河道土器溜、40は1号旧河道包含層出土。10は短甲で、表には黒漆を施している。1号旧河道土器溜出土。2 は栓と推測される。1号旧河道包含層出土。1と7は加工をもつ製品であるが、用途は明確でない。1号旧河道土器溜出土。

5・6 は漆塗台付杯である。黒漆の上に赤漆で紋様を描いている。5 は1号旧河道包含層出土。6 は3号旧河道C7区出土。11・12は4足の槽で、11は長方形の槽で、12は一面が平坦で他は丸みをもっている。11は1号旧河道、12は3号旧河道B8区出土。13・14は案である。13は透かしをもつ黒漆の製品で、中央に仕切りをもつ。14は楕円形の体部で、ぶ厚い脚部をもつ。13は3号旧河道C7区出土。14は4号旧河道C2区出土。15・16は案の脚部で、16は黒漆の製品である。15は1号旧河道土器溜出土。16は3号旧河道B8区出土。17は脚台付の椀で、脚部を欠損している。内外面ともに黒漆を施す。4号旧河道CD5区出土。

18は、木製品ではないがここで報告する。ココヤシの果殻を利用した笛である。長さ12 8cm、幅8.7 cmの卵形をなし、一部を欠いている。上方に径 4 cmほどの吹口があり、前面に指孔が 3 箇所、後面に吹口付近に 2 孔と下端に 2 孔の指孔がみられる。この他に貫通していない虫食状の小孔が数箇所みられる。同様の形態の土笛を「塤」というが、中国では鵞鳥卵ほどのものを大塤、鶏卵ほどのものを小塤いい、大きさからみると大塤のサイズに相当する。 3 号旧河道 C 7 区出土。19~21 は杓子で、19は 3 号旧河道 B 8 区、20は 1 号旧河道包含層、21は 2 号旧河道 B11 区出土。23は円錐形状の製品で、用途は明確でない。

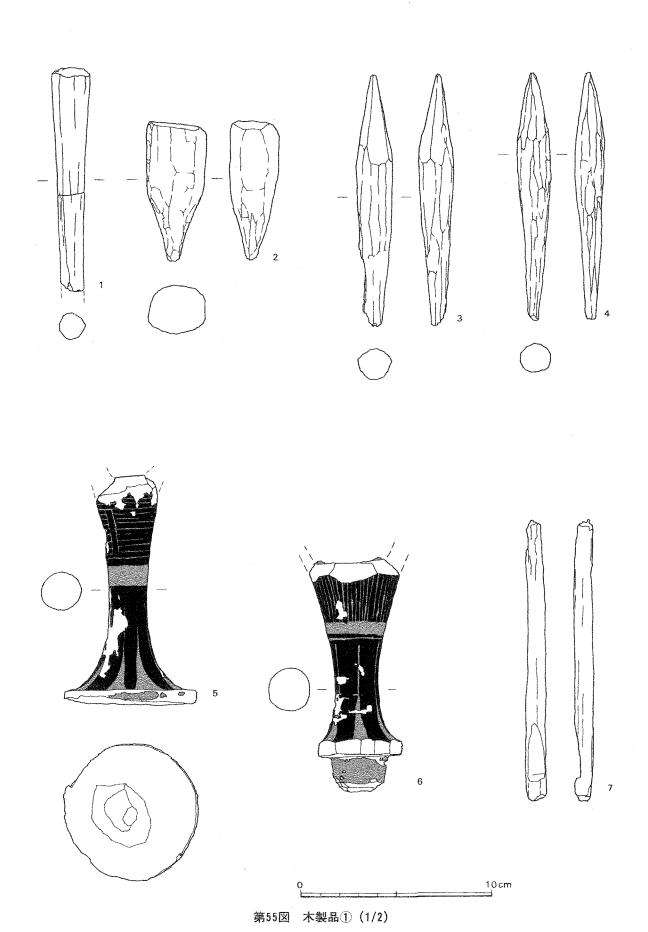
22,35は斧柄であり,36は板状鉄斧をはめ込む柄であろう。22は3号旧河道C7区,36は1号旧河道土器溜出土。38は,平鍬の柄と思われる。はめ込み部分の抉りが造られている。3号旧河道C7区出土。24は又鍬で,25は平鍬である。25は1号旧河道土器溜出土。26・27は鋤で,1号旧河道土器溜出土。

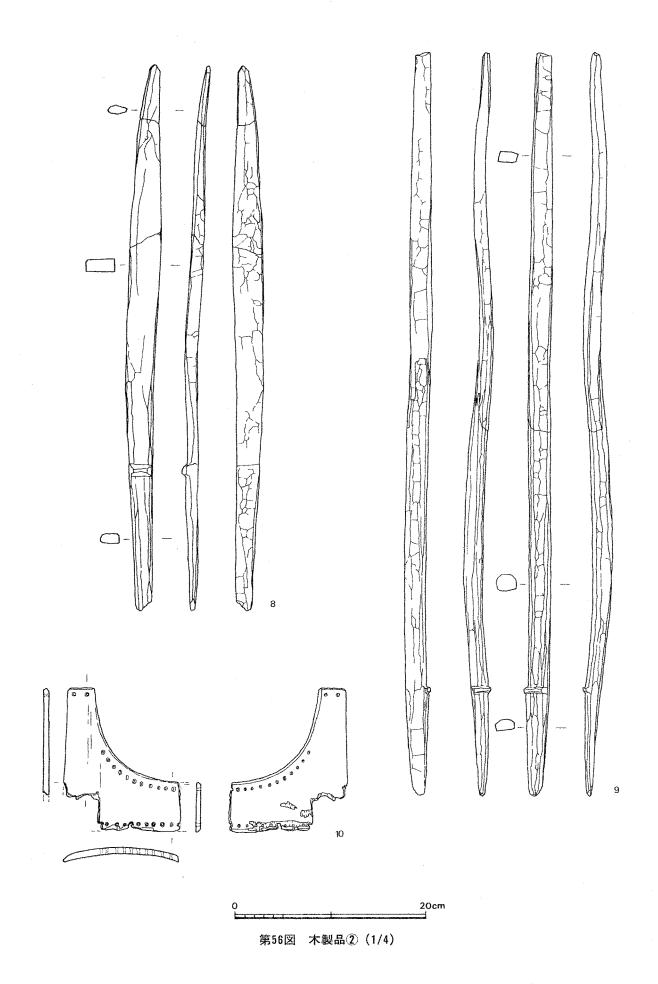
29~34は杵,横杵で,29は139cmの大形品である。29・34は1号旧河道土器溜,33は1号旧河道包含層出土。30は3号旧河道C8区出土。31は4号旧河道C2区出土。42は円形の蓋である。方形の抉りを1箇所入れている。3号旧河道C7区。38・40・43は建築部材あるいはその転用品で,ほぞ孔をあけたり抉りを入れている。39は2号旧河道B11区,40は3号旧河道C8区,42は4号旧河道C2区,43は4号旧河道C4区出土。

44は長さ73cmが残存した梯子で、幅27cm、厚さ11cmを測る。

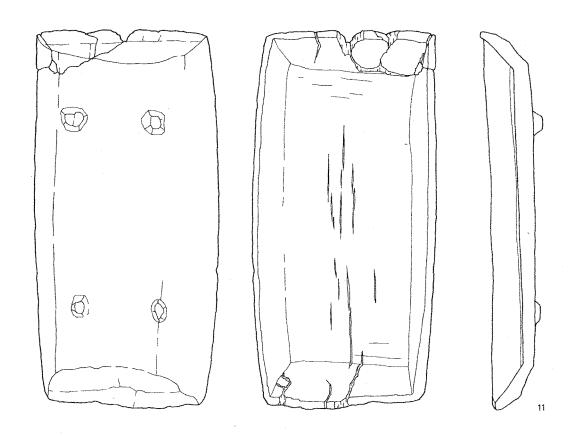
#### (5) 骨角器(第66図)

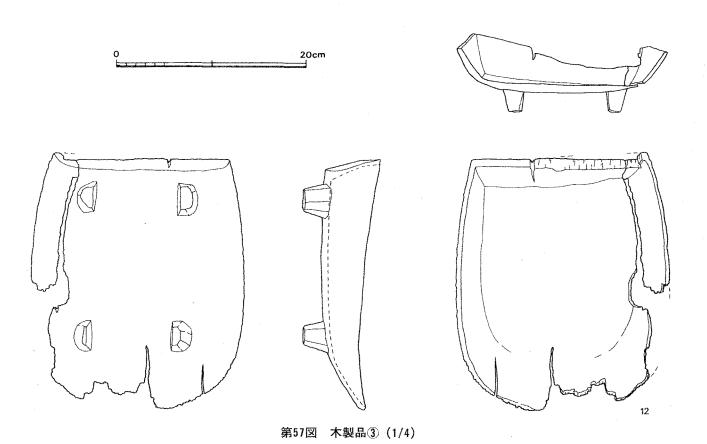
 $1\sim 5$  は,1 号旧河道土器溜出土の骨角器である。 1 は長さ15.3cmが残存した鹿角製の戈である。 火を受けたようで黒ずんだり,白くなっている。  $2\sim 4$  は鯨骨製のアワビオコシである。 3 は火を受

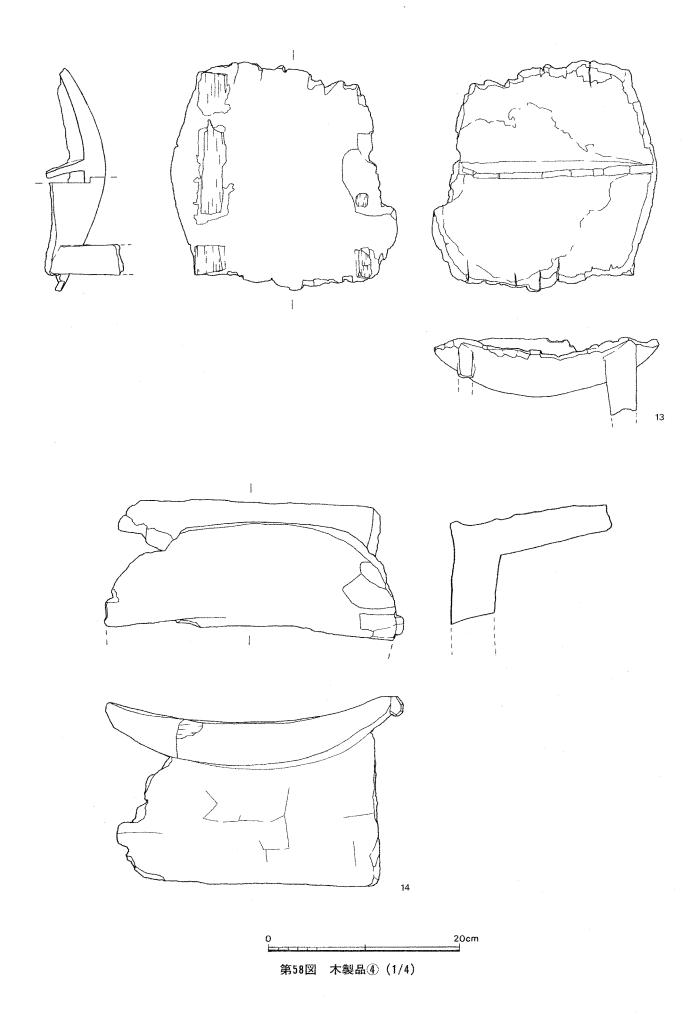


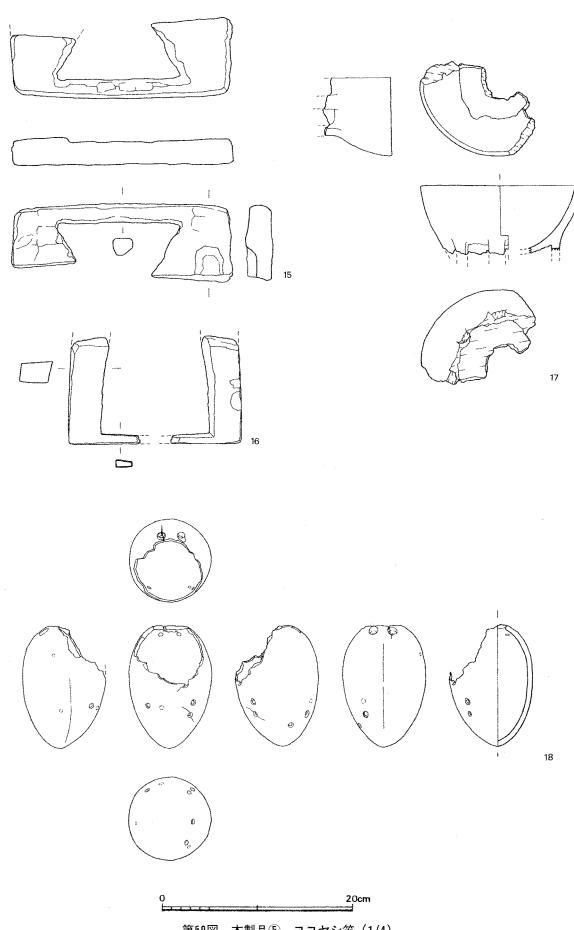


— 81 —

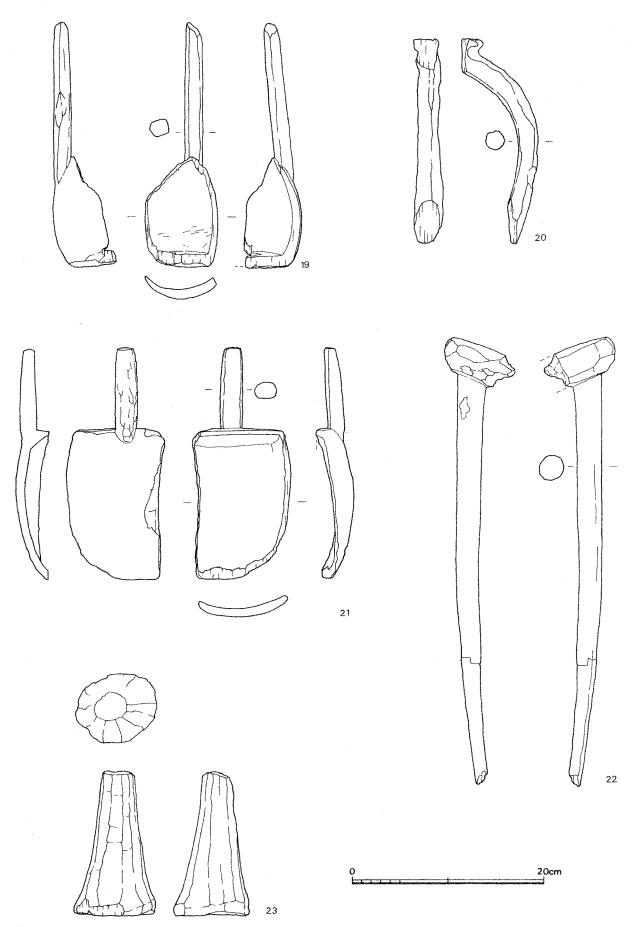




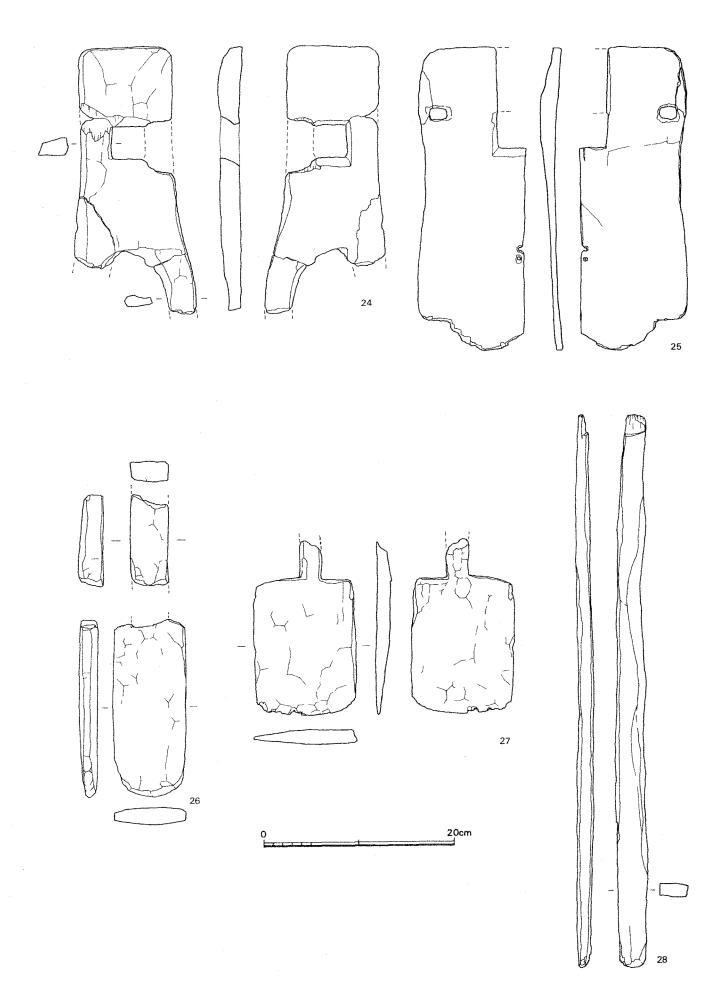




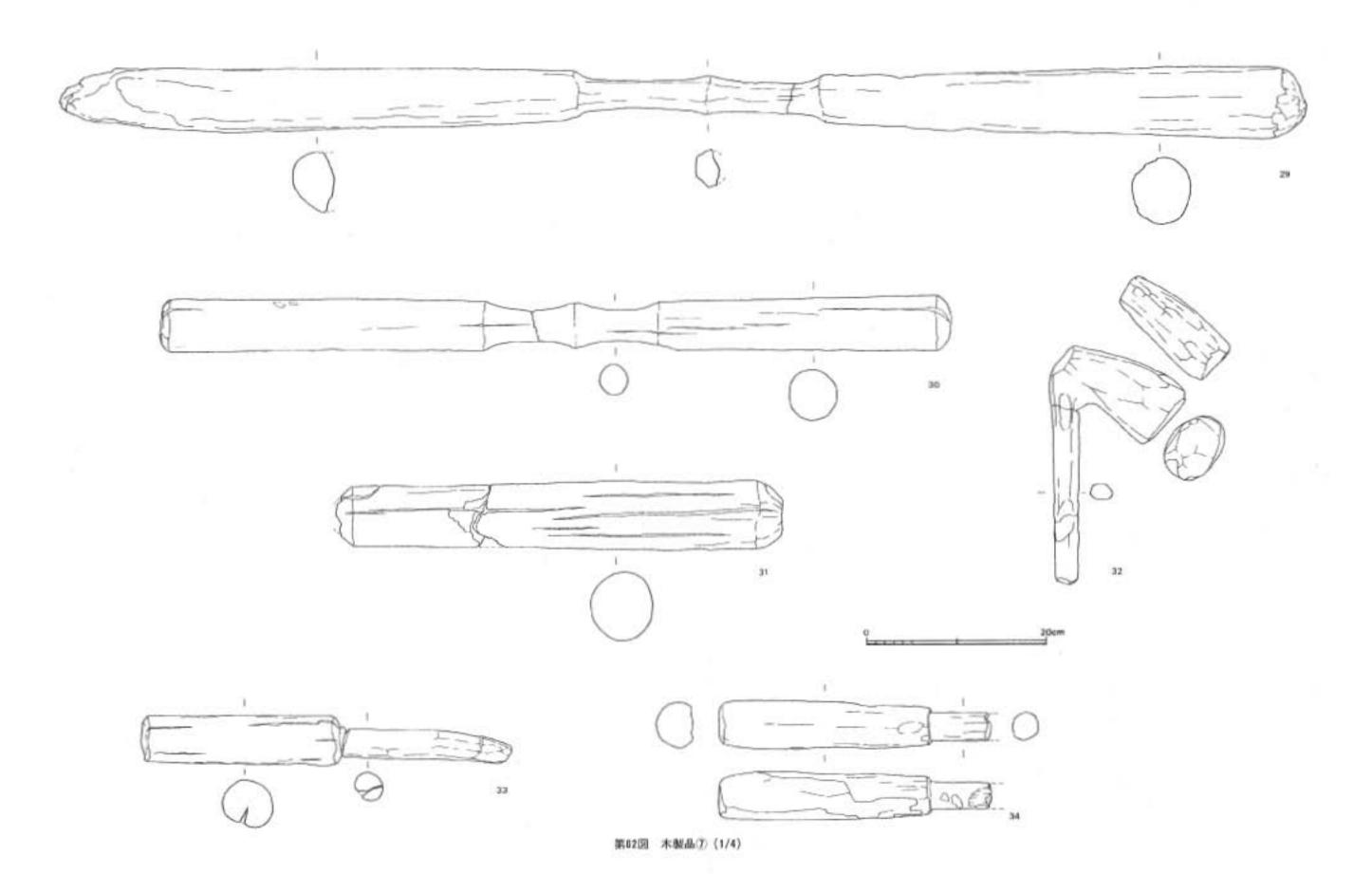
第59図 木製品⑤ ココヤシ笛 (1/4)



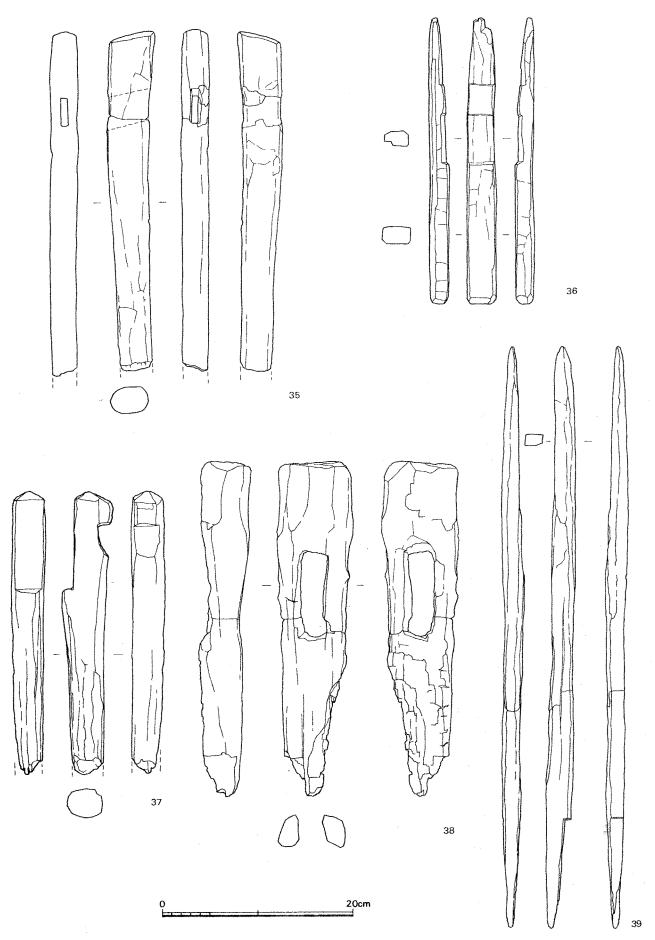
第60図 木製品⑥



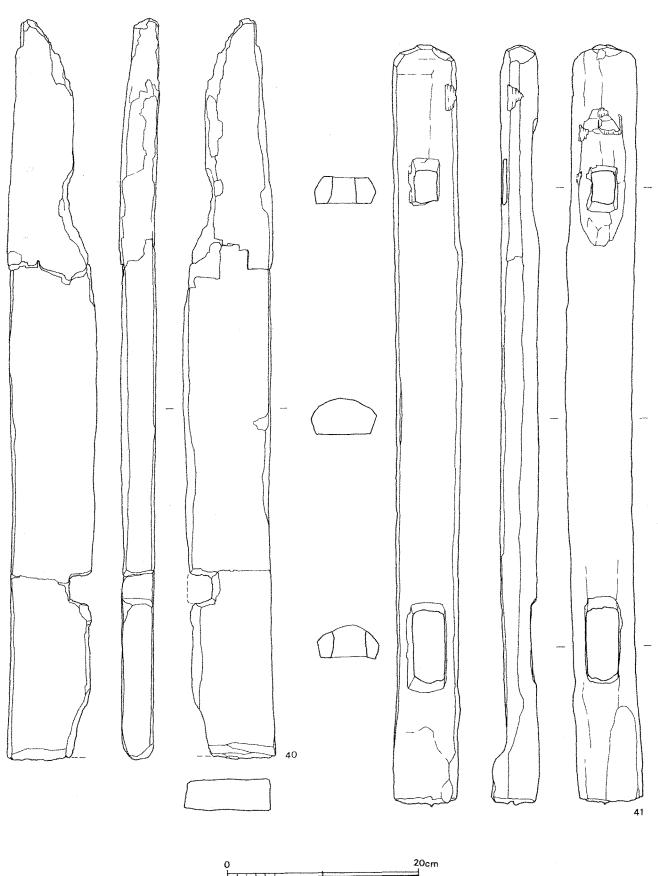
第61図 木製品① (1/4)



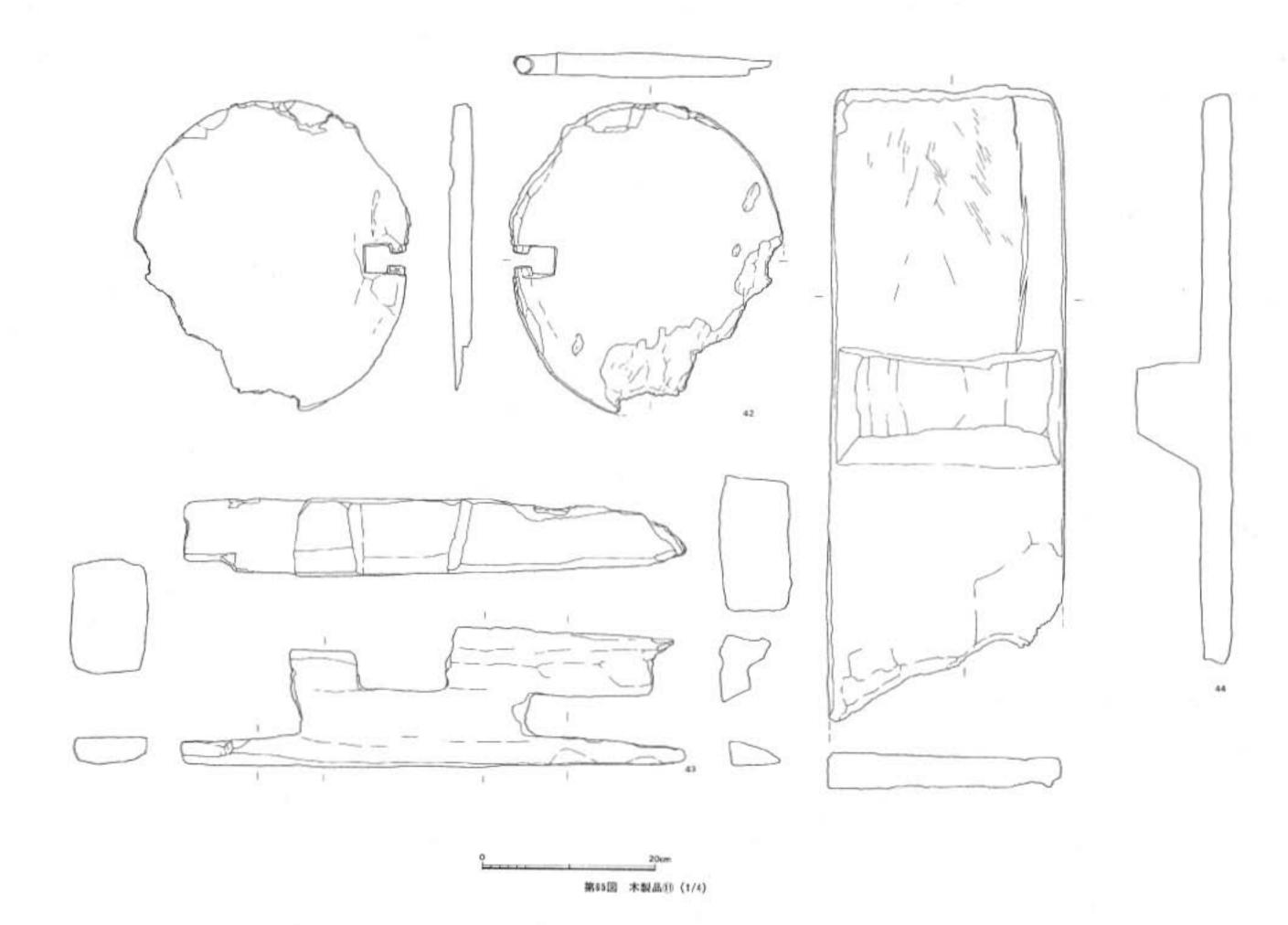
 $-87 \sim 88 -$ 

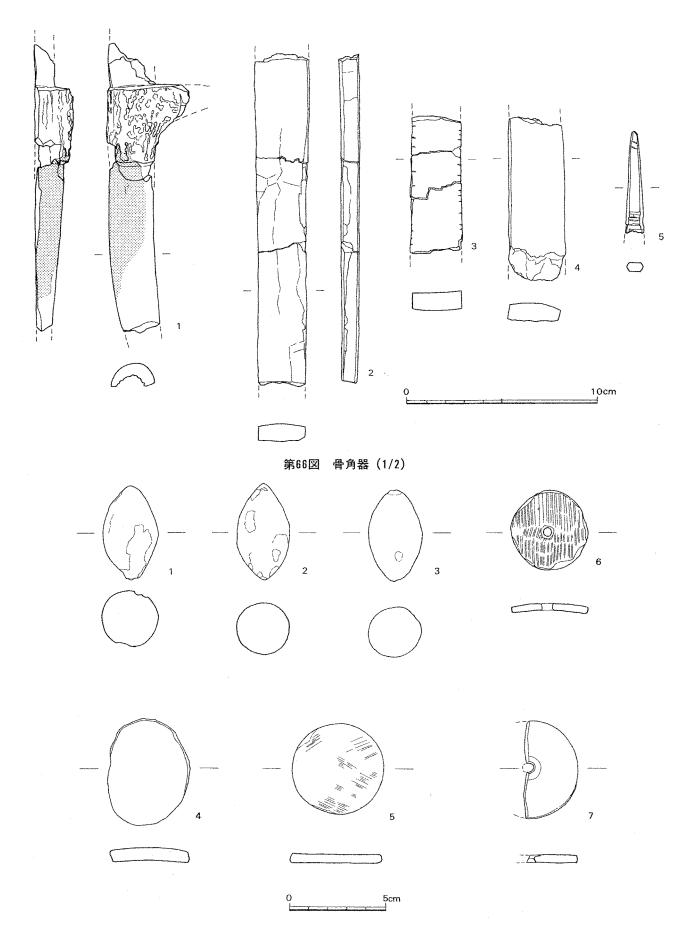


第63図 木製品⑨ (1/4)



第64図 木製品⑪ (1/4)



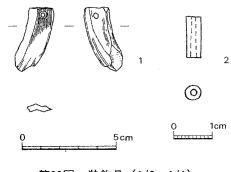


第67図 土製品・石製品 (1/2)

けたようで白くなっている。2 は長さ17.4cm,幅2.9cm,厚さ1cm,3 は長さ7.3cm,幅2.5cm,厚さ0.9cm,厚さ1cm,3 は長さ7.3cm,幅2.5cm,厚さ0.9cm,4 は長さ8.5cm,幅3 cm,厚さ1 cmを測る。鹿角製の刺突具で,長さ5.4cm,幅1 cm,厚さ0.5cmを測る。下端には刻みが認められる。

### (6) 土製品・石製品 (第67図)

 $1 \sim 3$  は紡垂形の土製投弾である。1 が33 g , 2 が32 g , 3 が31 g を測る。2 の胎土には金雲母を含んでいる。



第68図 装飾品 (1/2, 1/1)

1・2は1号旧河道土器溜,3は4号旧河道C2区出土。4は土器片の周囲を丸く面取りした円盤状製品で,19.6gを測る。4号旧河道C2区出土。5は頁岩製の石製円盤で,21.9gを測る。3旧河道C8区出土。6は土器片を利用した土製紡垂車である。中央に1箇所孔をもち,8.1gを測る。4号旧河道C2区出土。7は半欠した頁岩製の石製紡垂車である。上面には穿孔した際に段がついている。12.7gを測る。4号旧河道CD5区出土。

#### (7) 装飾品(第68図)

1はイノシシの牙を利用した垂飾品である。上端に小さな穿孔を施している。重さ1.7gを測る。3号旧河道C7区出土。2は碧玉製の管玉である。長さ1.1cm,径0.4cmの小形品である。1号旧河道包含層出土。

### 2. まとめ

ここでは幡鉾川改修工事に伴って平成6年度から平成8年度にかけて実施された発掘調査の成果について簡単にまとめを行う。調査区は、昭和14年に直線的な河道に改修された現河川敷に設定して調査を行った。これは、原の辻の台地北側の低地に当たり、その部分を東西方向に約450mにわたるトレンチを設定した格好になった。

調査によって、4条の旧河道と2箇所の濠、1条の溝などの遺構が検出された。西端にある1号濠 は、平成9年度のため池造成工事に伴う調査によって、3号旧河道につながることが推測される河道 にとりついた弥生中期後半須玖II式の時期の濠であることが確認された。 2 号濠は、断面形が V 字形 をなしていて, 時期的に弥生後期の可能性をもっている。1号溝は, 断面がU字形をなし, 性格は明 瞭でない。1号旧河道は弥生中期後半〜後期初頭の遺物を含み、丹塗土器や木製品などを出土した。 2号旧河道は弥生前期末~古墳前期布留式までの遺物を包含していて,長期間流路をもっていた河道 であることが分かった。北部九州系の甕棺片を5点含み,周辺に墓域があることが推測される。3号 旧河道は弥生前期末~中期後半(須玖II式古段階)までの遺物を主体としていて,朝鮮半島系の無文 土器およびその影響を受けたと考えられる土器を多く含んでいることが注目される。 4号旧河道は弥 生前期末~中期末(須玖II式新段階)までの遺物を含んでいる。4号旧河道では朝鮮半島系の土器も 出土しているが、3号旧河道とともに石鎌・石庖丁・磨製石斧・石剣・石戈の未製品・素材が多く出 土いることが注目される。朝鮮半島系の無文土器等は、ため池造成工事の際にも多く出土していて、 3号旧河道・4号旧河道に囲まれた地域に半島系の人々や子孫たちが集中して雑居していたことを物 語っている。また、ここには石器製作の工房があって、頁岩や粘盤岩の素材(現時点では対馬をその 産地として想定している)を移入して製品を造り、島内ばかりでなく日本本土へ運搬した可能性を推 察できるようになった。

今回の調査成果のひとつは、低地の微高地部分での居住が弥生前期末に開始されて弥生後期初頭まで存続したことが明らかになったことである。その後は低地での居住がみられなくなり、台地のなかだけに居住空間が限定されることになったのであろう。過密な都市的な集住が行われたのであろう。 土器・石器のもつ問題については、今回の報告においては時間的な余裕がないので、次回に機会をつくって検討を行いたい。

最後になったが、発掘調査から今回の報告書作成にあたって多くの人達の支援を受けた。とくに、調査事務所の内業の方々の力強い応援がなければ、本書は形をなすことができなかったと思います。 また、小郡市教育委員会の片岡宏二氏と愛媛大学吉田広氏には実測支援から助言・教示をいただきました。いつも指導をいただいてます原の辻遺跡調査指導委員会の先生方、福岡大学武末純一氏、横山順氏、松永泰彦氏、指導・支援をいただきました多くの皆様方に感謝申し上げて結語とします。

# 報告書抄録

ふりが	なしはる	はるのつじいせき								
書	名 原	原の辻遺跡								
副書	名 幡鉾	幡鉾川流域総合整備計画に係る幡鉾川改修に伴う緊急発掘調査報告書								
巻	次									
シリーズ	名 原の	原の辻遺跡調査事務所調査報告書								
シリーズ番	号 第9	第9集 下巻								
編著者	名宮	宮 崎 貴 夫								
編集機	関 長嶋	長崎県教育委員会								
所 在	在 地 〒850-0861 長崎県長崎市江戸町2番13号 TEL095 (824) 1111									
発 行 年 月 日 西暦1998年 3 月31日										
ふりがな 所収遺跡名	ふり z 所 在	地	市町村	ー ド 遺跡番号	北緯。, "	東経。, "	調査期間	調査面積 m²	調査原因	
は 原 の 注 遺 跡	### ### ### ### ### ### ### ### #######	させる。	42423	93	33°45′39″	129°45′ 7″	19951102 \$ 19960331  19961221  \$ 19970328  19970408  \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$	4,000m <sup>2</sup> 2,532m <sup>2</sup> 2,410m <sup>2</sup>	河川改修 リ	
所収遺跡名	種別	丁;	な時代	主な	遣 構	主	19971213な遺物	<u></u> 特記	事項	
原の辻遺跡	集落・包含地	• 弥生時代		濠 2 条 溝 1 条 旧河道 4 条		弥生土器,石器, 木製品 細形銅剣 石製剣把頭飾 ココヤシ笛		10 444	J. X	

原の辻遺跡調査事務所調査報告書第9集

# 原の辻遺跡(下巻)

1998. 3. 31

発行 長崎県教育委員会 長崎市江戸町2番13号

印刷 株式会社 昭和堂印刷